



Microsoft SharePoint Server 2010 自習書
インターネットサイト公開と会員制サイト構築

著作権

このドキュメントに記載されている情報（URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む）は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものです。実在する名称とは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用をお願いします。マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

2010 Microsoft Corporation. All rights reserved.

SharePoint、Excel、Internet Explorer、は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

目次

1. はじめに	1
1.1 目的	1
1.2 対象製品	1
1.3 略語一覧	1
1.4 システム要件・インストール要件	2
1.4.1 ステージング環境	2
1.4.2 プロダクション環境	3
1.5 前提条件	4
1.5.1 SharePoint Server 2010 の構築オプションの必須条件	4
1.5.2 ActiveDirecotry へのユーザー登録	4
2. 本書におけるシステム構成	5
2.1 ステージング環境とプロダクション環境	5
3. コンテンツ公開までのフロー概要	7
3.1 コンテンツの作成～承認	7
3.2 コンテンツの公開	9
4. インターネット公開までの流れ	10
4.1 コンテンツの作成・承認	10
4.1.1 Web アプリケーションの作成	11
4.1.2 サイトの作成	14
4.1.3 コンテンツの承認	17
4.1.4 ワークフロー	34
4.1.5 バージョン管理	44
4.1.6 タイマー公開	47
4.2 コンテンツの展開	55
4.2.1 プロダクション環境の設定	57
4.2.2 Web アプリケーションの拡張	62
4.2.3 代替アクセス マッピングの構成	64
4.2.4 ステージングからプロダクション環境への展開	67
5. インターネット公開後に活用する機能	80
5.1 多言語サイトの構築	80
5.1.1 言語パックのインストール	81

5.1.2	多言語サイトの設定	89
5.1.3	多言語サイトの利用方法.....	101
5.2	動画コンテンツの配信	105
5.2.1	ストリーミングサーバー (IIS Media Services) の設定.....	106
5.2.2	SharePoint の設定	111
5.2.3	動画コンテンツの再生	114
5.3	ログ管理.....	119
5.3.1	閲覧ログの表示	120
5.3.2	検索ログの表示	123
6.	インターネット上での会員制サイトとしての利用方法	125
6.1	認証方法の設定	126
6.1.1	認証方法の比較	126
6.1.2	Windows 認証の設定.....	127
6.1.3	Form 認証の設定	129
6.2	属性ごとに異なるコンテンツを表示	164
6.2.1	ユーザープロフィールへ属性を登録	165
6.2.2	コンテンツの作成	168
6.2.3	表示の確認.....	175
6.3	属性ごとに異なる検索結果を表示	177
6.4	属性情報のインポート	179
6.4.1	外部コンテンツタイプの作成	179
6.4.2	ユーザー プロパティの作成	185

1. はじめに

1.1 目的

SharePoint Server 2010 は統合的な情報共有基盤として、ポータルやグループウェア、コンテンツ管理、エンタープライズ検索といった機能を提供します。また、Web コンテンツの作成から公開までを行う Web コンテンツ管理 (WCM) 機能も利用できます。Web コンテンツ管理機能を使うと、SharePoint サーバーをイントラネットやエクストラネット、インターネット用 Web 公開サーバーとして利用することができます。

本自習書では、SharePoint Server 2010 を用いて、Web コンテンツを作成し、インターネットに公開するまでの手順を説明します。

併せて、商品販売サイト (EC サイト) のように、インターネット上に会員制サイトを構築する方法も説明します。

本書では、コンピューター名やドメイン名を下表のように決めて作業します。

構成要素	名称
ステージング環境	
SharePoint サーバー	SPSVR
ドメインコントローラー	ADSVR
Windows ドメイン	somecorp.local (SOMECORP)
プロダクション環境	
SharePoint サーバー	T-SP
ドメインコントローラー	T-AD
Windows ドメイン	tempuri.local (TEMPURI)

1.2 対象製品

本書では下記製品を使用します。

- **Microsoft SharePoint Server 2010**

1.3 略語一覧

本書では便宜的に下表の略語を使用している箇所があります。

正式名称	略語
Microsoft SharePoint Server 2010	SharePoint Server
SharePoint Server が稼働する Windows PC	SharePoint サーバー

1.4 システム要件・インストール要件

ActiveDirectory のシステム要件やインストール要件については、次の URL を参照してください。

AD DS のインストールに関する要件

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc771188\(WS.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc771188(WS.10).aspx)

SharePoint Server のシステム要件やインストール要件については、次の URL を参照してください。

ハードウェア要件およびソフトウェア要件(SharePoint Server 2010)

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc262485.aspx>

FAST Search Server のシステム要件やインストール要件については、次の URL を参照してください。

Prepare for installation (FAST Search Server 2010 for SharePoint)

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/ff381239.aspx>

参考情報

本書を記述する際に使用した環境は下記の通りです。

1.4.1 ステージング環境

SharePoint サーバー

コンピューター名	SPSVR
サーバー OS	Windows Server 2008 R2 (x64)
SQL Server	SQL Server 2008 SP1 + 更新プログラム (KB970315、KB976761)
SharePoint Server	1 台ヘファームインストール
Office Web Applications	(特記事項なし)
ドメイン名	somecorp.local
メモリ	6000 MB

Active Directory

コンピューター名	ADSVR
サーバー OS	Windows Server 2008 R2 (x64)
サーバーの役割	Active Directory Domain Controller、DNS
ドメイン名	somecorp.local
ドメイン機能レベル	Windows Server 2003 ネイティブ
メモリ	1000 MB

1.4.2 プロダクション環境

SharePoint サーバー

コンピューター名	T-SP
サーバー OS	Windows Server 2008 R2 (x64)
SQL Server	SQL Server 2008 SP1 + 更新プログラム (KB970315、KB976761)
SharePoint Server	1 台へファームインストール
Office Web Applications	(特記事項なし)
ドメイン名	tempuri.local
メモリ	6000 MB

Active Directory

コンピューター名	T-AD
サーバー OS	Windows Server 2008 R2 (x64)
サーバーの役割	Active Directory Domain Controller、DNS
ドメイン名	tempuri.local
ドメイン機能レベル	Windows Server 2003 ネイティブ
メモリ	1000 MB

1.5 前提条件

SharePoint Server をインストールするための前提となる条件を示します。

1.5.1 SharePoint Server 2010 の構築オプションの必須条件

- SharePoint Server 2010 のライセンスは Enterprise であること
- SharePoint Server 2010 の構成はファーム構成であること

1.5.2 ActiveDirecotry へのユーザー登録

- 以下の情報でユーザーが登録されていること

表示名	ユーザー ログオン名	本書での役割
システム アカウント	Administrator	システム管理者
作成者	author	コンテンツ作成者
承認者	approver	コンテンツ承認者
閲覧者	viewer	コンテンツ閲覧者
会員ユーザー1～9	User 1～user 9	会員ユーザー

[注] 通常、SharePoint のシステム アカウントを Administrator で構成することはセキュリティ上好ましくありませんが、本書では簡略化のために Administrator を用いています。SharePoint ファーム展開時のサービス アカウントの構成については、下記ドキュメントを参照ください。

「SharePoint Server 2010 自習書 インストールガイド」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/ff358322.aspx>

「管理アカウントおよびサービス アカウント (SharePoint Server 2010)」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ee662513.aspx>

2. 本書におけるシステム構成

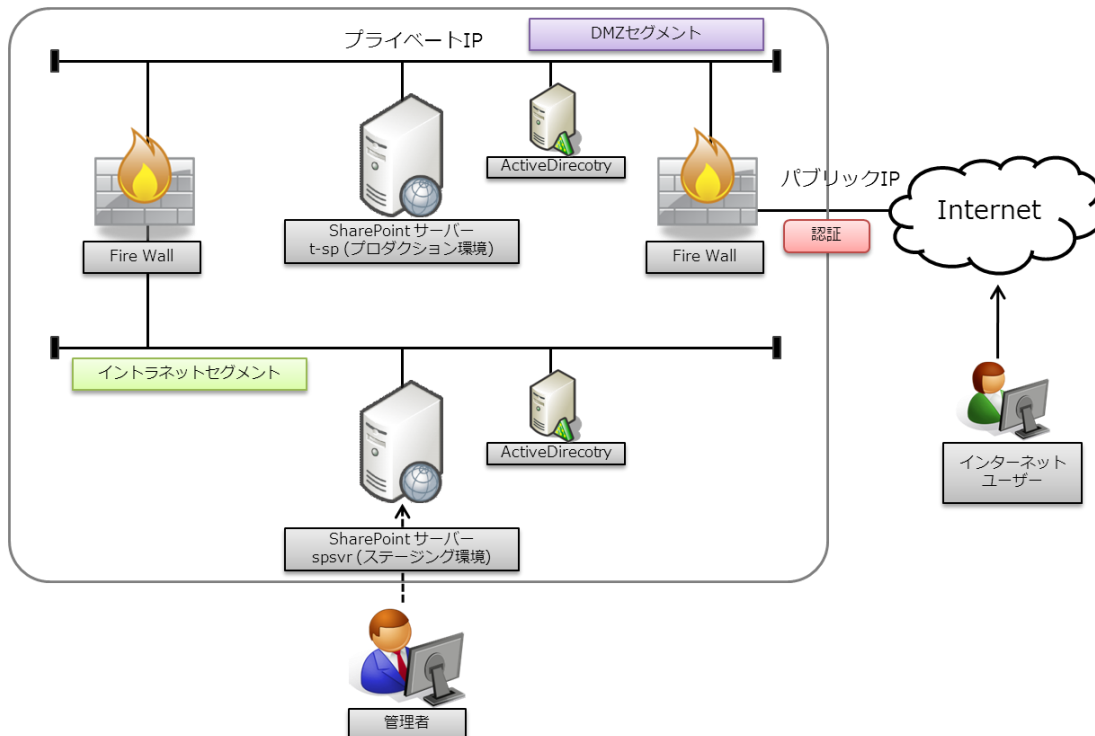
Web サイトをインターネット公開するまでには、ガバナンスの観点から、コンテンツの作成～承認を経て、公開を行う手順が一般的です。ここでは、これらを一連の作業を行うための環境について説明します。

2.1 ステージング環境とプロダクション環境

SharePoint サーバーとして、ステージング環境とプロダクション環境の2台を用意します。ステージング環境はイントラネットセグメントに置き、コンテンツの作成～承認を行う「サイト開発・検証用」として利用します。一方、プロダクション環境はDMZ セグメントに配置し、サイトをインターネット公開するための「サイト公開用」として利用します。

本書では SharePoint サーバーをステージング環境とプロダクション環境にそれぞれ1台ずつ配置していますが、これは最小構成です。実際には Web サイトにアクセスするユーザー数や同時アクセスユーザー数により SharePoint サーバーを複数台配置して負荷分散を行うシステム構成とします。

環境名	配置セグメント	用途
ステージング環境	イントラネット	サイト開発・検証用（コンテンツ作成および承認を行う）
プロダクション環境	DMZ	サイト公開用（インターネット公開を行う）



[注] 上の図では SQL サーバーは記載していませんが、SharePoint サーバーに含まれるものとします。

一般的に Web サイトをインターネット公開する場合、ファイアウォールを使用してウィルスの侵入や不正なアクセスから Web サーバー（ここでは、SharePoint サーバー）を保護する必要があります。インターネットとプロダクション環境の間のファイアウォールは主にリバースプロキシとして利用され、インターネットからイントラネットへのアクセスを中継します。一方、プロダクション環境とステージング環境の間のファイアウォールはルーターとして利用します。

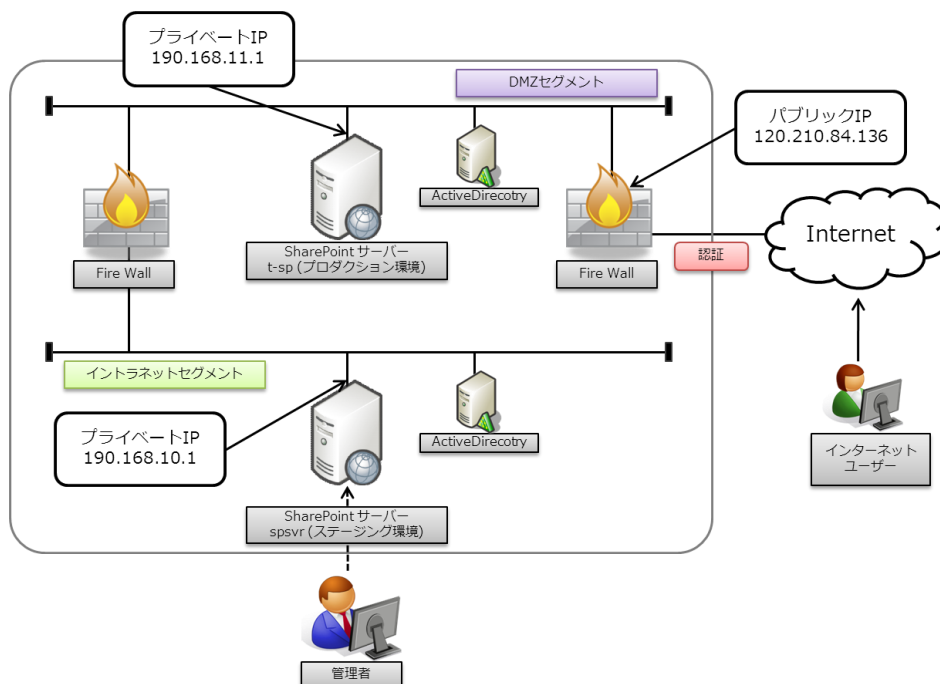
補足：今回の検証環境について

本書では、ステージング環境とプロダクション環境の URL は以下の通り設定されていることを前提とします。

環境名	URL	IP アドレス
ステージング環境	http://spsvr:80/	190.168.10.1
プロダクション環境（内部用）	http://t-sp:80/	190.168.11.1
プロダクション環境（公開用）	http://t-sp:8080/ http://www.sharepoint.co.jp/	190.168.11.1 120.210.84.136

以下の図のように、インターネットからアクセスできる IP アドレス（パブリック IP アドレスまたはグローバル IP アドレス）はファイアウォールのインターネット側のネットワークインターフェースにのみ割り当て、内部ネットワークまたは DMZ はプライベート IP アドレスを使用します。
これにより、インターネットからは IP パケットを直接送受信できないようにします。

インターネットユーザーがアクセスする IP アドレス（この例では、120.210.84.136）と公開する SharePoint サーバーの IP アドレス（190.168.11.1）のネットワークアドレス変換はファイアウォールが行います。

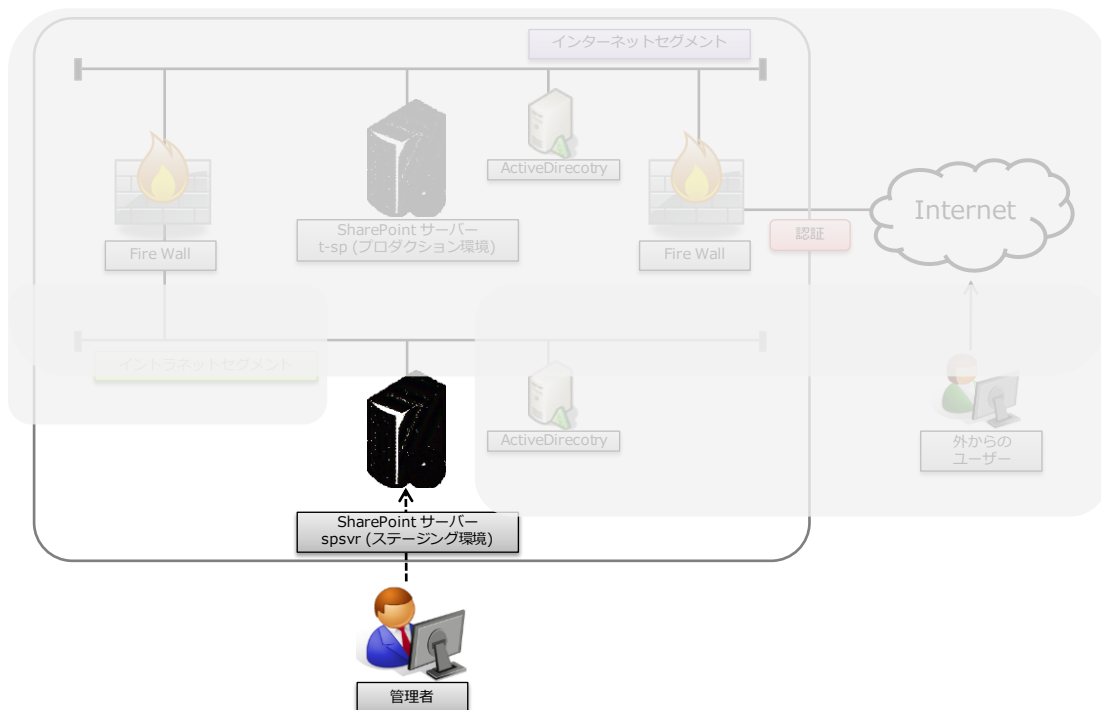


3. コンテンツ公開までのフロー概要

本章では、4章で説明するコンテンツの作成～承認、公開の一連の作業の流れを説明します。
実際の手順は4章を参照願います。

3.1 コンテンツの作成～承認

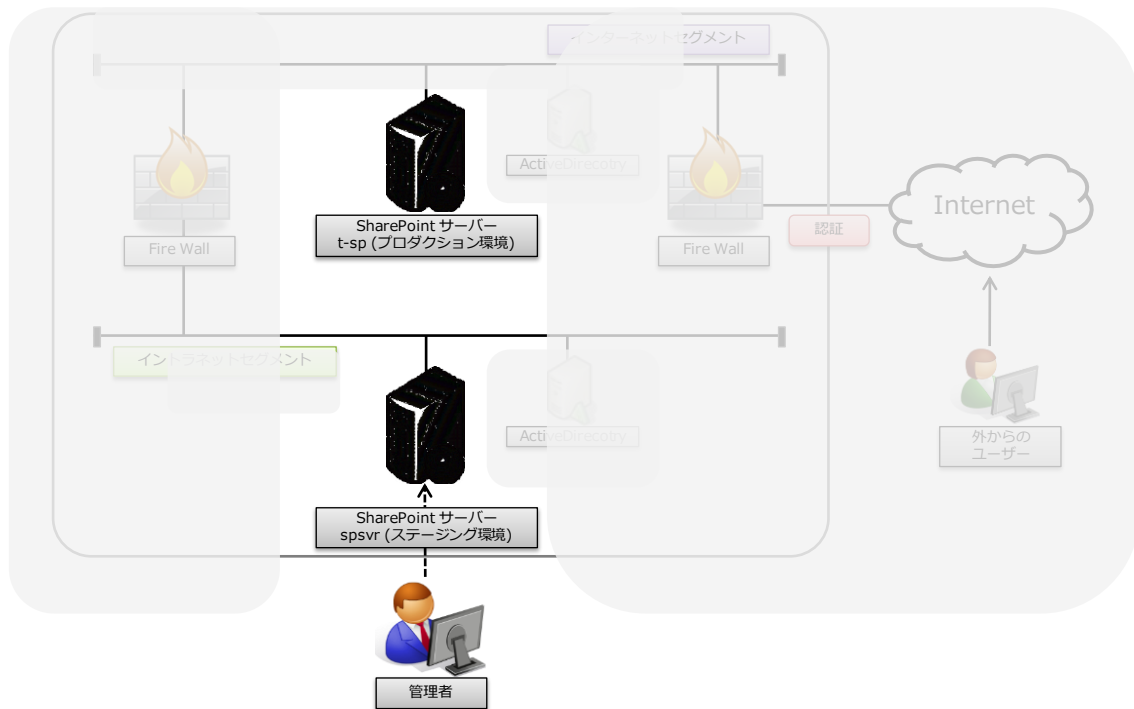
まず初めに、4.1章ではコンテンツの作成～承認の手順を説明します。
コンテンツ作成～承認はステージング環境で行います。



作業名	作業内容	該当章
コンテンツの作成	コンテンツを作成する準備作業として、ステージング環境において Web アプリケーションの作成、サイトの作成を行います。本書では、サイトの作成を行った後、サイトの編集（文字色の変更）をもって、コンテンツの作成とします。	4.1.1 4.1.2 4.1.3 サイトの編集
コンテンツの承認	作成されたコンテンツの承認/却下を行います。承認すれば、そのコンテンツが閲覧できるようになります。ただし、ここではコンテンツ承認者を明示的に指定できません（承認担当者に依頼の都度連絡する必要があります）。 一方、ワークフローを使った承認も可能です。ワークフローを使うと、コンテンツの承認担当者を指定して、承認を依頼することができます。	4.1.3 4.1.4
その他の機能	コンテンツを変更した履歴を管理するバージョン管理機能、公開開始日と終了日を指定してコンテンツ公開期間を限定するタイマー公開機能を使うことができます。	4.1.5 4.1.6

3.2 コンテンツの公開

続いて 4.2 章では、コンテンツの公開を説明します。コンテンツ公開はステージング環境からプロダクション環境に対して、コンテンツを展開することにより行います。



作業名	作業内容	該当章
コンテンツの公開	コンテンツを公開する準備作業として、プロダクション環境において Web アプリケーションの作成および拡張、代替アクセスパスの設定を行います。その後で、ステージング環境からプロダクション環境に対して、コンテンツを展開します。これにより、コンテンツをインターネット公開することができます。	4.2

4. インターネット公開までの流れ

SharePoint Server を Web コンテンツ管理 (WCM) として利用し、インターネット上でサイト公開する方法を説明します。

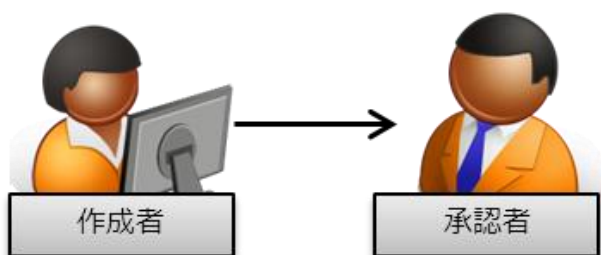
ここでは、コンテンツの作成～承認を経て、公開するまでの手順を説明します。

日本語サイトと英語サイトのように、多言語サイトを構築する場合には、「5.1 多言語サイトの構築」から始めてください。

4.1 コンテンツの作成・承認

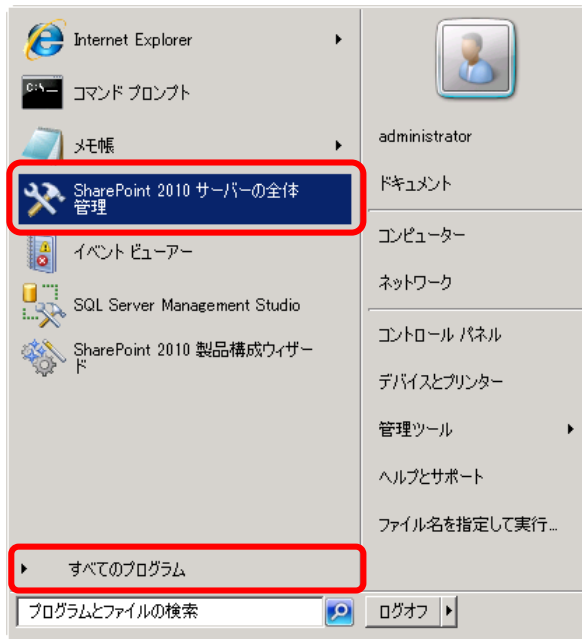
ここでは、コンテンツの作成方法と承認方法を説明します。通常、Web サイトの作成において、コンテンツの作成者とコンテンツの承認者は別のユーザーとします。そうすることにより、作成されたコンテンツの間違いを承認者が見つけることができるからです。ここでは、コンテンツ作成者、承認者、閲覧者の SharePoint グループを作り、権限を与えます。

コンテンツを作成する準備作業として、ステージング環境において Web アプリケーションの作成、サイトの作成を行います。本書では、サイトの作成を行った後、作成者がサイトの編集（文字色の変更）を行うことをコンテンツの作成とします。承認者は作成されたコンテンツの承認/却下を行います。承認すれば、そのコンテンツが閲覧できるようになります。ただし、ここではコンテンツ承認者を明示的に指定できません（承認担当者に依頼の都度連絡する必要があります）。その場合にはワークフローを使用します。ワークフローを使うと、コンテンツの承認担当者を指定して、承認を依頼することができます。



4.1.1 Web アプリケーションの作成

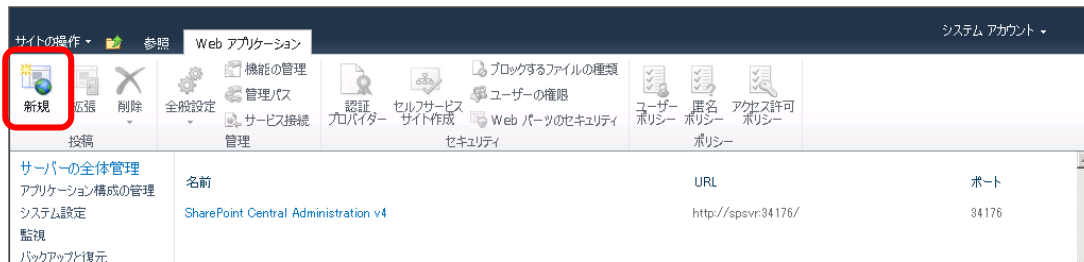
1. [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] - [Microsoft SharePoint 2010 Products] - [SharePoint 2010 サーバーの全体管理] をクリックします。



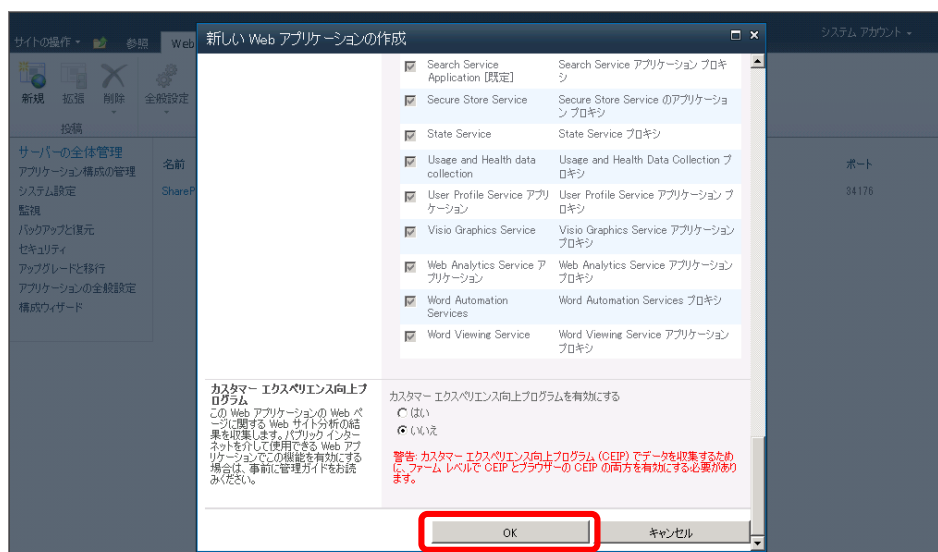
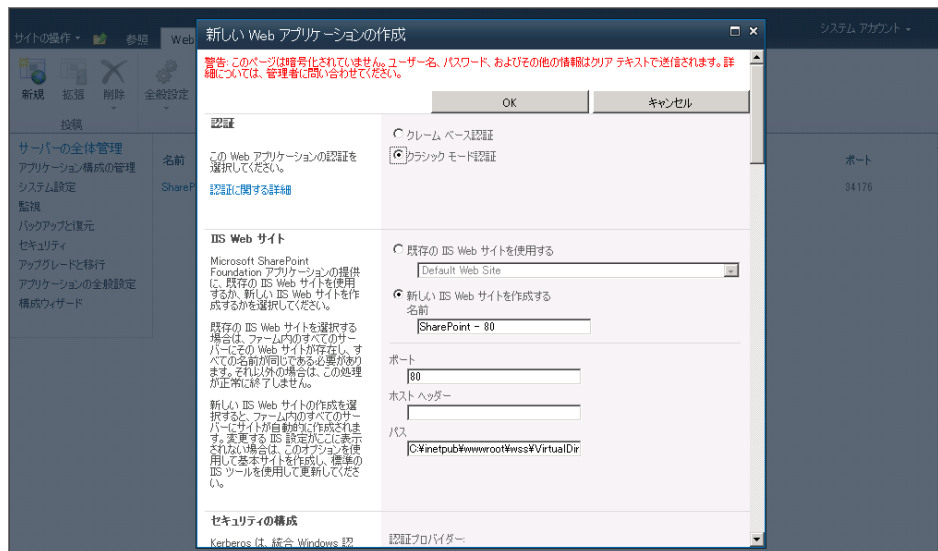
2. [アプリケーション構成の管理] - [Web アプリケーションの管理] をクリックします。



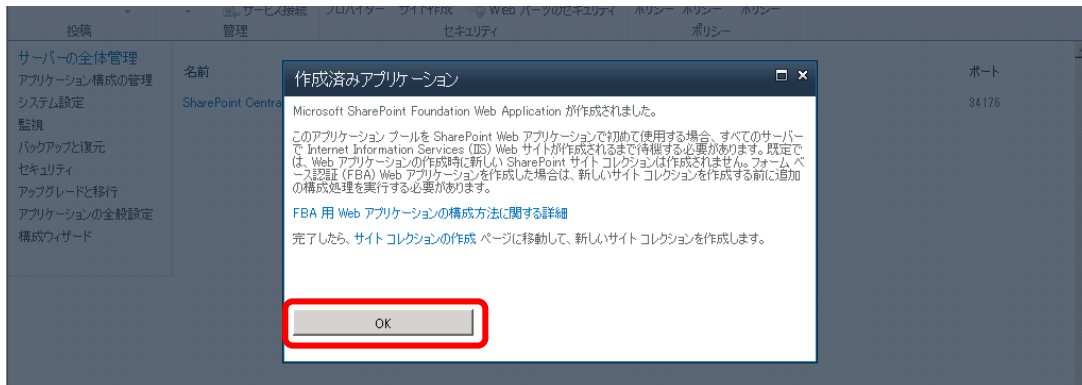
3. [新規] メニューをクリックします。



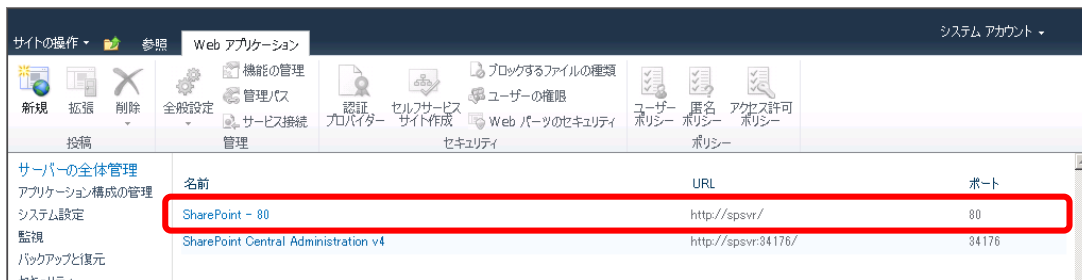
4. 既定の状態で、[OK] をクリックします。 ここでは新しい IIS Web サイト「SharePoint - 80」 が作成されます。



5. 次の画面が表示されたら、[OK] をクリックします。



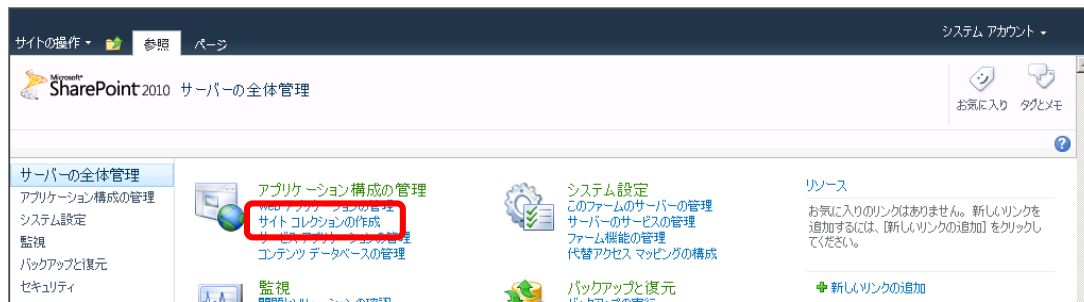
6. Web アプリケーションの一覧に、「SharePoint - 80」が追加されたことを確認します。



4.1.2 サイトの作成

ここでは情報を簡単に管理、作成、共有するチーム用サイト [チームサイト] を作成します。

1. [アプリケーション構成の管理] - [サイト コレクションの作成] をクリックします。



2. [タイトルと説明] の [タイトル] に任意のタイトル名を入力し、[テンプレートの選択] から[グループ作業] - [チーム サイト] をクリックし、その他の項目に任意の文字を入力します。

各項目に入力した後、[OK] をクリックします。

サイトの操作

システム アカウント

サーバーの全体管理

サーバーの全体管理

アプリケーション構成の管理

システム設定

監視

バックアップと復元

セキュリティ

アップグレードと移行

アプリケーションの全般設定

構成ウィザード

サーバーの全体管理

Web アプリケーション

Web アプリケーションを選択してください。

新しい Web アプリケーションを作成するには、[新しい Web アプリケーション] ページに移動します。

Web アプリケーション: <http://spsvr/>

タイトルと説明

新しいサイトのタイトルと説明を入力してください。タイトルは、サイトの各ページに表示されます。

タイトル:

説明:

Web サイトのアドレス

URL 名と URL パスを指定して新しいサイトを作成するか、またはパスを選択してサイトを作成します。

新しい URL パスを追加するには、[管理パスの定義] ページに移動します。

URL: <http://spsvr/>

テンプレートの選択

サイト テンプレートによって、新しいサイトで使用可能なリストと機能が決まります。各テンプレートの説明と新しいサイトの使用目的を基にサイト テンプレートを選択してください。サイトを作成した後でもサイトの多くの部分をカスタマイズできますが、サイト テンプレートは変更できません。

テンプレートの選択

グループ作業 会議 エンタープライズ 発行 ユーザー設定

チーム サイト

空のサイト

ドキュメント ワークスペース

ブログ

グループワーク サイト

Visio フロセス リポトリ

情報を簡単に管理、作成、共有するチーム用サイトです。ドキュメント ライブラリや、お知らせ、予定表、タスク、ディスカッションを管理するリストが用意されています。

サイト コレクション管理者

このサイト コレクションの管理者を指定してください。ログインできるのは 1 ユーザーのみです。セキュリティ グループはサポートされていません。

ユーザー名:

代理のサイト コレクション管理者

必要に応じて、代理のサイト コレクション管理者を指定してください。ログインできるのは 1 ユーザーのみです。セキュリティ グループはサポートされていません。

ユーザー名:

クォータ テンプレート

定義済みのクォータ テンプレートを選択して、このサイト コレクションで使用するリソースを制限します。

新しいクォータ テンプレートを追加するには、クォータ テンプレートの管理 ページに移動します。

クォータ テンプレートの選択

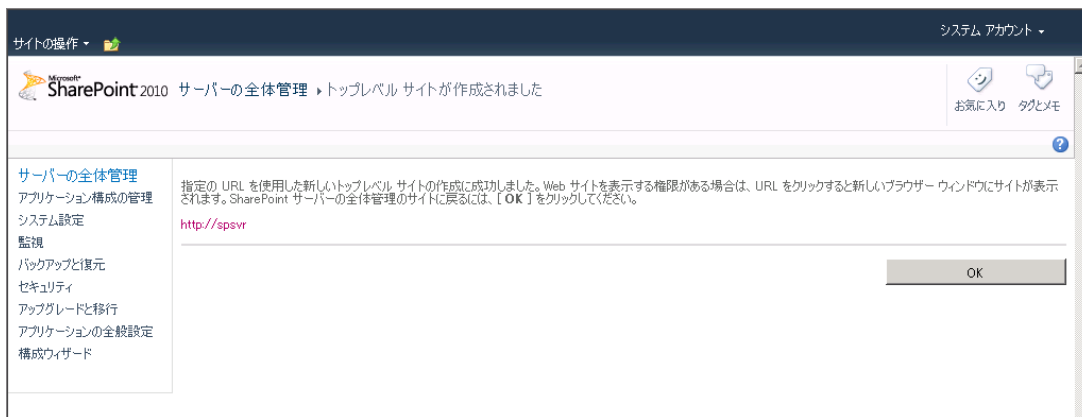
[クォータなし](#)

記憶域の制限

招待するユーザー数:

OK キャンセル

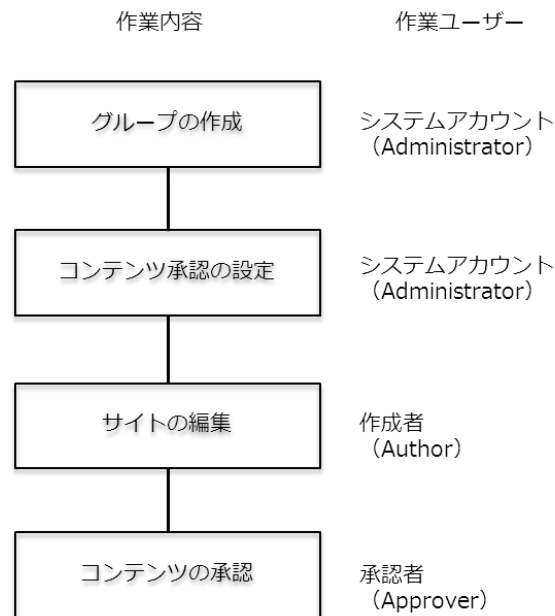
3. トップレベル サイトが作成されたことを確認します。



4.1.3 コンテンツの承認

コンテンツの承認は以下の手順で行います。

まず、コンテンツの作成者、承認者、閲覧者用の SharePoint グループを作成します。続いて、サイトの設定でコンテンツ承認機能を有効にします。そして、実際にサイトの編集を行い、編集されたサイトを承認します。



グループの作成

ここでは、以下のユーザーに SharePoint グループ権限を付与します。

ユーザー名	SharePoint グループ名	付与するグループ権限	本書での役割
approver	承認者	デザイン	コンテンツ承認者
author	作成者	投稿	コンテンツ作成者
viewer	閲覧者	閲覧	コンテンツ閲覧者

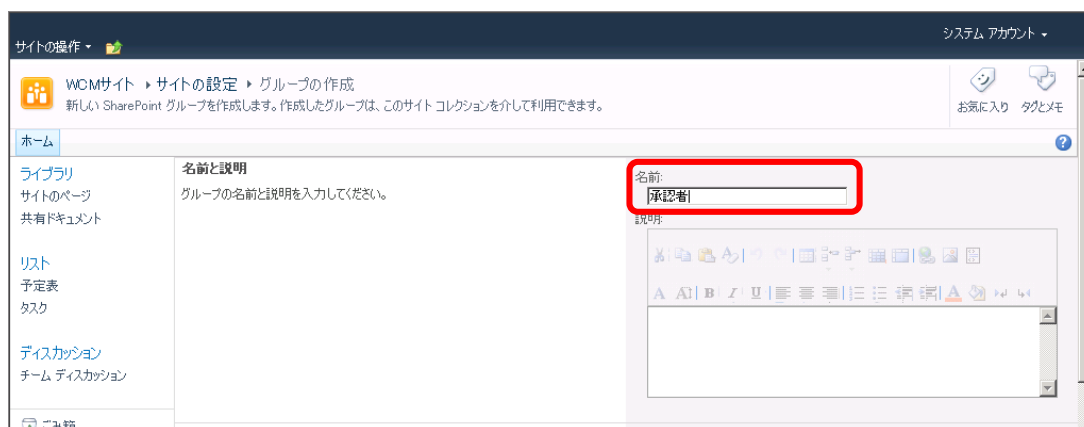
1. [サイトの操作] - [サイトの権限] をクリックします。



2. [グループの作成] をクリックします。



3. [名前と説明] [名前] に [承認者] と入力します。



4. [このサイトのグループ権限の付与] の [デザイン] チェックボックスをオンにします。
[作成] をクリックします。

サイトの操作

システム アカウント

グループ メンバーのリストの閲覧権限を持つユーザーと、グループに対するメンバーの追加および削除権限を持つユーザーを指定してください。

メンバーシップ要求

このグループへの参加と脱退を要求することをユーザーに許可するかどうかを指定してください。すべての要求は指定された電子メールアドレスに送信されます。自動承認が有効になっている場合、ユーザーは要求と同時に自動的に参加または脱退できます。

警告: 要求の自動承認オプションで「はい」を選択した場合、このグループへのアクセスを要求するユーザーは、グループのメンバーとして自動的に追加され、グループに関連付けられたアクセス許可レベルを取得します。

このグループに対する参加/脱退の要求を許可する

☐ はい ☒ いいえ

要求を自動的に承認する

☐ はい ☒ いいえ

次の電子メールアドレスにメンバーシップ要求を送信します:

グループ メンバーに付与する、このサイトでのアクセス許可レベル: http://spsvr

☐ コールアウトロール - 完全な制御が可能です。

☒ デザイン - 表示、追加、更新、削除、承認、カスタマイズができます。

☐ 投稿 - リスト アイテムとドキュメントを表示、追加、更新、および削除できます。

☐ 閲覧 - ページとリスト アイテム の表示、およびドキュメントのダウンロードができます。

表示のみ - ページ、リスト アイテム、ドキュメントを表示できます。サーバー側のファイル ハンドラーを備えた種類のドキュメントは、ブラウザーで表示できますが、ダウンロードはできません。

作成 キャンセル

5. 作成した [承認者] グループにユーザーを追加します。ユーザーを追加することによって追加されたユーザーに [承認者] グループの権限が付与されます。

[新規] [ユーザーの追加] をクリックします。

サイトの操作

システム アカウント

WCMサイト > サイトの設定 > ユーザーとグループ - 承認者

ホーム

このサイトを検索...

グループ

WCMサイトのメンバー

表示者

WCMサイトの閲覧者

WCMサイトの所有者

承認者

その他...

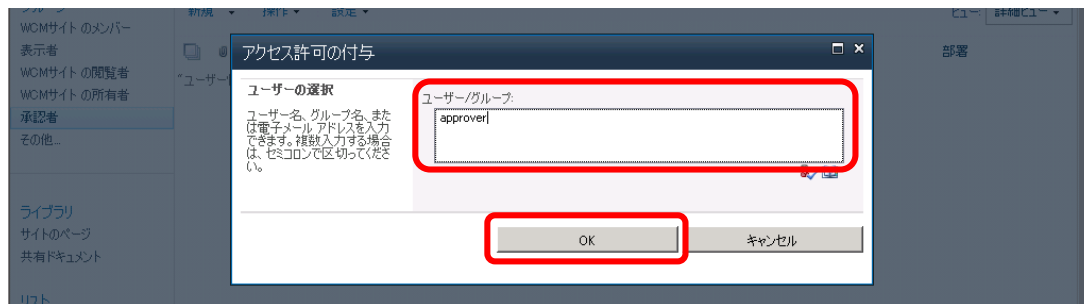
新規 操作 設定

ユーザーの追加
このグループにユーザーを追加します。

説明 役職 部署

詳細ビュー

6. [ユーザー/グループ] にユーザー名 [approver] と入力し、[OK] をクリックします。



7. [承認者] グループに [承認者] ユーザーが作成されました。



8. 同様に [作成者] グループを作成します。

[名前と説明] [名前] に [作成者]、[このサイトのグループ権限の付与] の [投稿] チェックリストをオンにします。

[作成] をクリックします。

サイトの操作 システム アカウント

WCMサイト > サイトの設定 > グループの作成
新しい SharePoint グループを作成します。作成したグループは、このサイト コレクションを介して利用できます。

ホーム

ライブラリ
サイトのページ
共有ドキュメント

リスト
予定表
タスク

ディスカッション
チーム ディスカッション

ごみ箱
すべてのサイト コンテンツ

名前と説明
グループの名前と説明を入力してください。

名前:

説明

所有者
所有者は、メンバーの追加や削除、グループの削除など、グループに関する設定を変更できます。所有者になれるのは、1 人のユーザーまたは 1 つのグループのみです。

グループの所有者
システム アカウント

グループ設定
グループ メンバーのリストの閲覧権限を持つユーザーと、グループに対するメンバーの追加および削除権限を持つユーザーを指定してください。

グループのメンバーシップを表示できるユーザー
☒ グループ メンバー ☐ すべてのユーザー

グループのメンバーシップを編集できるユーザー
☒ グループの所有者 ☐ グループ メンバー

メンバーシップ要求
このグループへの参加と脱退を要求することをユーザーに許可するかどうかを指定してください。すべての要求は指定された電子メール アドレスに送信されます。自動承認が有効になっている場合、ユーザーは要求と同時に自動的に参加または脱退できます。
警告: 要求の自動承認オプションで [はい] を選択した場合、このグループへのアクセスを要求するユーザーは、グループのメンバーとして自動的に追加され、グループに関連付けられたアクセス許可レベルを取得します。

このグループに対する参加/脱退の要求を許可する
☐ はい ☒ いいえ

要求を自動的に承認する
☒ はい ☐ いいえ

次の電子メール アドレスにメンバーシップ要求を送信します:

このサイトのグループ権限の付与
このサイトでこの SharePoint グループのメンバーに与えるアクセス許可レベルを指定してください。このサイトに対するアクセス権をグループ メンバーに与えない場合は、すべてのチェック ボックスをオフにしてください。

グループ メンバーに付与する、このサイトでのアクセス許可レベル: http://spsvr

☐ フル コントロール - 完全な制御が可能です。

☐ 投稿 - 表示、追加、更新、削除、承認、およびダウンロード

☒ 投稿 - リスト アイテムとドキュメントを表示、追加、更新、および削除できます。

☐ 閲覧 - ページとリスト アイテム の表示、およびドキュメントのダウンロードができます。

☐ 表示のみ - ページ、リスト アイテム、ドキュメントを表示できます。サーバー側のファイル ハンドラーを備えた種類のドキュメントは、ブラウザーで表示できますが、ダウンロードはできません。

作成 キャンセル

9. 同じく [閲覧者] グループを作成します。

[名前と説明] [名前] に [閲覧者]、[このサイトのグループ権限の付与] の [閲覧] チェックリストをオンにします。

[作成] をクリックします。

サイトの操作 システム アカウント

WCMサイト > サイトの設定 > グループの作成
新しい SharePoint グループを作成します。作成したグループは、このサイト コレクションを介して利用できます。

ホーム

ライブラリ
サイトのページ
共有ドキュメント

リスト
予定表
タスク

ディスカッション
チーム ディスカッション

ごみ箱
すべてのサイト コンテンツ

名前と説明
グループの名前と説明を入力してください。

名前:

説明

所有者
所有者は、メンバーの追加や削除、グループの削除など、グループに関する設定を変更できます。所有者になれるのは、1 人のユーザーまたは 1 つのグループのみです。

グループの所有者
システム アカウント

グループ設定
グループ メンバーのリストの閲覧権限を持つユーザーと、グループに対するメンバーの追加および削除権限を持つユーザーを指定してください。

グループのメンバーシップを表示できるユーザー
☒ グループ メンバー ☐ すべてのユーザー

グループのメンバーシップを編集できるユーザー
☒ グループの所有者 ☐ グループ メンバー

メンバーシップ要求
このグループへの参加と脱退を要求することをユーザーに許可するかどうかを指定してください。すべての要求は指定された電子メール アドレスに送信されます。自動承認が有効になっている場合、ユーザーは要求と同時に自動的に参加または脱退できます。
警告: 要求の自動承認オプションで [はい] を選択した場合、このグループへのアクセスを要求するユーザーは、グループのメンバーとして自動的に追加され、グループに関連付けられたアクセス許可レベルを取得します。

このグループに対する参加/脱退の要求を許可する
☐ はい ☒ いいえ

要求を自動的に承認する
☒ はい ☐ いいえ

次の電子メール アドレスにメンバーシップ要求を送信します:

このサイトのグループ権限の付与
このサイトでこの SharePoint グループのメンバーに与えるアクセス許可レベルを指定してください。このサイトに対するアクセス権をグループ メンバーに与えない場合は、すべてのチェック ボックスをオフにしてください。
サイト権限の割り当ての表示

グループ メンバーに付与する、このサイトでのアクセス許可レベル: http://spsvr

☐ フル コントロール - 完全な制御が可能です。

☐ デザイン - 表示、追加、更新、削除、承認、カスタマイズができます。

☐ 投稿 - リスト アイテムとドキュメントを表示、追加、更新、および削除できます。

☒ 閲覧 - ページとリスト アイテム の表示、およびドキュメントのダウンロードができます。

☐ 表示のみ - ページ、リスト アイテム、ドキュメントを表示できます。サードパーティのファイル ハンドラーを備えた種類のドキュメントは、ブラウザで表示できますが、ダウンロードはできません。

作成 キャンセル

コンテンツ承認の設定

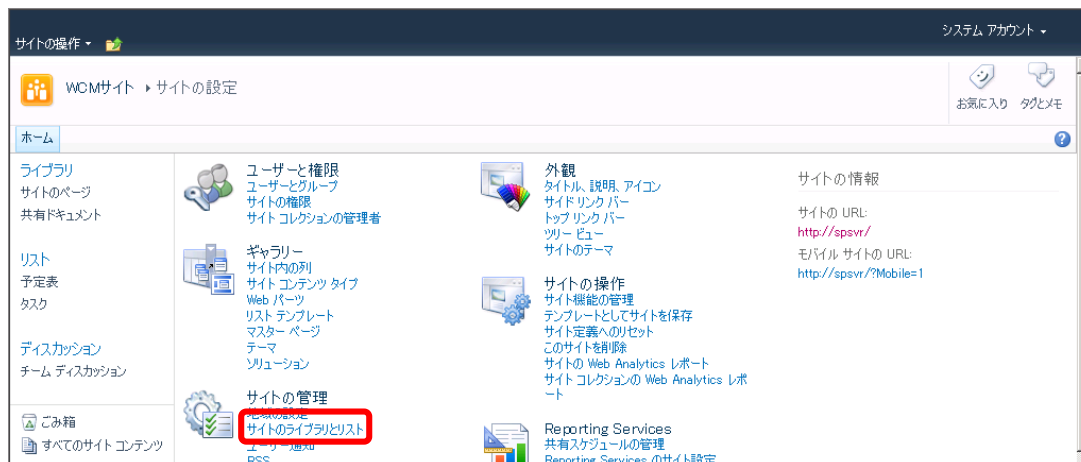
1. 先ほど作成したサイトにアクセスします。



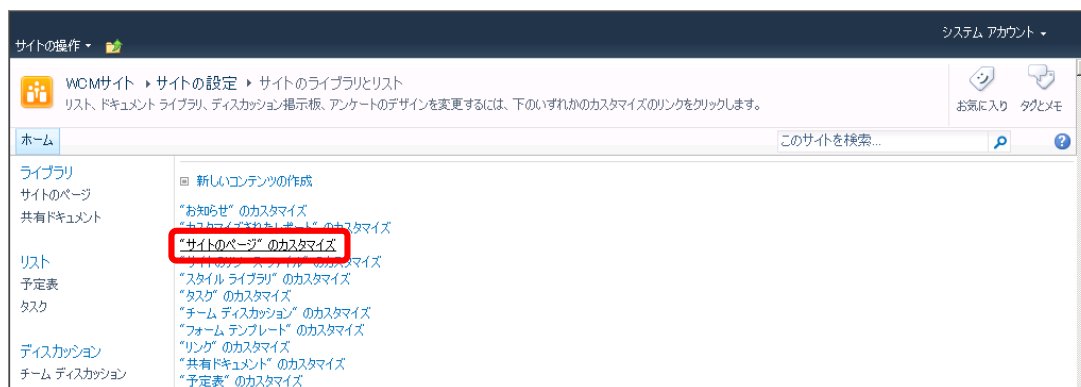
2. [サイトの操作] – [サイトの設定] をクリックします。



3. [サイトの管理] - [サイトのライブラリとリスト] をクリックします。



4. ["サイトのページ" のカスタマイズ] をクリックします。



今回は **サイトのページ ライブラリ** で設定を行いますが、その他のライブラリやリストでも同様のことが出来ます。

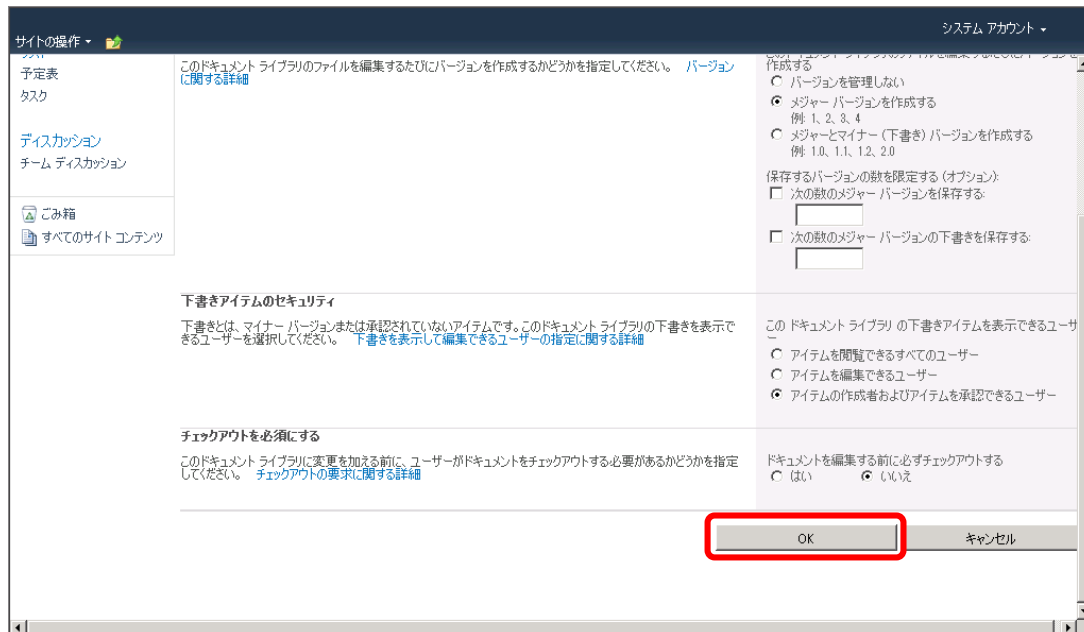
5. [全般設定] - [バージョン設定] をクリックします。



6. [コンテンツの承認] の [はい] をオンにします。



7. その他の項目を既定の状態で、[OK] をクリックします。



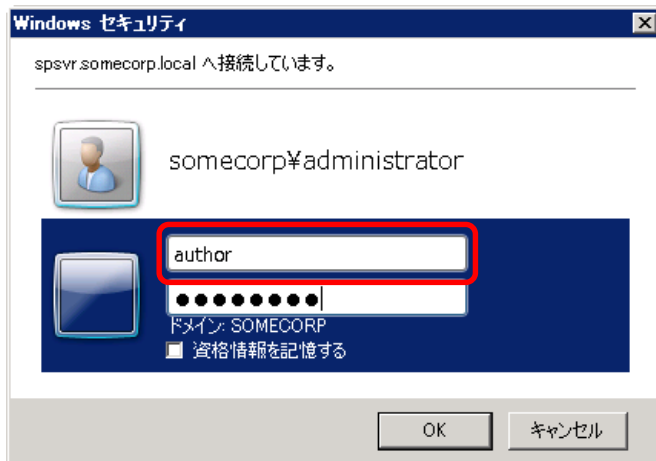
8. [ライブラリ] - [サイトのページ] をクリックします。 列の項目に [承認の状況] が追加されていることを確認します。



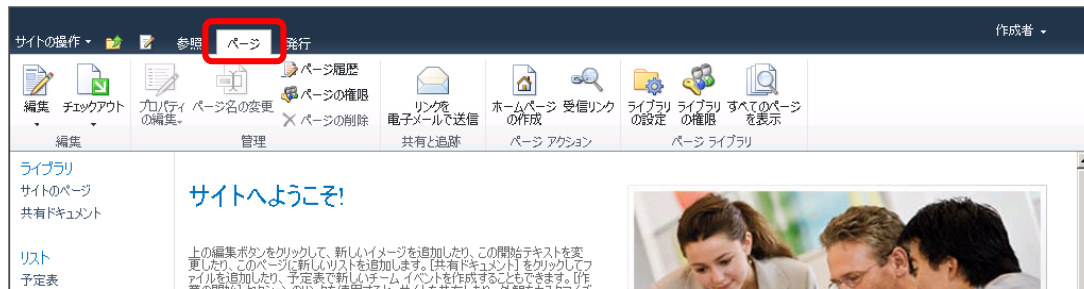
サイトの編集

サイトを編集し、それを他のユーザーが承認する手順を紹介します。

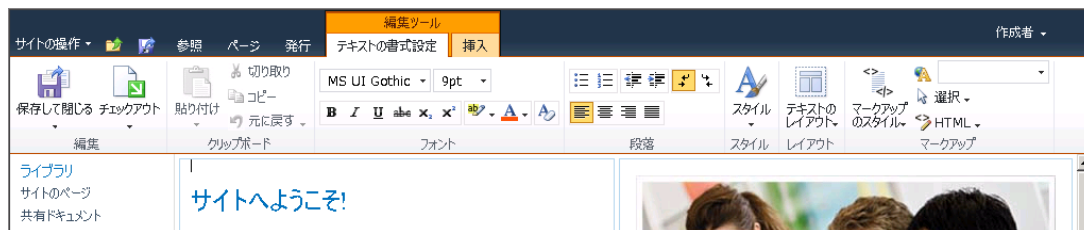
1. コンテンツの作成者 (author) でログインします。



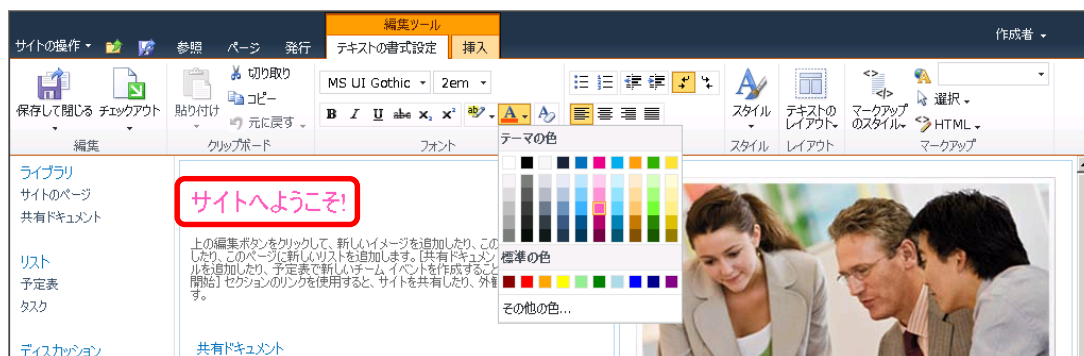
2. [ページ] メニューをクリックします。



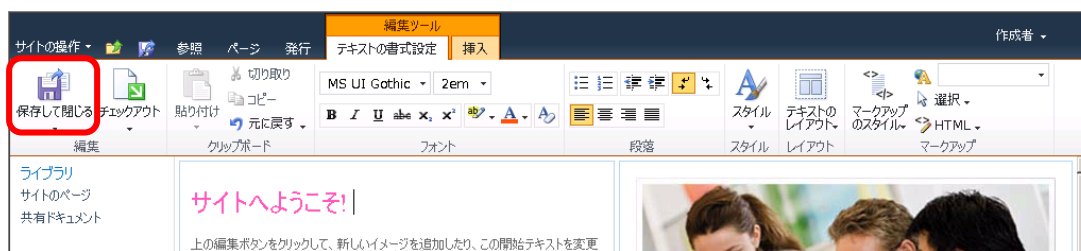
3. [編集] メニューをクリックします。



4. 本文中の「サイトへようこそ!」の文字色を任意の色に変更します。 「サイトへようこそ!」の文字を選択し、パレットで任意の色を選びます。



5. [保存して閉じる] メニューをクリックします。



6. 「状態：承認待ち」の帯が表示されたことを確認します。

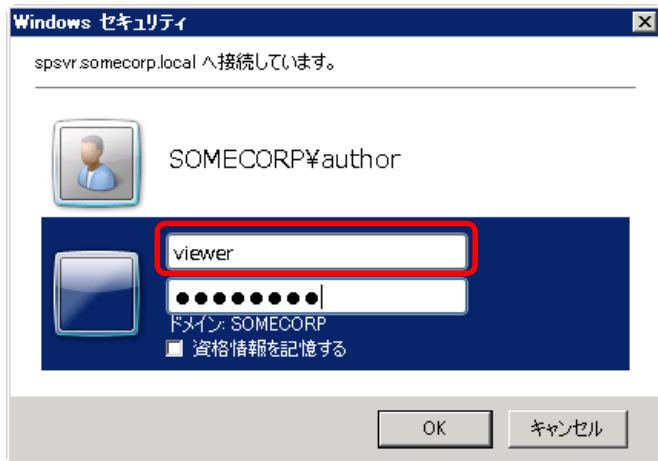


7. [ライブラリ] - [サイトのページ] をクリックします。「Home」の [承認の状況] が、「承認待ち」になっていることを確認します。



コンテンツの承認

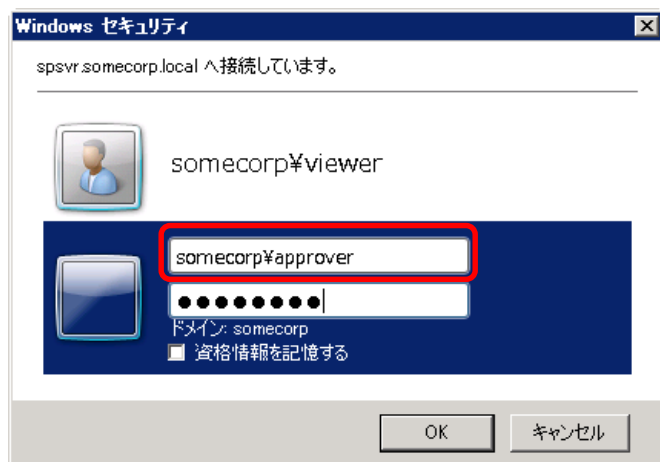
1. コンテンツの閲覧者 (viewer) でログインします。
ここでは、コンテンツ承認完了前にはコンテンツの変更が反映されていないことを確認します。



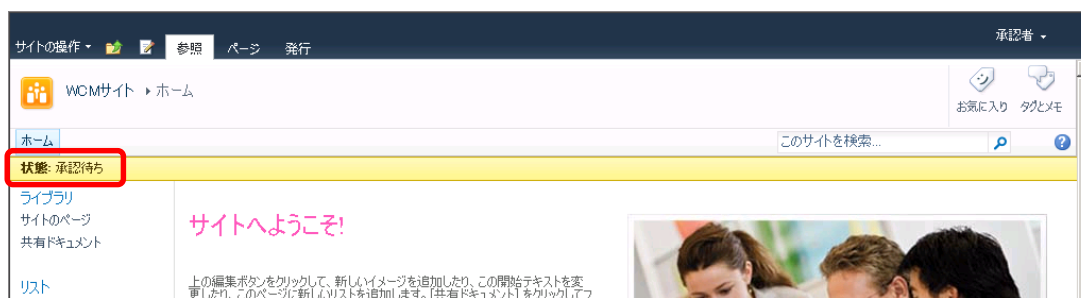
2. サイトの編集がまだ承認されていないので、本文中の「サイトへようこそ!」の文字色が変更されていないことを確認します。



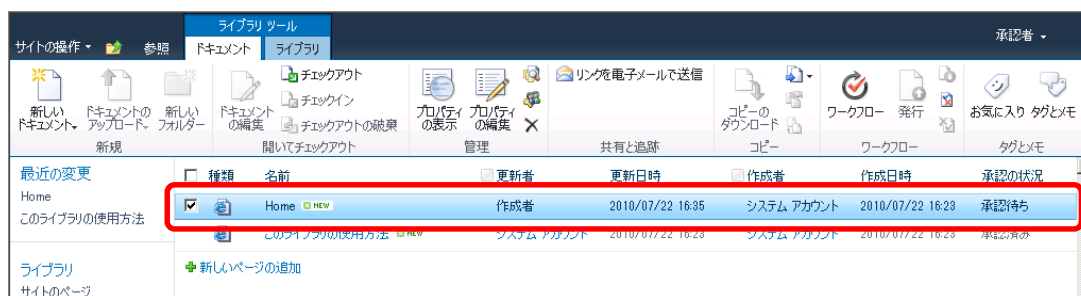
3. 先ほどの変更を承認するため、コンテンツの承認者 (approver) でログインします。



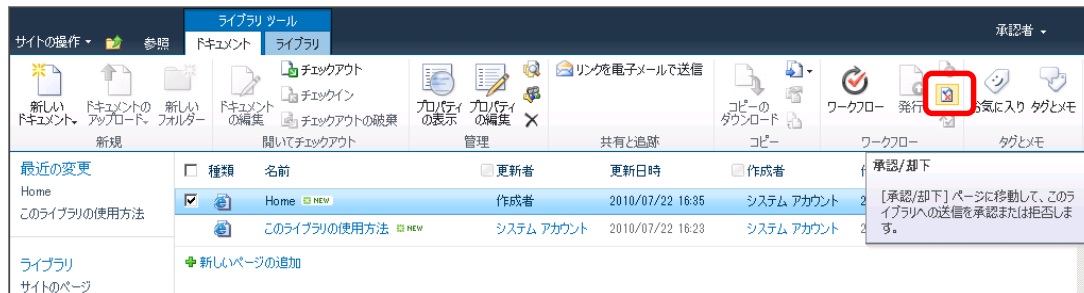
4. 「状態：承認待ち」と表示されていることを確認します。



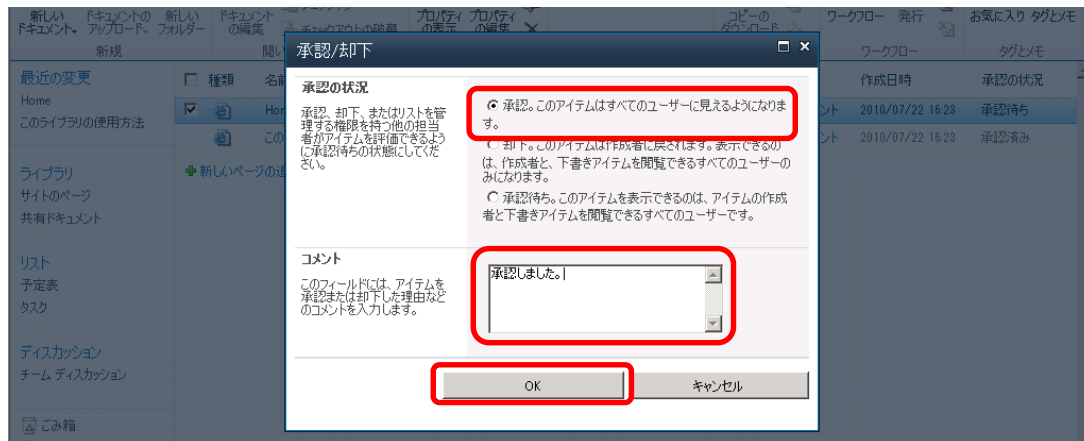
5. [ライブラリ] - [サイトのページ] をクリックします。「Home」のチェックをオンにします。



6. [承認/却下] のアイコンをクリックします。



7. [承認の状況] の「承認。このアイテムはすべてのユーザーに見えるようになります。」をオン、[コメント] に任意のコメントを入力し、[OK] をクリックします。



8. 「Home」の[承認の状況]が、「承認済み」になっていることを確認します。



9. コンテンツ承認により変更内容は反映されていることを確認するため、コンテンツの閲覧者 (viewer) でログインします。



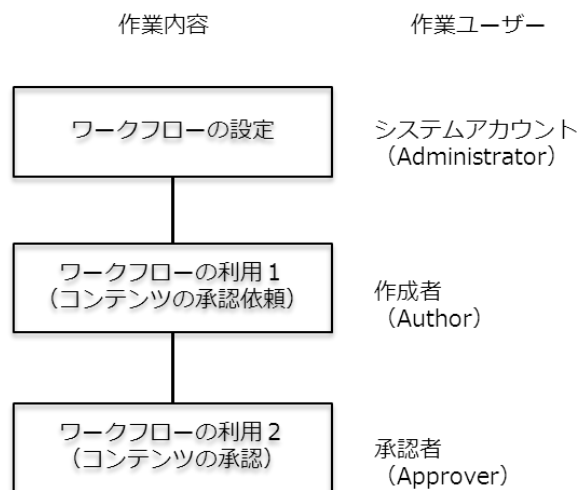
10. 本文中の「サイトへようこそ!」の文字色が変更されていることを確認します。



4.1.4 ワークフロー

ワークフローを使い、コンテンツ作成者がコンテンツ承認者に承認を依頼することができます。

コンテンツの承認では承認依頼をする度に、承認担当者に口頭で連絡する必要がありました。このワークフローを使うと、コンテンツの承認担当者を指定して承認を依頼することができますので、承認担当者に口頭で連絡する必要がありません。通常、Web サイトの作成において、ガバナンスの観点からコンテンツの作成者とコンテンツの承認者は別のユーザーとします。その場合にはこのワークフローを使い、承認者を指定して承認依頼することをおすすめします。



ワークフローの詳細は、下記ドキュメントを参照願います。

「Microsoft SharePoint Server 2010, Visio 2010 ワークフロー開発ガイド」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/ff358322.aspx>

ワークフローの設定

1. [サイトの操作] - [サイトの設定] - [サイトの管理] - [サイトのライブラリとリスト] - ["サイトのページ"のカスタマイズ] をクリックします。



2. [ワークフロー設定] - [ワークフローの追加] をクリックします。



3. [ワークフロー] の [ワークフロー テンプレートの選択] の [承認 - SharePoint2010] をクリックします。
[名前] の [このワークフローに付ける名前を入力してください (重複不可)] に [承認ワークフロー] と入力
します。

[次へ] をクリックします。

システムのアカウント

サイトの操作

WCMサイト > サイトのページ > ドキュメント ライブラリ の設定 > ワークフローの追加

このページを使用して、このドキュメント ライブラリにワークフローを設定します。

お気に入りに タグとメモ

ホーム

ライブラリ
サイトのページ
共有ドキュメント

リスト
予定表
タスク

ディスカッション
チーム ディスカッション

タスク リスト
すべてのサイト コンテンツ

ワークフロー
このドキュメント ライブラリに追加するワークフローを選択してください。目的のワークフロー テンプレートが表示されていない場合は、そのワークフロー テンプレートの サイト コレクションまたはワークスペースへの追加を管理者に依頼してください。

ワークフロー テンプレートの選択
承認 - SharePoint 2010

説明
ドキュメントを承認に出します。承認担当者は、ドキュメントの承認と却下、承認タスクの割り当て、ドキュメントに対する変更の要求ができます。

名前
このワークフローに付ける名前を入力してください (重複不可)
承認ワークフロー

タスク リスト
このワークフローで使用するタスク リストを選択してください。既存のタスク リストを選択することも、新しいタスク リストの作成を要求することもできます。

タスク リストの選択
タスク

説明
タスク リストを使用して、個人やチーム間で行う作業の進捗状況を管理します。

履歴リスト
このワークフローで使用する履歴リストを選択してください。既存の履歴リストを選択することも、新しい履歴リストの作成を要求することもできます。

履歴リストの選択
ワークフローの履歴 (新規)

説明
このワークフローで使用する新しい履歴リストが作成されます。

開始オプション
このワークフローを開始する方法を指定してください。

☒ アイテムの編集権限を持つ認証済みユーザーが、このワークフローを手動で開始できるようにする
☐ ワークフローの開始にリストの管理権限を要求する

☐ アイテムのメジャー バージョンの発行を承認するために、このワークフローを開始する

☐ 新しいアイテムが作成されたら、このワークフローを開始する

☐ アイテムが変更されたら、このワークフローを開始する

次へ キャンセル

4. [コンテンツの承認の有効化] チェックボックスをオンにして、[保存] をクリックします。

サイトの操作

WCMサイト > サイトのページ > ドキュメント ライブラリの設定 > ワークフローの変更 > 発行の承認ワークフロー

ワークフローの関連付けを完了するには、以下のフォームの送信ボタンを使用します。

ホーム このサイトを検索...

承認者

割り当て先	順序
approver1	1 人ずつ参加 (順次)

☒ 新しいステップの追加
ワークフローでタスクの割り当て先となるユーザーの名前を入力し、タスクの割り当て順を選択してください。複数入力する場合は、セミコロンで区切ります。ステップを追加して、より多くのユーザーに異なる順序でタスクを割り当てすることもできます。

グループの展開 ☒ 入力した各グループのメンバー全員にタスクを割り当てます。

依頼

このメッセージは、タスクが割り当てられたユーザーに送信されます。

すべてのタスクの期限

すべてのタスクの期限です。

タスクごとの期間

タスクの期限までの期間です。[期間の単位] を使用して単位を選択してください。

期間の単位

日
[タスクごとの期間] で使用する単位を定義します。

CC

これらのユーザーにワークフローの開始および終了を通知します。タスクの割り当ては行いません。

最初の却下時に終了 ☐ 参加者が却下したドキュメントを、自動的に却下します。

ドキュメントの変更時に終了 ☐ ワークフローの完了前に変更されたドキュメントを自動的に却下します。

コンテンツの承認の有効化 ☒ ワークフローの完了後に承認状態を更新します (このワークフローを使用してコンテンツの承認を制御します)。

保存 キャンセル

ここで、[コンテンツの承認の有効化] チェックボックスをオンにしておくことによって、ワークフローと承認機能が連携されます。

5. [承認ワークフロー] が追加されています。

サイトの操作

WCMサイト > サイトのページ > ドキュメント ライブラリの設定 > ワークフロー設定

このページを使用して、このドキュメントライブラリのワークフローの設定を表示または変更します。ワークフローを追加または削除することもできます。既存のワークフローに対する変更は、既に進行中のワークフローには適用されません。

ホーム

ライブラリ
サイトのページ
共有ドキュメント

リスト
予定表
タスク

ディスカッション
チーム ディスカッション

ワークフロー

☒ ワークフロー名 (クリックして設定変更)

承認ワークフロー

進行中のワークフロー

0

これらのワークフローは、この種類のアイテムで実行するように構成されています:
すべて

(別の種類を選択すると、そのコンテンツ タイプの [ワークフロー設定] ページに移動します)

- ワークフローの追加
- ワークフローの削除
- ワークフロー レポートの表示

ワークフローの利用

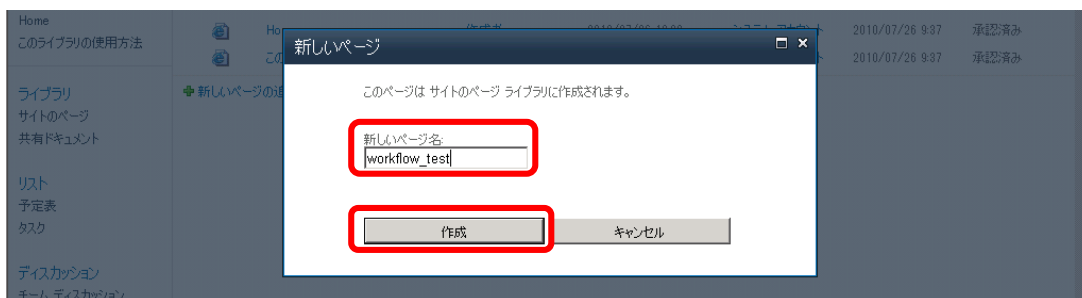
1. コンテンツの作成者 (author) でログインします。



2. [サイトのページ] - [新しいページの追加] をクリックします。



3. [新しいページ名] に [workflow_test] と入力し、[作成] をクリックします。



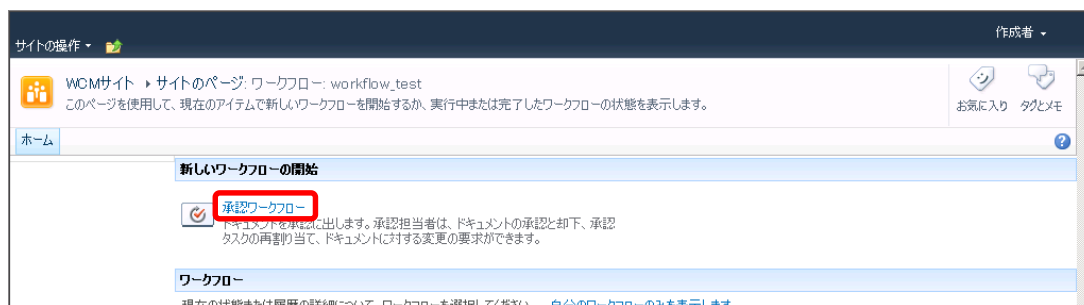
4. [サイトのページ] をクリックし、すべてのページを表示します。



5. [workflow_test] チェックボックスをオンにして、[ワークフロー] をクリックします。

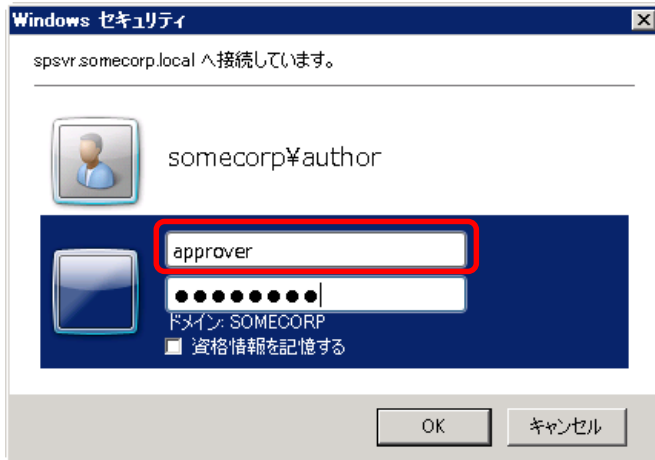


6. [新しいワークフローの開始] - [承認ワークフロー] をクリックします。



三ノ宮ビルヂング

9. 次の承認をするために、コンテンツの承認者 (approver) でログインします。



10. [サイトのページ] を開き、[workflow_test] チェックボックスをオンにして、[ワークフロー] をクリックします。



11. [実行中のワークフロー] の [承認ワークフロー] をクリックします。



12. [タスク] の [タイトル] - [workflow_test を承認してください] をクリックします。

The screenshot shows the 'Workflow Task List' in SharePoint 2010. The 'workflow_test' task is highlighted with a red box. The task details are as follows:

タスク	担当者	タイトル	期限	状態	関連するコンテンツ	結果
<input type="checkbox"/>	承認者	workflow_test を承認してください		未開始	workflow_test	

13. [ワークフロー タスク] の [承認] をクリックします。

The screenshot shows the 'Workflow Task' dialog box. The '承認' (Approve) button is highlighted with a red box. The dialog box contains the following information:

- ワークフロー タスク**
- アイテムの削除**
- このワークフロー タスクは workflow_test に適用されます。
- 状態**: 未開始
- 依頼者**: 作成者
- 統合されたコメント**: 作成者 が 2010/08/03 20:39 に 承認 を開始しました
コメント: 依頼者および以前の参加者全員のコメントです。
- 期限**:
- コメント**:
- このメッセージは返信に含まれます。
- 承認** (highlighted with a red box) | 却下 | キャンセル | 変更の依頼 | タスクの再割り当て

14. [ワークフロー情報] の [状態] が「承認済み」になっています。

[タスク] - [workflow_test を承認してください] の [結果] が「承認済み」になっています。

ワークフロー情報

開始者: 作成者
開始: 2010/08/03 20:39
前回の実行: 2010/08/03 20:41

ドキュメント: workflow_test
状態: 承認済み

タスク

次のタスクが、このワークフローの参加者に割り当てられました。編集するには、タスクをクリックしてください。これらのタスクは、リスト [タスク](#) にも表示されています。

承認者	タイトル	期限	状態	関連するコンテンツ	結果
承認者	workflow_test を承認してください	NEW	完了	workflow_test	承認済み

15. [サイトのページ] を開き、[承認の状況] が「承認済み」になっていることを確認します。

サイトのページ

このライブラリを使用して、このサイトでページを作成し、保存します。

種類	名前	更新者	更新日時	作成者	作成日時	承認の状況	承認ワークフロー
workflow_test	workflow_test	作成者	2010/08/03 20:41	作成者	2010/08/03 20:37	承認済み	承認済み
Home	Home	作成者	2010/07/26 10:32	システム アカウント	2010/07/26 9:37	承認済み	
このライブラリの使用方法	このライブラリの使用方法	システム アカウント	2010/07/26 9:37	システム アカウント	2010/07/26 9:37	承認済み	

4.1.5 バージョン管理

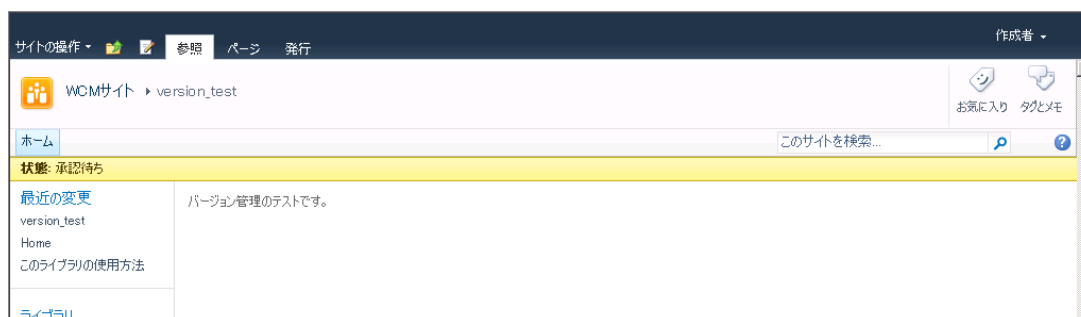
バージョン管理を利用すると、サイトが変更されたときに、それらを保存、管理、復元することができます。これにより、たとえば現在のサイトのページで間違いが見つかった場合に以前のバージョンに戻すことができます。

ここではページを変更した後、ひとつ前のバージョンに復元し、変更前の状態に戻します。

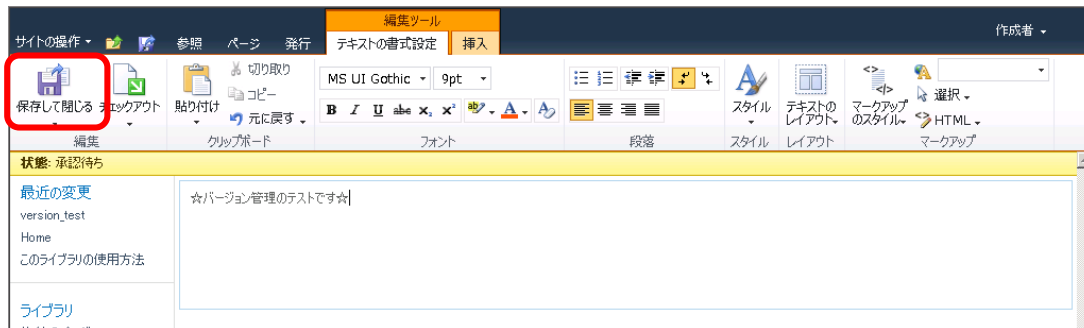
1. [version_test] をクリックします。



2. version_test の内容が表示されます。変更します。



3. [ページ] - [編集] をクリックします。
適宜変更した後、[保存して閉じる] をクリックします。



4. [サイトのページ] 画面で [version_test] の▼をクリックし、さらに [バージョン履歴] をクリックします。



5. [version_test] のバージョン履歴が表示されます。



6. さきほどのバージョンをやめ、1つ前のバージョンを復元します。
 1つ前のバージョンの更新日時▼をクリックし、[復元] をクリックします。
 確認のダイアログ ボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。



7. バージョンの番号が新たに振られ、内容は復元したバージョンと同様になります。



8. [サイトのページ] 画面で [version_test] をクリックし、表示が復元したバージョンと同じであることを確認します。



4.1.6 タイマー公開

Web サイトのページやコンテンツは通常は常時表示されるものがほとんどです。ただ、商品のキャンペーンサイトのよう、公開期間を決めて表示する場合があります。そのような場合に、タイマー公開機能を用いて、サイトの公開開始日と終了日を指定することができます。

タイマー公開の設定

1. タイマー機能を使用するために [SharePoint Server 発行インフラストラクチャ] と [SharePoint Server 発行機能] をアクティブにします。

[サイトの操作] - [サイトの設定] - [サイト コレクションの管理] [サイト コレクションの機能]をクリックします。
[SharePoint Server 発行インフラストラクチャ] が「アクティブ」になっていることを確認します。



2. [サイトの操作] - [サイトの設定] - [サイト機能の管理] をクリックします。
[SharePoint Server 発行機能] が「アクティブ」になっていることを確認します。



3. [サイトの操作] - [サイトの設定] - [サイトのライブラリとリスト] - ["ページ" のカスタマイズ] - [バージョン設定] をクリックします。



4. [コンテンツの承認] の [送信されたアイテムに対してコンテンツの承認も必須にする] の [はい] をオンにします。[OK] をクリックします。

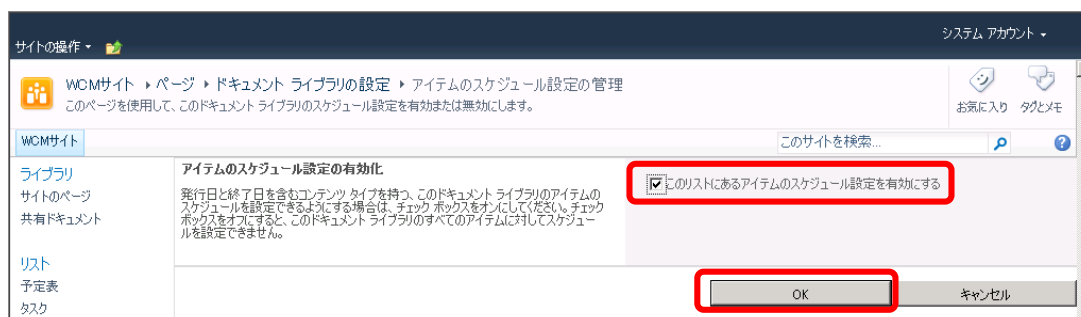


5. [アイテムのスケジュール設定の管理] をクリックします。



6. [アイテムのスケジュール設定の有効化] の [このリストにあるアイテムのスケジュール設定を有効にする] をチェックします。

[OK] をクリックします。

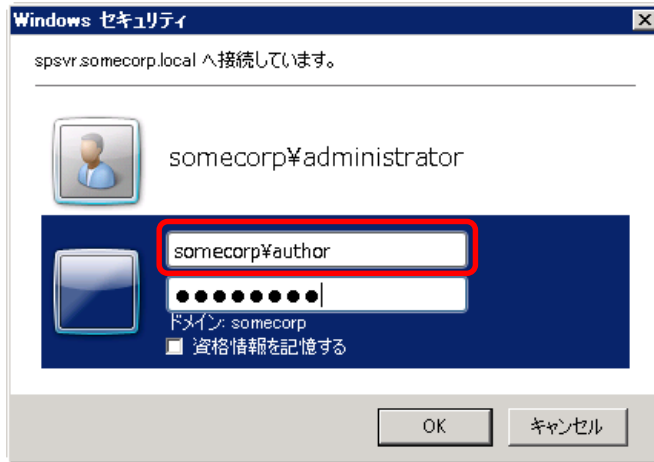


7. 見出しに [スケジュールの開始日] [スケジュールの終了日] が追加されています。

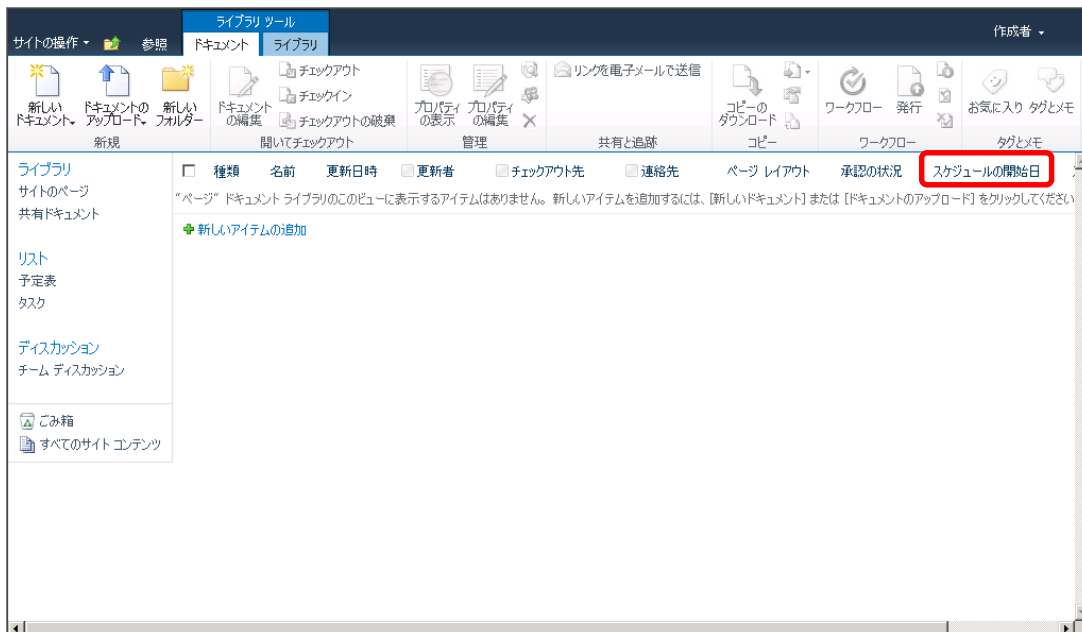


タイマー公開の実行

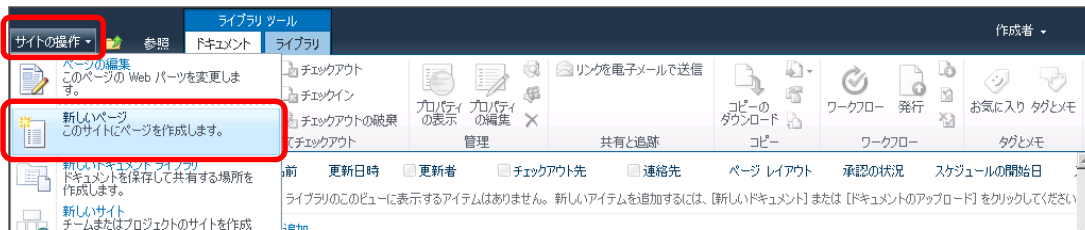
1. コンテンツの作成者 (author) でログインします。



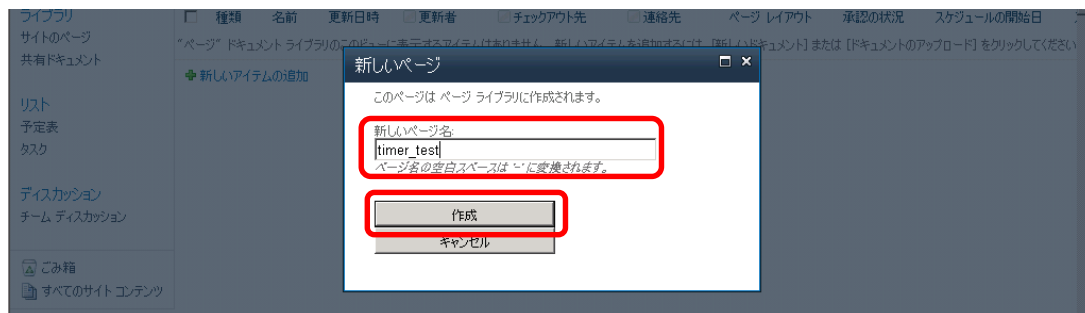
2. 作成者でログインした時にも、見出しに [スケジュールの開始日] [スケジュールの終了日] が追加されています。



3. [サイトの操作] - [新しいページ] をクリックします。



4. [新しいページ名] に「timer_test」と入力し、[作成] をクリックします。



5. [timer_test] が作成されました。

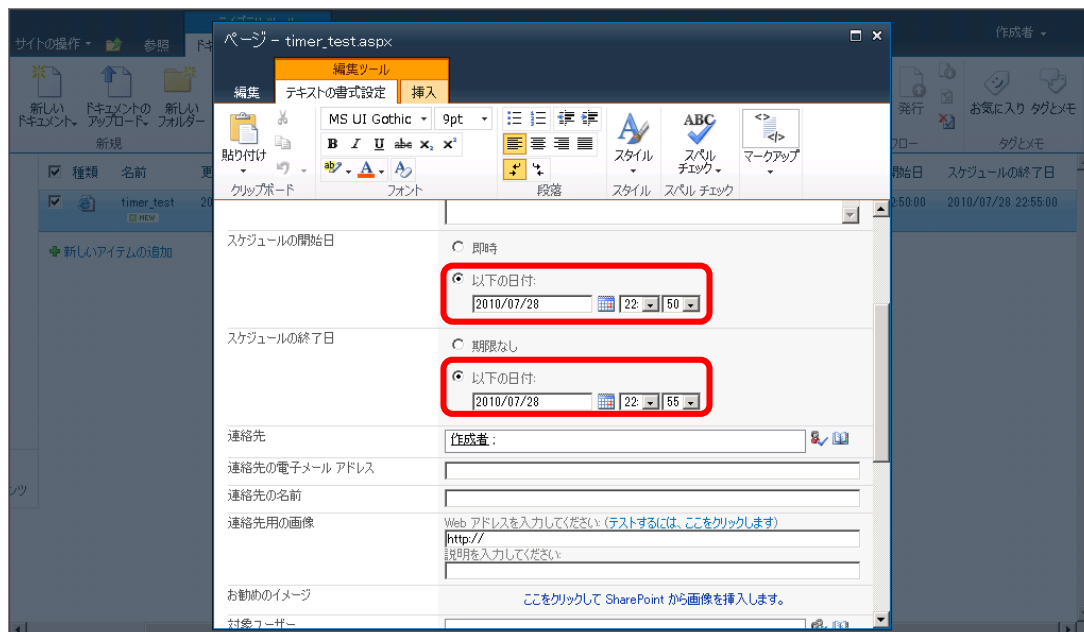


6. [timer_test] のプロパティを編集します。
[timer_test] の▼をクリックし、[プロパティの編集] をクリックします。



7. [スケジュールの開始日] の [以下の日付] をチェックし、任意の開始日を入力します。
同じく、[スケジュールの終了日] の [以下の日付] をチェックし、任意の終了日を入力します。
[保存] をクリックします。

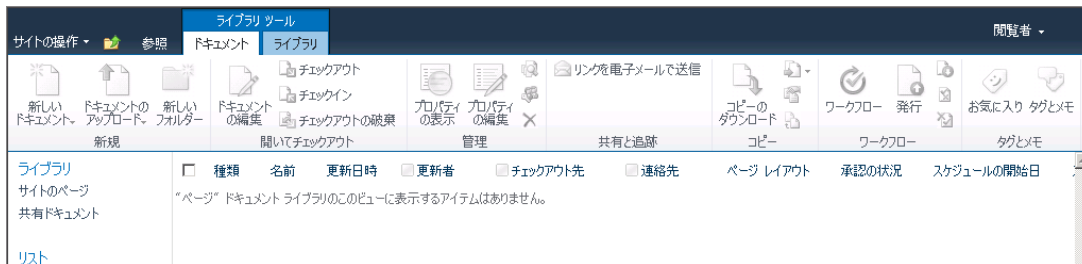
[timer_test] ページは設定されたスケジュール内だけ表示されます。



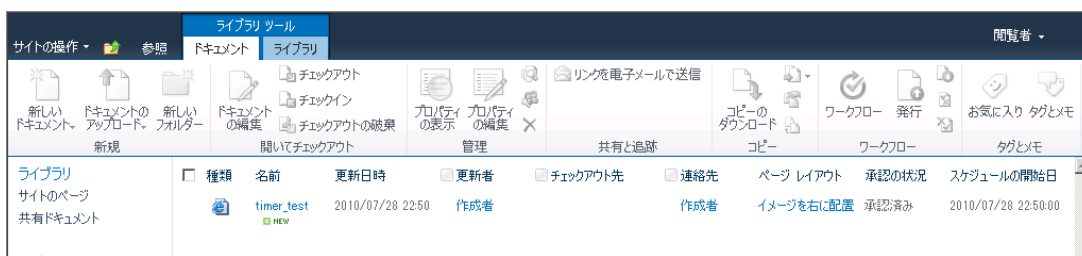
8. コンテンツの閲覧者 (viewer) でログインします。



9. [スケジュールの開始日] 以前は表示されません。



10. [スケジュールの開始日] を過ぎると表示されます。



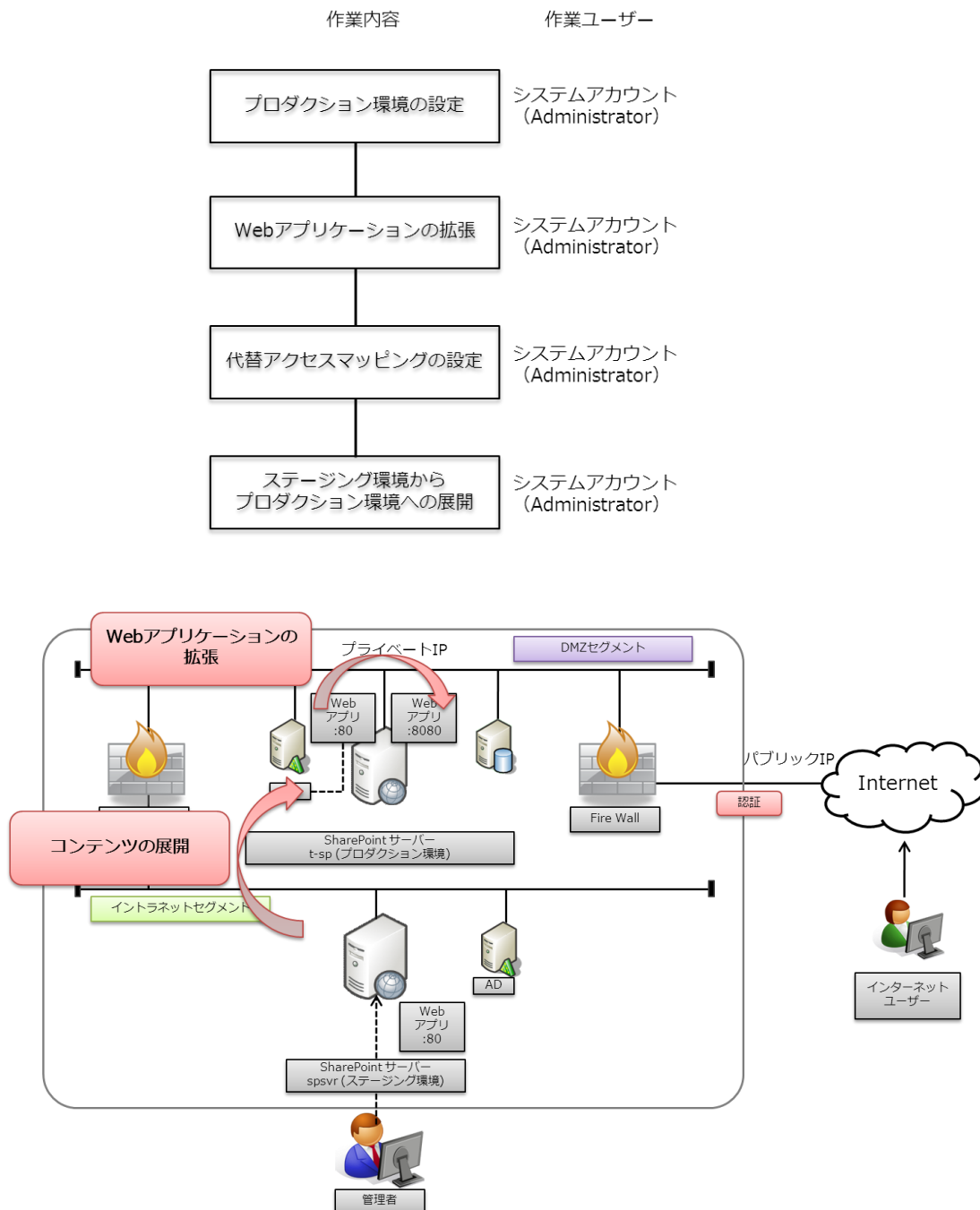
4.2 コンテンツの展開

ここでは、コンテンツをステージング環境からプロダクション環境へ展開する方法を説明します。コンテンツの展開によりイントラネットのステージング環境で作成したコンテンツをプロダクション環境へコピーし、インターネットで公開することができます。SharePoint 2010 はコンテンツ展開の機能を標準で持ちます。

SharePoint 2010 を正しくインターネット公開するためには、通常、イントラネットで使用するプライベート URL（内部用 URL）とインターネット公開するパブリック URL（公開用 URL）の 2 つの URL を設定します。内部用 URL はイントラネットからのアクセスに使用し、通常 Windows 認証を使います。一方、公開用 URL はインターネットからのアクセスに使用し、Form 認証を用います。このようにイントラネットおよびインターネットから 2 つの認証方式を使えるようにするために、Web アプリケーションの拡張を行います。また、その際、2 つの Web アプリケーションは同じコンテンツデータベースを共有して使用することができます。



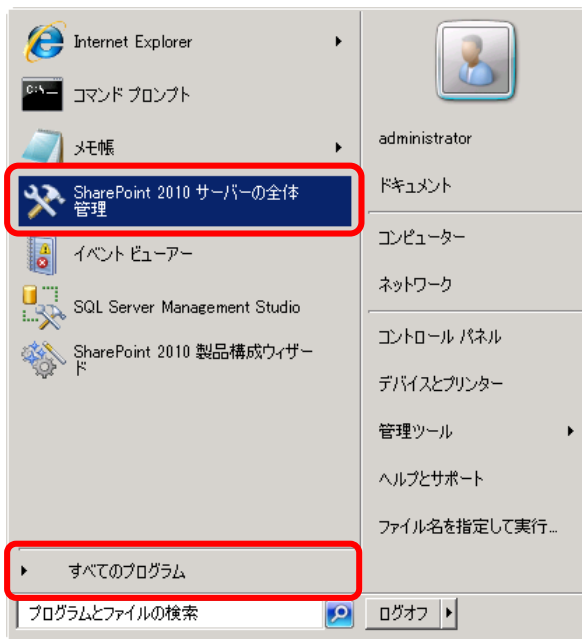
また、通常、イントラネットで使用するプライベート URL とインターネット公開するパブリック URL の 2 つの URL は異なります。そこで、この 2 つの URL をマッピングする仕組みとして、代替アクセスマッピングの設定方法を説明します。代替アクセスマッピングとは、異なるドメインおよびネットワークのユーザーが異なる URL を使用して同じコンテンツにアクセスするために、URL を変換する機能を提供します。代替アクセスマッピングを使うと、プライベート URL とパブリック URL が異なっても、この 2 つを自動的に置換することができます。そのために、サイト構築時はプライベート URL を使っていても、それをそのままインターネット公開できます。



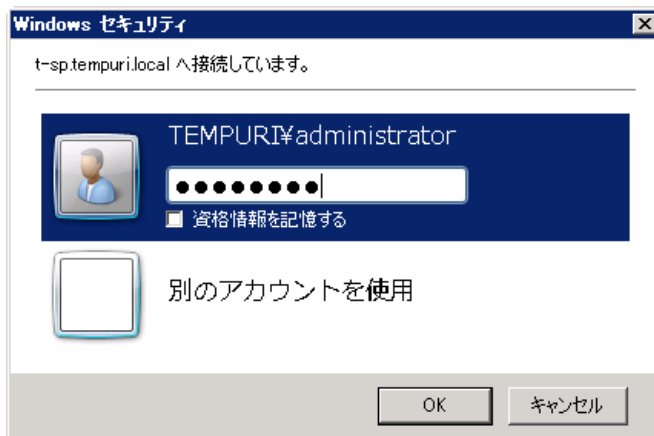
4.2.1 プロダクション環境の設定

プロダクション環境の Web アプリケーションを作成します。

1. 展開先の SharePoint サーバー (t-sp) にログインします。
2. [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] - [Microsoft SharePoint 2010 Products] - [SharePoint 2010 サーバーの全体管理] をクリックします。



3. 管理者 (administrator) でログインします。

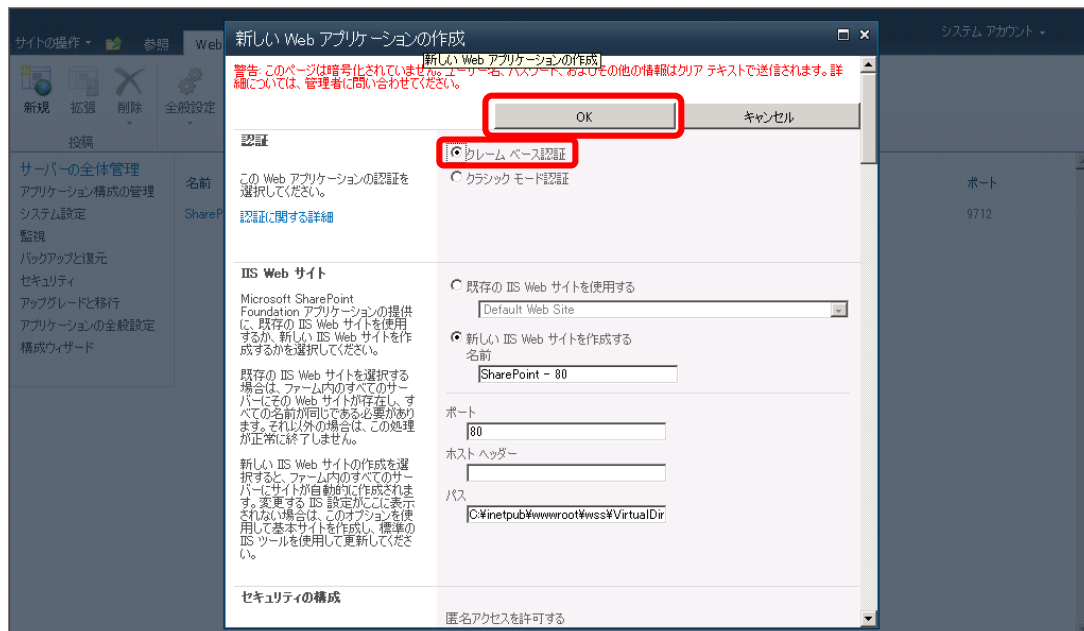


4. [アプリケーション構成の管理] - [Web アプリケーションの管理] をクリックします。



5. [新規] メニューをクリックします。

[認証] の [クレーム ベース認証] をオンにし、[OK] をクリックします。

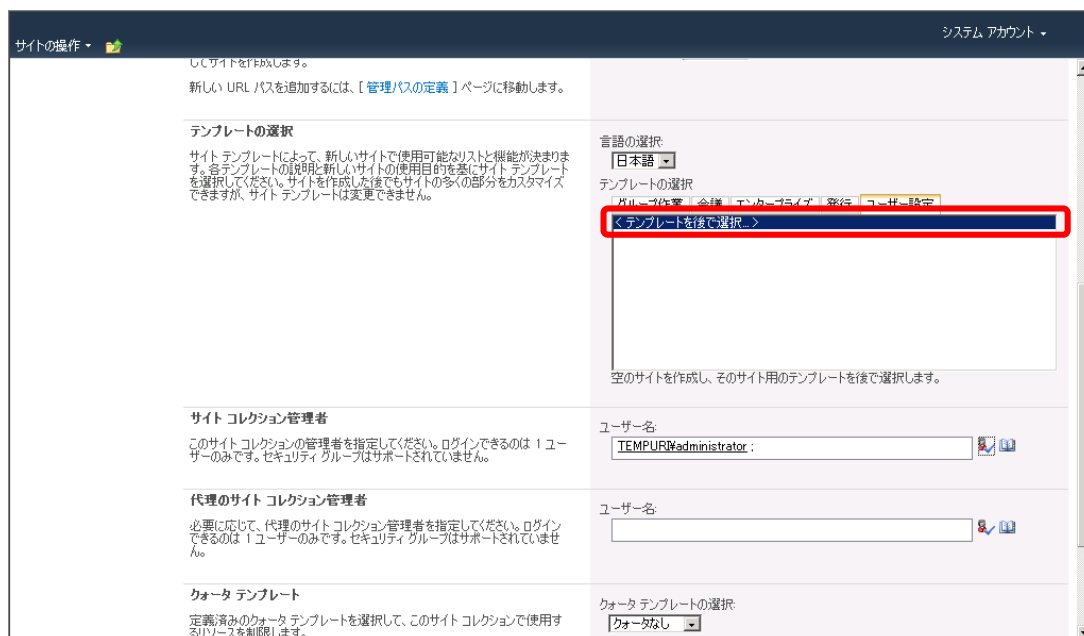


[クラシック モード認証] を選択すると Windows 認証の設定しか出来ませんが、[クレーム ベース認証] を選択することで、Windows 認証と Form 認証のどちらも設定することが出来ます。

6. [アプリケーション構成の管理] - [サイト コレクションの作成] をクリックします。



7. [テンプレートの選択] から「テンプレートを後で選択...」をクリックし、その他の項目に任意の文字を入力します。各項目に入力した後、[OK] をクリックします。



本来は展開元と展開先を同じテンプレートにする必要がありますが、展開先のテンプレートを「テンプレートを後で選択...」にすることで、展開先を自動的に展開元と同じテンプレートで構成してくれます。

8. [アプリケーションの全般設定] をクリックします。



9. [コンテンツ展開] – [コンテンツ展開の構成] をクリックします。



10. [コンテンツ展開ジョブの受け入れ] の「受信したコンテンツ展開ジョブを受け入れる」をオン、[接続セキュリティ] の「暗号化を必須にしない」をオンにし、[OK] をクリックします。

サイトの操作 + システム アカウント

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 > コンテンツ展開の設定
これらの設定は、すべてのコンテンツ展開パスとジョブに適用されます。

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

OK キャンセル

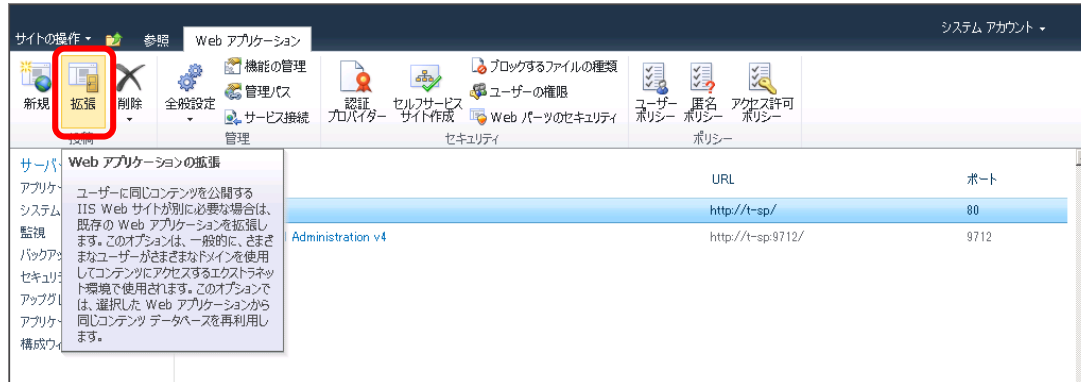
コンテンツ展開ジョブの受け入れ このサーバー・ファームで別のファームからコンテンツ展開ジョブを受信するかどうかを指定してください。この設定を有効にしても、コンテンツを展開するには、サーバーの全体管理でリモート・ファームが検証される必要があります。	<input checked="" type="radio"/> 受信したコンテンツ展開ジョブを受け入れる <input type="radio"/> 受信したコンテンツ展開ジョブを却下する
インポート サーバー 受信対象のコンテンツ展開ジョブを受信するサーバーを指定してください。このサーバーには、受信対象のジョブを格納するのに十分なディスク領域が必要です。また、ファームの管理 Web アプリケーションを実行している必要があります。 コンテンツ展開ジョブの実行時には、このサーバーにさらに負荷がかかることがあります。	コンテンツ展開ジョブのインポートの管理に使用するサーバー <input type="text" value="t-sp.tempuri.local"/>
エクスポート サーバー 発信対象のコンテンツ展開ジョブの送信先となるサーバーを指定してください。このサーバーには、発信対象のジョブを格納するのに十分なディスク領域が必要です。また、ファームの管理 Web アプリケーションを実行している必要があります。 コンテンツ展開ジョブの実行時には、このサーバーにさらに負荷がかかることがあります。	コンテンツ展開ジョブのエクスポートの管理に使用するサーバー <input type="text" value="t-sp.tempuri.local"/>
接続のセキュリティ 既定では、コンテンツ展開が実行されるのは、展開元と展開先のファーム間の接続が HTTPS プロトコルを使用して暗号化されている場合のみです。 暗号化されていない接続を介してコンテンツを展開すると、展開先ファームでの認証に使用されるユーザー名やパスワードが悪意のあるユーザーに不正に取得され、展開したコンテンツが漏えいする可能性があります。	<input type="radio"/> 暗号化を必須にする (推奨) <input checked="" type="radio"/> 暗号化を必須にしない
一時ファイル コンテンツ展開ジョブの一時ファイルの格納場所を指定してください。このファイルは、コンテンツ展開ジョブが完了すると自動的に削除されます。 このフォルダーには、1 度に展開するすべてのコンテンツを格納するのに十分な領域が必要です。	パス: <input type="text" value="C:\ProgramData\ContentDeploymen"/>
レポート このファームから発信される各コンテンツ展開ジョブについて、保存するレポートの数を指定してください。新しいレポートを保存すると、古いレポートが自動的に削除されます。	保管する各ジョブのレポート数: <input type="text" value="20"/>

OK キャンセル

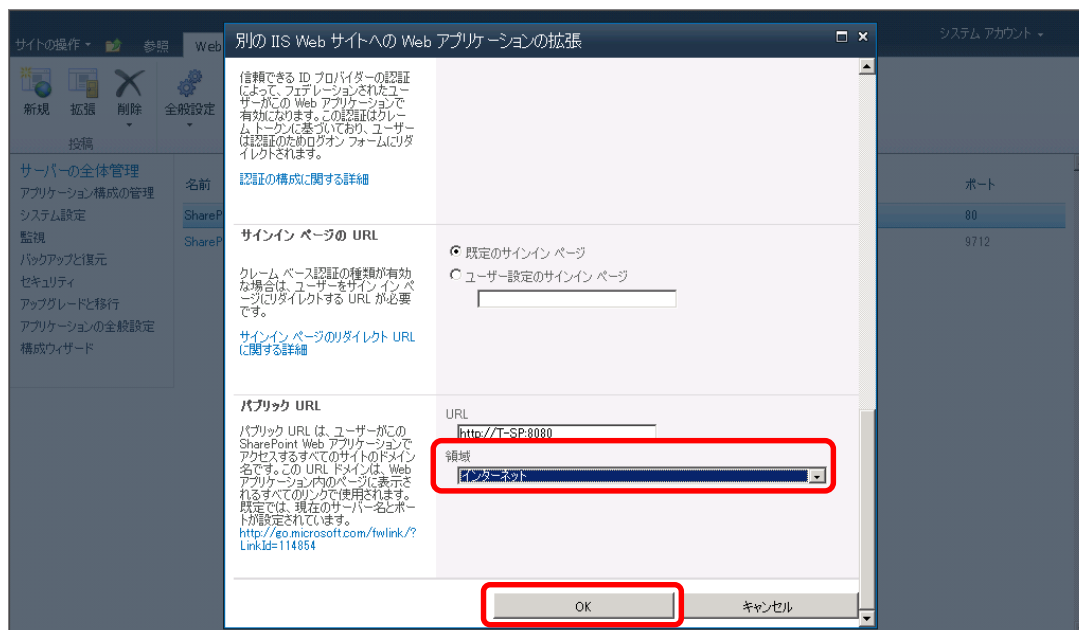
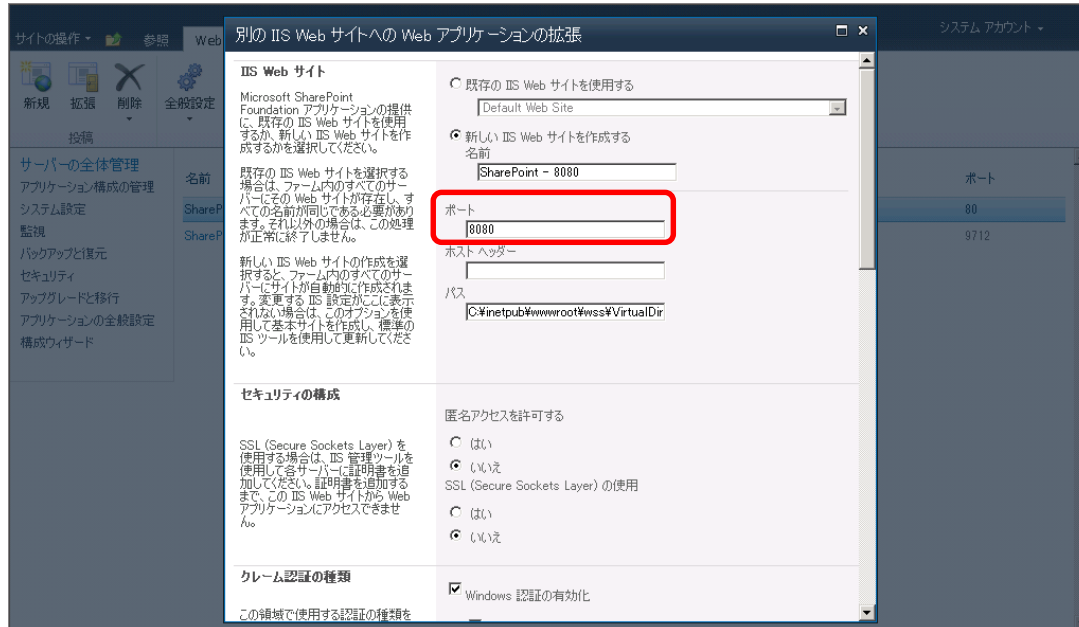
4.2.2 Web アプリケーションの拡張

既存の Web アプリケーション「SharePoint - 80」を拡張して「SharePoint - 8080」を作成します。プロダクション環境をインターネット公開するためには、Web アプリケーションの拡張を行い、イントラネットとインターネット公開用のサイトが同じコンテンツを参照するように構成する必要があります。

1. 「SharePoint - 80」を選択し、[拡張] メニューをクリックします。



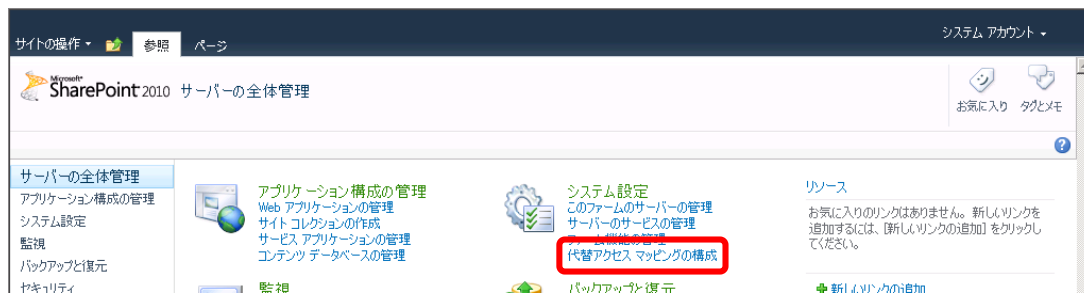
2. [ポート] を「8080」と入力、[領域] プルダウンから「インターネット」をクリック、その他の項目は任意のまま [OK] をクリックし、Web アプリケーションを拡張します。



4.2.3 代替アクセス マッピングの構成

Web アプリケーション「SharePoint – 8080」にパブリック URL を設定します。代替アクセスマッピング機能により、内部 URL = `http://t-sp:8080/` に対する要求をすべてパブリック URL = `http://www.sharepoint.co.jp/` に変換します。これにより、インターネットユーザーからファイアウォールを経由して [`http://t-sp:8080/`] 宛てに届いた要求を、`[http://www.sharepoint.co.jp/]` に変換します。もちろん、内部ユーザーから [`http://t-sp:80/`] 宛てに届いた要求は [`http://t-sp:80/`] に変換します。(言い換えれば、変換しません)

1. [サーバーの全体管理] - [システム設定] - [代替アクセス マッピングの構成] をクリックします。



2. [代替アクセス マッピング コレクション] から「SharePoint – 80」をクリックします。



3. [パブリック URL の編集] をクリックします。



4. [インターネット] に「http://www.sharepoint.co.jp」を入力し、[保存] をクリックします。

サイトの操作

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ▶ 領域に対するパブリック URL の編集

代替アクセス マッピング コレクション: SharePoint - 80

代替アクセス マッピング コレクションを選択してください。

パブリック URL

表示されている領域でこのリソースに対して使用する、パブリック URL プロトコル、ホスト、およびポートを入力してください。領域の既定 URL は必ず定義してください。これは、領域のパブリック URL が指定されていない場合や、クォータ電子メールの URL などの管理操作に使用されます。 <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=14464>

既定: http://t-sp

イントラネット

インターネット: http://www.sharepoint.co.jp

ユーザー設定

エクストラネット

保存 削除 キャンセル

5. [内部 URL の追加] をクリックします。

サイトの操作

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ▶ 代替アクセス マッピング

代替アクセス マッピング コレクション: SharePoint - 80

内部 URL の追加

パブリック URL の編集 外部リソースへのマップ

内部 URL	領域	領域のパブリック URL
http://t-sp	既定	http://t-sp
http://www.sharepoint.co.jp	インターネット	http://www.sharepoint.co.jp

6. [URL のプロトコル、ホスト、およびポート] に「http://t-sp:8080」と入力し、[領域] を「インターネット」に設定して「保存」をクリックします。

サイトの操作

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ▶ 内部 URL の追加

代替アクセス マッピング コレクション: SharePoint - 80

代替アクセス マッピング コレクションを選択してください。

内部 URL の追加

このリソースと関連付ける必要がある URL のプロトコル、ホスト、およびポートの割り当てを入力してください。

URL のプロトコル、ホスト、およびポート: http://t-sp:8080

領域: **インターネット**

保存 キャンセル

7. インターネット領域にエントリが追加され、代替アクセス マッピングが登録されていることを確認します。

サイトの操作 システム アカウント

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 > 代替アクセス マッピング

タグとメモ

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

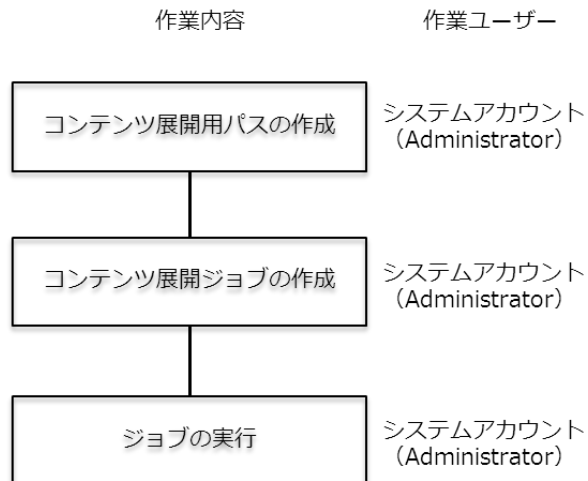
パブリック URL の編集 内部 URL の追加 外部リソースへのマップ 代替アクセス マッピング コレクション: SharePoint - 80

内部 URL	領域	領域のバリック URL
http://t-sp	既定	http://t-sp
http://www.sharepoint.co.jp	インターネット	http://www.sharepoint.co.jp
http://t-sp:8080	インターネット	http://www.sharepoint.co.jp

4.2.4 ステージングからプロダクション環境への展開

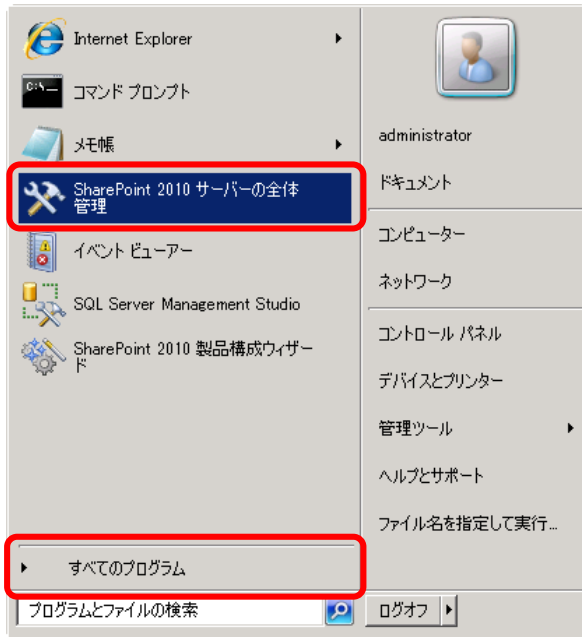
SharePoint サーバー (spsvr) の「SharePoint - 80」を SharePoint サーバー (t-sp) の「SharePoint - 80」に展開します。

まず、コンテンツ展開用パスを作成します。続いて展開を実行する コンテンツ展開ジョブを作成します。最後に、ジョブを実行します。



コンテンツ展開パスの作成

1. 展開元の SharePoint サーバー (spsvr) にログインします。
2. [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] - [Microsoft SharePoint 2010 Products] - [SharePoint 2010 サーバーの全体管理] をクリックします。



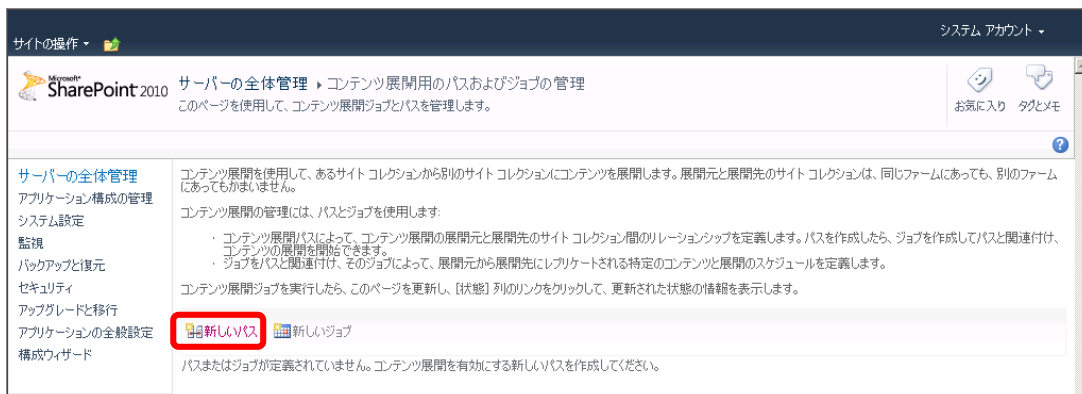
3. [アプリケーションの全般設定] をクリックします。



4. [コンテンツ展開] - [コンテンツ展開用パスおよびジョブの構成] をクリックします。



5. [新しいパス] をクリックします。



6. 以下の情報を入力します。

名前と説明	任意 (コンテンツ展開パス)
展開元の Web アプリケーションとサイト コレクション	任意 (SharePoint - 80)
展開元のサイトコレクション	任意 (/)
展開先のサーバー全体管理 Web アプリケーション	全体管理サーバーのアドレス (http://t-sp:9713/)

サイトの操作 ▾ システム アカウント ▾

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ▶ コンテンツ展開パスの作成
パスを使用して、ソースと展開先のサイト コレクション間のリレーションシップを定義します。

お気に入り タグとメモ

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

OK キャンセル

名前と説明
コンテンツ展開パスの名前と説明を指定してください。

このパスの名前を入力してください
コンテンツ展開パス

コンテンツ展開パスの説明を入力してください

展開元の Web アプリケーションとサイト コレクション
展開元サーバーの Web アプリケーションとサイト コレクションを指定してください。

展開元の Web アプリケーション:
[SharePoint - 80]

展開元のサイト コレクション:
[/]

URL: http://spsvr/

展開先のサーバーの全体管理 Web アプリケーション
展開先の全体管理サーバーの URL を指定してください。

展開先の全体管理サーバーの URL を入力してください
[http://t-sp:9713]

⚠ http:// で始まる URL が指定されました。この URL への通信はセキュリティで保護されず、悪意のあるユーザーに不正に取得される可能性があります。

7. 以下の情報を入力し、[接続] をクリックします。

認証情報	(統合 Windows 認証を使用する)
ユーザー名	展開先の全体管理にログイン出来るユーザー (tempuri¥administrator)
パスワード	任意 (パスワード)

認証情報
展開先サーバーにログインするための認証方法と資格情報を指定してください。指定するアカウントには、展開先サーバーの SharePoint サーバーの全体管理資格情報が必要です。
[接続] をクリックして展開先サーバーに接続し、このパスの設定を指定してください。

展開先サーバーにログインするための認証方法と資格情報を指定してください。

認証の種類:
☒ 統合 Windows 認証を使用する
☐ 基本認証を使用する

ユーザー名:

パスワード:

展開先の Web アプリケーションとサイト コレクション
展開先の Web アプリケーションとサイト コレクションの URL を指定してください。

展開先の Web アプリケーション:

展開先のサイト コレクション:

URL:

8. 「接続できました」という文字が表示された後に、以下の情報を入力します。

展開先の Web アプリケーション	展開先の URL (SharePoint - 80)
展開先のサイト コレクション	(/)
ユーザー名を展開する	オン

ユーザー名
コンテンツに関連付けられているユーザー名を展開するかどうかを指定します。 [詳細情報を表示する。](#)

☒ ユーザー名を展開する

セキュリティ情報
セキュリティ情報 (ACL、ロール、メンバーシップなど) を展開するかどうかを指定してください。 [詳細情報を表示する。](#)

コンテンツ展開のセキュリティ情報

9. 先ほど作成した [パス] が追加されたことを確認します。



サイトの操作

システム アカウント

サーバーの全体管理 > コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理
このページを使用して、コンテンツ展開ジョブとパスを管理します。

お気に入りに タグとメモ

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

コンテンツ展開を使用して、あるサイト コレクションから別のサイト コレクションにコンテンツを展開します。展開元と展開先のサイト コレクションは、同じファームにあっても、別のファームにあっても構いません。

コンテンツ展開の管理には、パスとジョブを使用します。

- コンテンツ展開パスによって、コンテンツ展開の展開元と展開先のサイト コレクション間のリレーションシップを定義します。パスを作成したら、ジョブを作成してパスと関連付け、コンテンツの展開を開始できます。
- ジョブをパスと関連付け、そのジョブによって、展開元から展開先にレプリケートされる特定のコンテンツと展開のスケジュールを定義します。

コンテンツ展開ジョブを実行したら、このページを更新し、[状態] 列のリンクをクリックして、更新された状態の情報を表示します。

新しいパス 新しいジョブ

種類	名前	次の実行	前回の実行	状態	作成者
パス	コンテンツ展開パス				

コンテンツ展開ジョブの作成

1. 作成した「コンテンツ展開パス」の▼から、[ジョブの作成] をクリックします。



2. [名前] に「コンテンツ展開ジョブ」と入力し、[パス] を「コンテンツ展開パス」をクリックします。



3. [OK] をクリックします。

サイトの操作 ▾ システム アカウント ▾

分間隔
15 分

1 時間に 1 回
時刻 (分): 00

1 日に 1 回
時刻: 03:00

1 週間に 1 回
日: 月曜日
時刻: 03:00

月に 1 回
日: 1
時刻: 03:00

通知
展開ジョブの完了後に、これらの電子メール アドレスに通知を送信します。複数の電子メール アドレスを使用する場合は、セミコロンで区切ってください。

☐ コンテンツ展開ジョブが正常に終了した場合に電子メールを送信する
☐ コンテンツ展開ジョブが失敗した場合に電子メールを送信する

電子メール アドレスを入力してください:

OK キャンセル

4. 先ほど作成した [ジョブ] が追加されたことを確認します。

サーバーの全体管理 ▾ システム アカウント ▾

お気に入り タグとメモ

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

サーバーの全体管理 ▶ コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理
このページを使用して、コンテンツ展開ジョブとパスを管理します。

コンテンツ展開を使用して、あるサイト コレクションから別のサイト コレクションにコンテンツを展開します。展開元と展開先のサイト コレクションは、同じファームにあって、別のファームにあって構いません。

コンテンツ展開の管理には、パスとジョブを使用します。

- コンテンツ展開パスによって、コンテンツ展開の展開元と展開先のサイト コレクション間のリレーションシップを定義します。パスを作成したら、ジョブを作成してパスと関連付け、コンテンツの展開を開始できます。
- ジョブをパスと関連付け、そのジョブによって、展開元から展開先にレプリケートされる特定のコンテンツと展開のスケジュールを定義します。

コンテンツ展開ジョブを実行したら、このページを更新し、[状態] 列のリンクをクリックして、更新された状態の情報を表示します。

新しいパス 新しいジョブ

種類	名前	次回の実行	前回の実行	状態	作成者
パス	コンテンツ展開パス				
ジョブ	コンテンツ展開ジョブ	スケジュール未設定	未開始		システム アカウント

ジョブの実行

1. 作成した「コンテンツ展開ジョブ」の▼から、[今すぐ実行] をクリックします。



Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ▶ コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理
このページを使用して、コンテンツ展開ジョブとパスを管理します。

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

コンテンツ展開を使用して、あるサイト コレクションから別のサイト コレクションにコンテンツを展開します。展開元と展開先のサイト コレクションは、同じファームにあっては、別のファームにあってはかまいません。

コンテンツ展開の管理には、パスとジョブを使用します。

- コンテンツ展開パスによって、コンテンツ展開の展開元と展開先のサイト コレクション間のリレーションシップを定義します。パスを作成したら、ジョブを作成してパスと関連付け、コンテンツの展開を開始できます。
- ジョブをパスと関連付け、そのジョブによって、展開元から展開先にレプリケートされる特定のコンテンツと展開のスケジュールを定義します。

コンテンツ展開ジョブを実行したら、このページを更新し、[状態] 列のリンクをクリックして、更新された状態の情報を表示します。

種類	名前	次の実行	前回の実行	状態	作成者
コンテンツ展開パス	コンテンツ展開パス				
コンテンツ展開ジョブ	コンテンツ展開ジョブ	スケジュール未設定	未開始		システム アカウント

今すぐ実行
ジョブのリスト
削除

2. 「コンテンツ展開ジョブ」の [状態] が「準備中」になっていることを確認します。



Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ▶ コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理
このページを使用して、コンテンツ展開ジョブとパスを管理します。

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

コンテンツ展開を使用して、あるサイト コレクションから別のサイト コレクションにコンテンツを展開します。展開元と展開先のサイト コレクションは、同じファームにあっては、別のファームにあってはかまいません。

コンテンツ展開の管理には、パスとジョブを使用します。

- コンテンツ展開パスによって、コンテンツ展開の展開元と展開先のサイト コレクション間のリレーションシップを定義します。パスを作成したら、ジョブを作成してパスと関連付け、コンテンツの展開を開始できます。
- ジョブをパスと関連付け、そのジョブによって、展開元から展開先にレプリケートされる特定のコンテンツと展開のスケジュールを定義します。

コンテンツ展開ジョブを実行したら、このページを更新し、[状態] 列のリンクをクリックして、更新された状態の情報を表示します。

種類	名前	次の実行	前回の実行	状態	作成者
コンテンツ展開パス	コンテンツ展開パス				
コンテンツ展開ジョブ	コンテンツ展開ジョブ	スケジュール未設定	未開始	準備中	システム アカウント

3. 「準備中」から「実行中」になることを確認します。

サイトの操作

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ▶ コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理
このページを使用して、コンテンツ展開ジョブとパスを管理します。

システム アカウント

お気に入りに タグとメモ

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

コンテンツ展開を使用して、あるサイト コレクションから別のサイト コレクションにコンテンツを展開します。展開元と展開先のサイト コレクションは、同じファームにあっては、別のファームにあってはかまいません。

コンテンツ展開の管理には、パスとジョブを使用します。

- コンテンツ展開パスによって、コンテンツ展開の展開元と展開先のサイト コレクション間のリレーションシップを定義します。パスを作成したら、ジョブを作成してパスと関連付け、コンテンツの展開を開始できます。
- ジョブをパスと関連付け、そのジョブによって、展開元から展開先にレプリケートされる特定のコンテンツと展開のスケジュールを定義します。

コンテンツ展開ジョブを実行したら、このページを更新し、[状態] 列のリンクをクリックして、更新された状態の情報を表示します。

新しいパス 新しいジョブ

種類	名前	次の実行	前回の実行	状態	作成者
パス	コンテンツ展開パス				
ジョブ	コンテンツ展開ジョブ	スケジュール未設定	2010/07/22 20:54	実行中	システム アカウント

4. ジョブの実行が完了すると、「完了」になることを確認します。

サイトの操作

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ▶ コンテンツ展開用のパスおよびジョブの管理
このページを使用して、コンテンツ展開ジョブとパスを管理します。

システム アカウント

お気に入りに タグとメモ

サーバーの全体管理
アプリケーション構成の管理
システム設定
監視
バックアップと復元
セキュリティ
アップグレードと移行
アプリケーションの全般設定
構成ウィザード

コンテンツ展開を使用して、あるサイト コレクションから別のサイト コレクションにコンテンツを展開します。展開元と展開先のサイト コレクションは、同じファームにあっては、別のファームにあってはかまいません。

コンテンツ展開の管理には、パスとジョブを使用します。

- コンテンツ展開パスによって、コンテンツ展開の展開元と展開先のサイト コレクション間のリレーションシップを定義します。パスを作成したら、ジョブを作成してパスと関連付け、コンテンツの展開を開始できます。
- ジョブをパスと関連付け、そのジョブによって、展開元から展開先にレプリケートされる特定のコンテンツと展開のスケジュールを定義します。

コンテンツ展開ジョブを実行したら、このページを更新し、[状態] 列のリンクをクリックして、更新された状態の情報を表示します。

新しいパス 新しいジョブ

種類	名前	次の実行	前回の実行	状態	作成者
パス	コンテンツ展開パス				
ジョブ	コンテンツ展開ジョブ	スケジュール未設定	2010/07/22 20:54	完了	システム アカウント

5. 展開先 (http://t-sp:80/) にアクセスします。コンテンツが展開されたことを確認します。

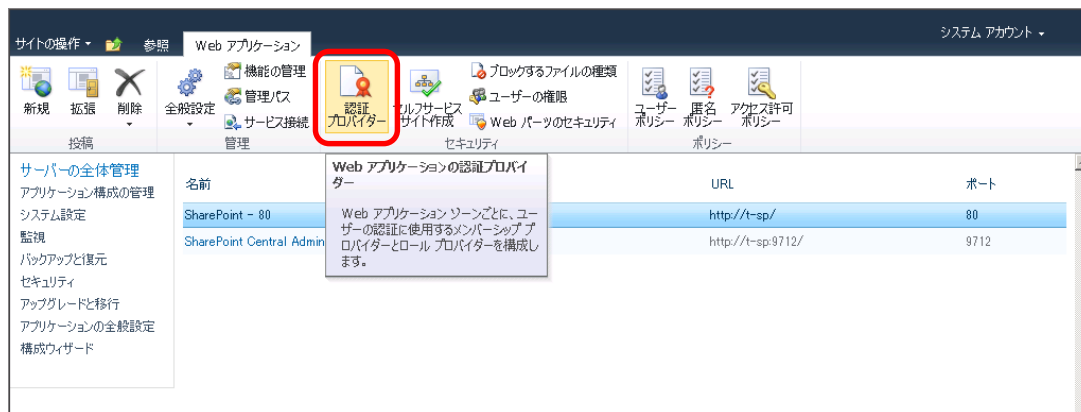


公開 URL からアクセスした時、この時点での認証方式は Windows 認証となります。

もし公開 URL からアクセスした時のみ Form 認証に変更したい場合、拡張した領域の Form 認証を有効化し、設定を行う必要があります。

Form 認証の有効化方法を次に示します。

1. [アプリケーション構成の管理] - [Web アプリケーションの管理] をクリックします。
「SharePoint - 80」をクリックした状態で、[認証プロバイダー] メニューをクリックします。

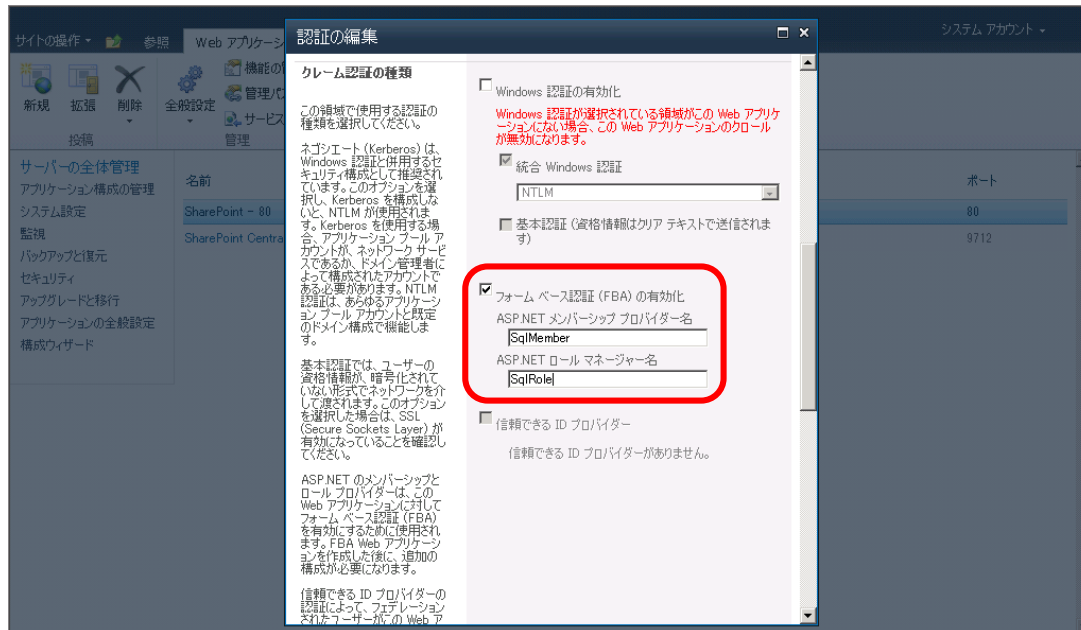


2. [インターネット] をクリックします。



3. [クレーム認証の種類] の [Windows 認証の有効化] をオフ、[フォーム ベース認証 (FBA) の有効化] をオン、[ASP.NET メンバーシップ プロバイダー名] と [ASP.NET ロールマネージャー名] にあらかじめ設定した値を入力し、[保存] をクリックします。

※ ここで使用する [ASP.NET メンバーシップ プロバイダー名] と [ASP.NET ロールマネージャー名] の詳細な設定方法は、『6.1.3 Form 認証の設定』を参照してください。



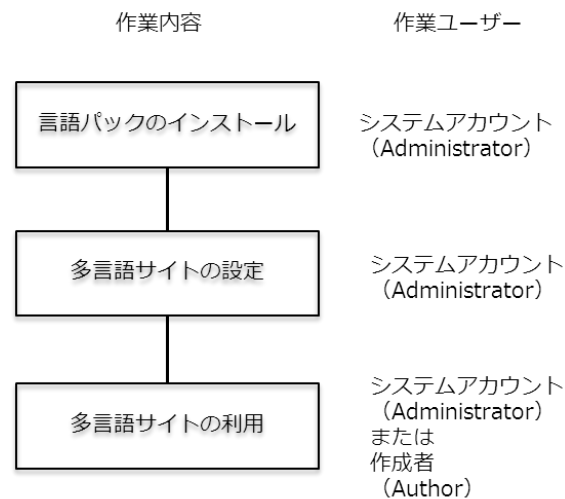
5. インターネット公開後に活用する機能

ここではコンテンツをインターネット公開した後に使用する機能について説明します。

複数の言語サイトで自動的に同期を取る多言語対応、動画コンテンツのストリーミング配信、サイト運用におけるログ管理について説明します。

5.1 多言語サイトの構築

近年、企業の海外進出に伴い、日本語以外の言語、例えば英語を使ってサイトを構築する場合があります。以下の手順に従い、言語パックのインストール、多言語サイトの設定、多言語サイトの利用について説明します。ここでは、日本語サイトと英語サイトの構築方法を説明します。日本語と英語以外の言語サイトを作成する場合にも同様の手順で進めてください。



5.1.1 言語パックのインストール

1. Microsoft のサイトから、サーバーの言語パックをダウンロードします。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=046F16A9-4BCE-4149-8679-223755560D54&displaylang=ja> にアクセスします。

SharePoint Server 2010、Project Server 2010、Search Server 2010、および Office Web Apps 2010 用 2010 Server Language Pack

簡単な説明
この言語パックを使用すると、複数の SharePoint Server 2010、Project Server 2010、Search Server 2010、および Office Web Apps 2010 をインストールせずに、複数の言語でサイトおよびサイト コレクションを作成することができます。

このページの内容
[このページの内容](#) [概要](#)
[必要システム](#) [注意事項](#)
[他の人のダウンロード情報を見る](#)

ダウンロード

このページの内容

ファイル名:	ServerLanguagePack.exe
バージョン:	1
公開された日付:	2010/05/10
言語:	日本語
ダウンロード サイズ:	1 KB - 213.0 MB*
推定ダウンロード時間:	<input type="text" value="ダイヤルアップ (56K)"/> 4 時間 20 分

* ダウンロード サイズは選択するダウンロード コンポーネントによって異なります。

言語の変更: [変更](#)

概要

2. [言語の変更] から「英語」をクリックし、[変更] をクリックします。

SharePoint Server 2010、Project Server 2010、Search Server 2010、および Office Web Apps 2010 用 2010 Server Language Pack

簡単な説明
この言語パックを使用すると、複数の SharePoint Server 2010、Project Server 2010、Search Server 2010、および Office Web Apps 2010 をインストールせずに、複数の言語でサイトおよびサイト コレクションを作成することができます。

このページの内容
[このページの内容](#) [概要](#)
[必要システム](#) [注意事項](#)
[他の人のダウンロード情報を見る](#)

ダウンロード

このページの内容

ファイル名:	ServerLanguagePack.exe
バージョン:	1
公開された日付:	2010/05/10
言語:	日本語
ダウンロード サイズ:	1 KB - 213.0 MB*
推定ダウンロード時間:	<input type="text" value="ダイヤルアップ (56K)"/> 4 時間 20 分

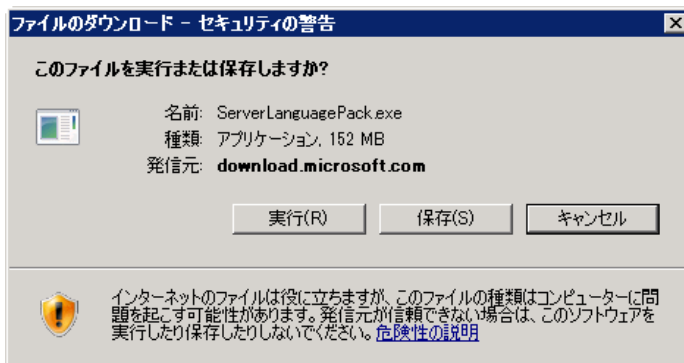
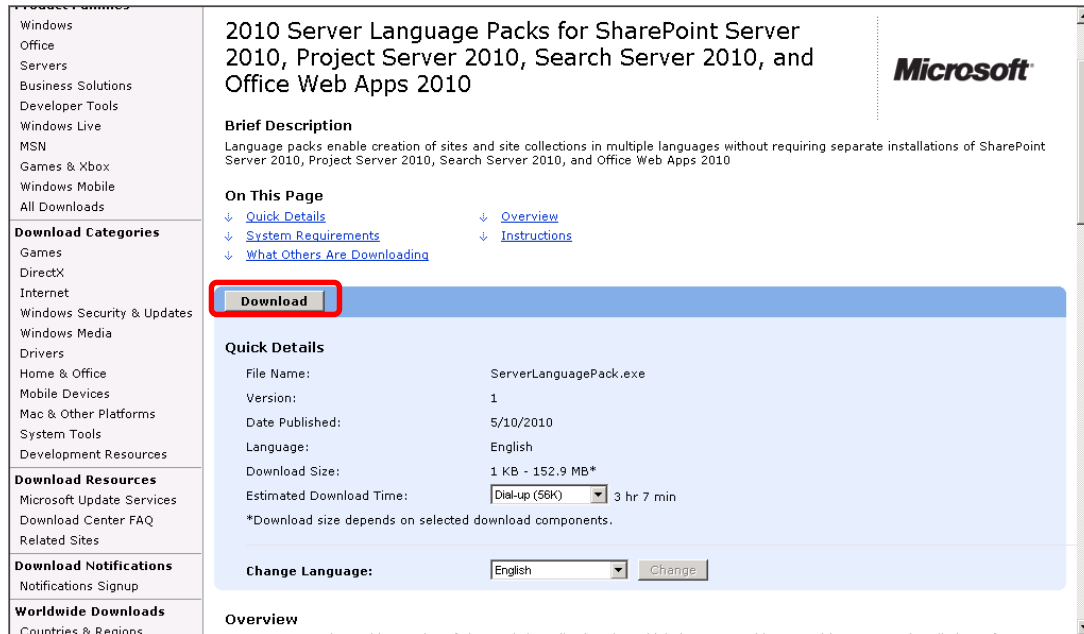
* ダウンロード サイズは選択するダウンロード コンポーネントによって異なります。

言語の変更: [変更](#)

概要

3. [Download] をクリックし、ファイルをダウンロードします。

※ Download は選択した言語によって表記が異なることがあります。



4. SharePoint の言語パックをダウンロードします。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=646E311A-AAF3-4D30-B03C-2F3C70D19A22&displayLang=ja> にアクセスします。



Office
Servers
Business Solutions
Developer Tools
Windows Live
MSN
Games & Xbox
Windows Mobile
すべての製品

ダウンロード カテゴリ
ゲーム
DirectX
インターネット
Windows (セキュリティ情報とアップデート)
Windows Media
ドライバ
アプリケーション (オフィス用と家庭用)
モバイル デバイス
Macintosh & その他のプラットフォーム
システム管理ツール
開発リソース

ダウンロード リソース
ダウンロード センター FAQ
関連サイト

Microsoft アップデート サービス
アップデート サービス
新着ダウンロード ニュース

SharePoint Foundation 2010 Language Pack

簡単な説明
言語パックを使用すると、複数の SharePoint Foundation 2010 をインストールせずに、複数の言語で SharePoint サイトおよびサイト コレクションを作成することができます。

このページの内容
[このページの内容](#) [概要](#)
[必要システム](#) [注意事項](#)
[他の人のダウンロード情報を見る](#)

ダウンロード

このページの内容

ファイル名:	SharePointLanguagePack.exe
バージョン:	1
公開された日付:	2010/05/10
言語:	日本語
ダウンロード サイズ:	1 KB - 128.0 MB*
推定ダウンロード時間:	ダイヤルアップ (56K) 2 時間 36 分

* ダウンロード サイズは選択するダウンロード コンポーネントによって異なります。

言語の変更: 日本語 [変更](#)

概要
言語パックを使用すると、複数の SharePoint Foundation 2010 をインストールせずに、複数の言語でサイトおよびサイト コレクションを作成することができます。1 つのサーバーには複数の言語パックをインストールすることもできます。言語パックを適用しても、インストール済みの Microsoft サーバー製品や管理機能の言語は変更されません。

5. [言語の変更] から「英語」をクリックし、[変更] をクリックします。



Office
Servers
Business Solutions
Developer Tools
Windows Live
MSN
Games & Xbox
Windows Mobile
すべての製品

ダウンロード カテゴリ
ゲーム
DirectX
インターネット
Windows (セキュリティ情報とアップデート)
Windows Media
ドライバ
アプリケーション (オフィス用と家庭用)
モバイル デバイス
Macintosh & その他のプラットフォーム
システム管理ツール
開発リソース

ダウンロード リソース
ダウンロード センター FAQ
関連サイト

Microsoft アップデート サービス
アップデート サービス
新着ダウンロード ニュース

SharePoint Foundation 2010 Language Pack

簡単な説明
言語パックを使用すると、複数の SharePoint Foundation 2010 をインストールせずに、複数の言語で SharePoint サイトおよびサイト コレクションを作成することができます。

このページの内容
[このページの内容](#) [概要](#)
[必要システム](#) [注意事項](#)
[他の人のダウンロード情報を見る](#)

ダウンロード

このページの内容

ファイル名:	SharePointLanguagePack.exe
バージョン:	1
公開された日付:	2010/05/10
言語:	日本語
ダウンロード サイズ:	1 KB - 128.0 MB*
推定ダウンロード時間:	ダイヤルアップ (56K) 2 時間 36 分

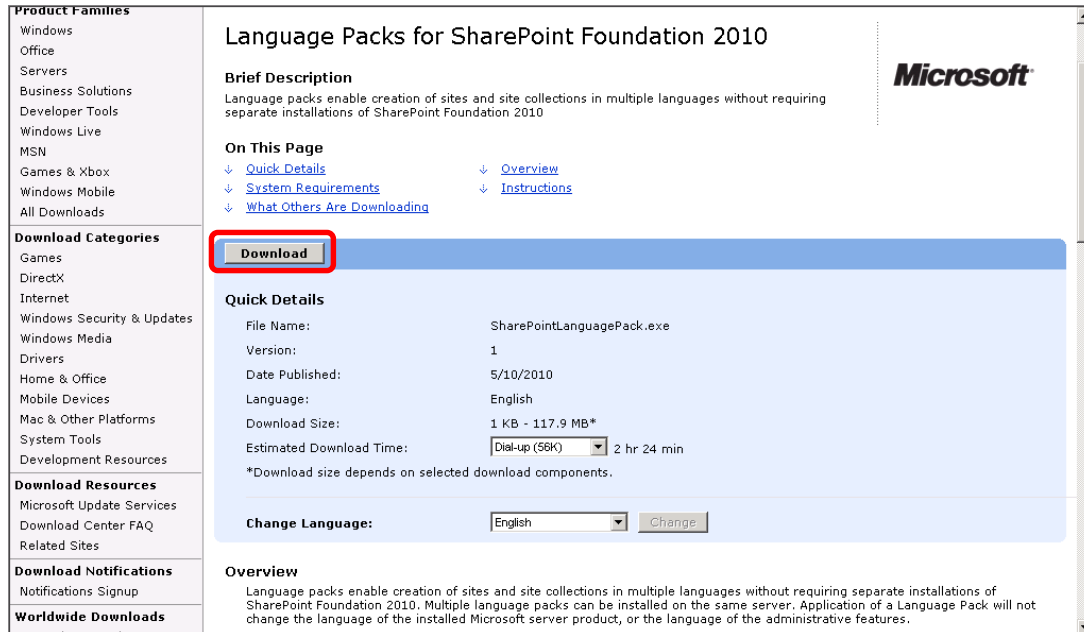
* ダウンロード サイズは選択するダウンロード コンポーネントによって異なります。

言語の変更: 英語 [変更](#)

概要
言語パックを使用すると、複数の SharePoint Foundation 2010 をインストールせずに、複数の言語でサイトおよびサイト コレクションを作成することができます。1 つのサーバーには複数の言語パックをインストールすることもできます。言語パックを適用しても、インストール済みの Microsoft サーバー製品や管理機能の言語は変更されません。

6. [Download] をクリックし、ファイルをダウンロードします。

※ Download は選択した言語によって表記が異なることがあります。



Product Families

- Windows
- Office
- Servers
- Business Solutions
- Developer Tools
- Windows Live
- MSN
- Games & Xbox
- Windows Mobile
- All Downloads

Download Categories

- Games
- DirectX
- Internet
- Windows Security & Updates
- Windows Media
- Drivers
- Home & Office
- Mobile Devices
- Mac & Other Platforms
- System Tools
- Development Resources

Download Resources

- Microsoft Update Services
- Download Center FAQ
- Related Sites

Download Notifications

- Notifications Signup

Worldwide Downloads

- Countries & Regions

Language Packs for SharePoint Foundation 2010

Brief Description
Language packs enable creation of sites and site collections in multiple languages without requiring separate installations of SharePoint Foundation 2010.

On This Page

- [Quick Details](#)
- [System Requirements](#)
- [What Others Are Downloading](#)
- [Overview](#)
- [Instructions](#)

Download

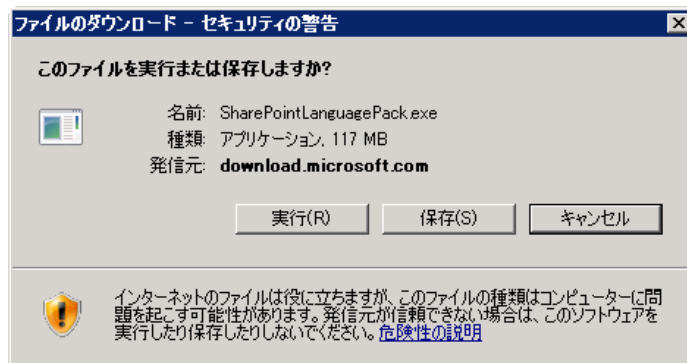
Quick Details

File Name:	SharePointLanguagePack.exe
Version:	1
Date Published:	5/10/2010
Language:	English
Download Size:	1 KB - 117.9 MB*
Estimated Download Time:	Dial-up (56K) 2 hr 24 min

*Download size depends on selected download components.

Change Language: English Change

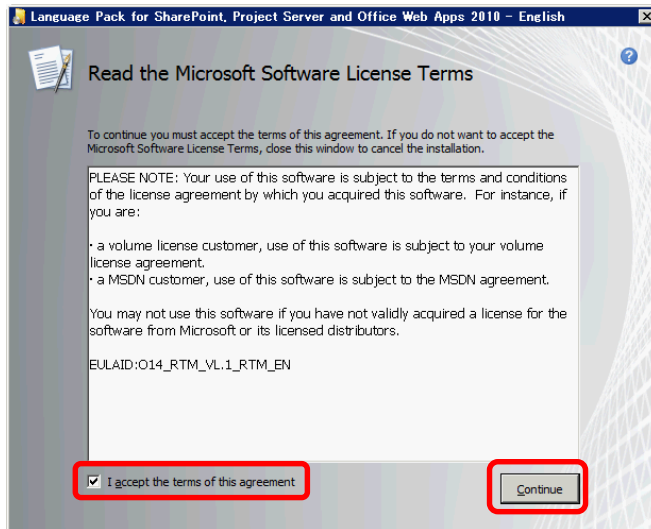
Overview
Language packs enable creation of sites and site collections in multiple languages without requiring separate installations of SharePoint Foundation 2010. Multiple language packs can be installed on the same server. Application of a Language Pack will not change the language of the installed Microsoft server product, or the language of the administrative features.



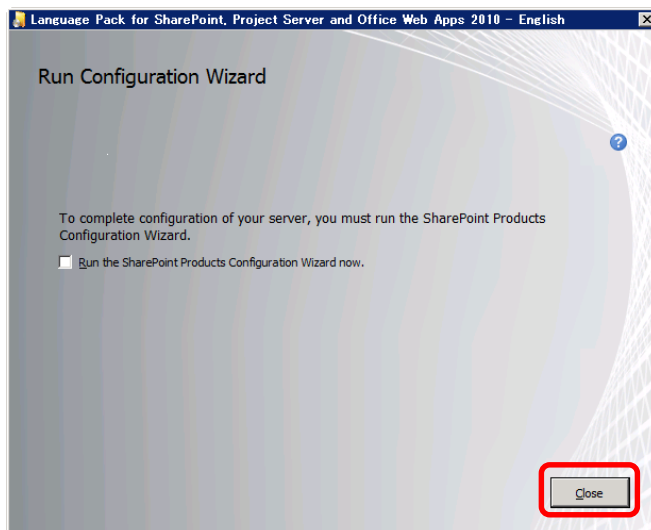
7. ダウンロードした「ServerLanguagePack.exe」を実行します。

8. [I accept the terms of this agreement] をオンにし、[Continue] をクリックします。

インストールが実行されます。



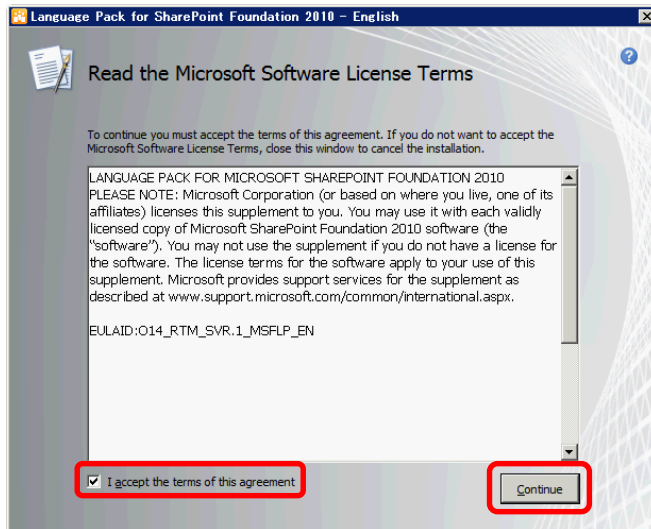
9. インストール終了後、[Run the SharePoint Products Configuration Wizard now.] をオフにし、[Close] をクリックします。



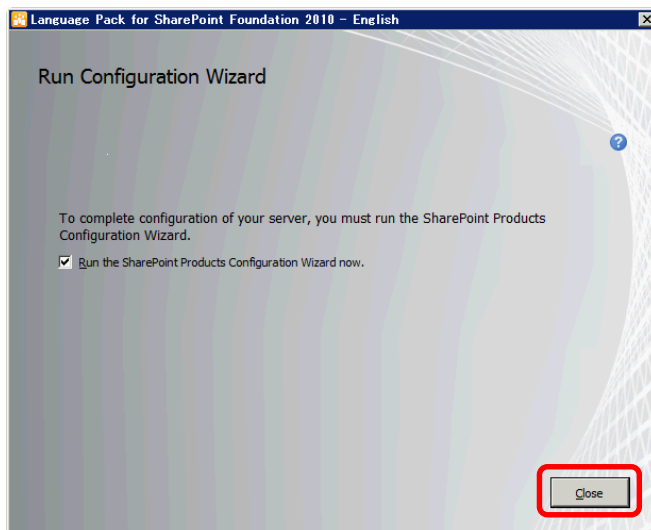
10. ダウンロードした「SharePointLanguagePack.exe」を実行します。

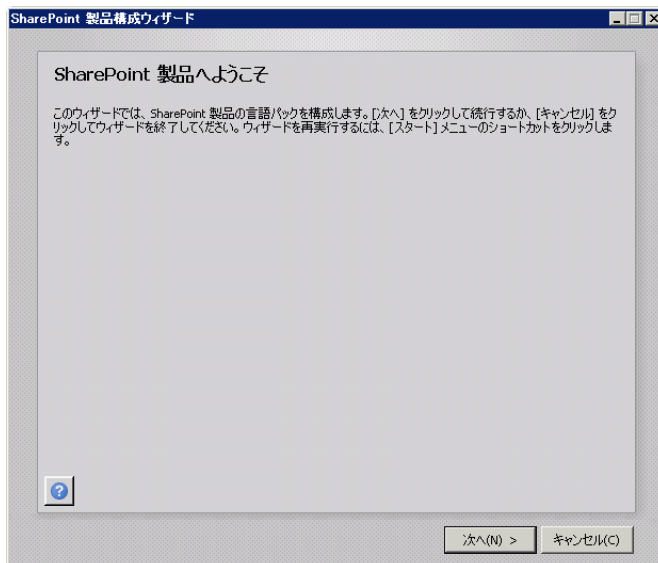
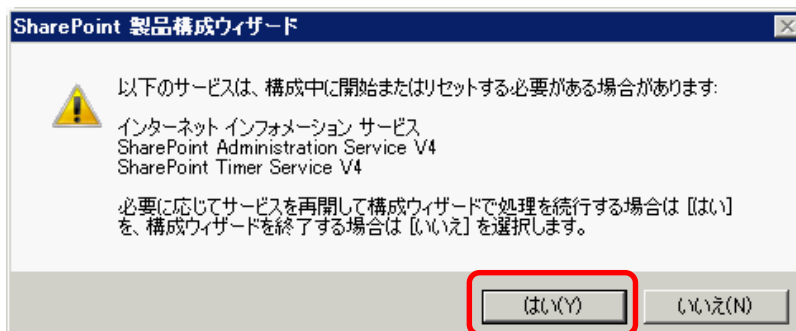
11. [I accept the terms of this agreement] をオンにし、[Continue] をクリックします。

インストールが実行されます。

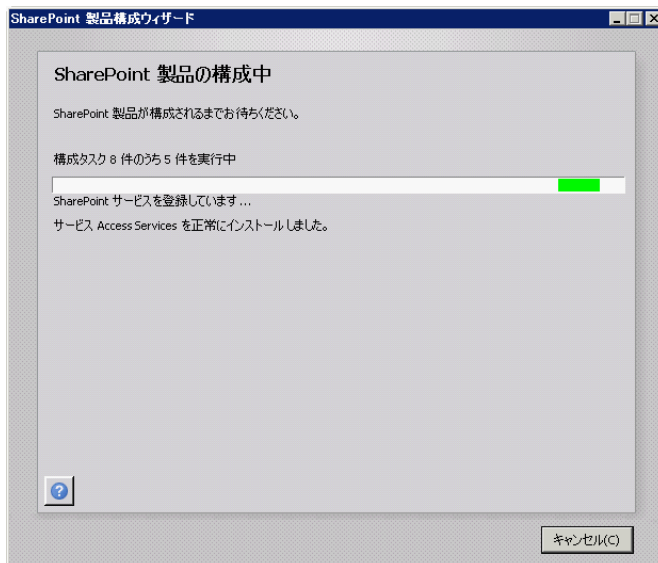


12. インストール終了後、[Run the SharePoint Products Configuration Wizard now.] をオンにし、[Close] をクリックします。

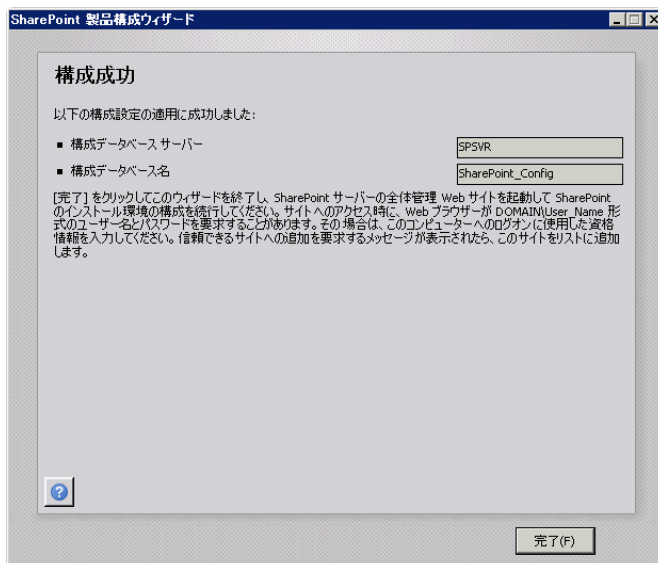


13. SharePoint 製品構成ウィザード が実行されます。**14.** 次の画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

15. SharePoint 製品が構成されます。



16. SharePoint 製品の構成が完了します。



5.1.2 多言語サイトの設定

1. インストールした言語パックを設定します。

新しくサイトを作成し、そのサイトにラベル「Japanese」とラベル「English」を設定します。
[サイトの操作] - [サイトの設定] をクリックします。[サイト コレクションの機能] をクリックし、
一覧から [SharePoint Server 発行インフラストラクチャ] の [アクティブ化] をクリックします。



2. [サイトの操作] - [新しいサイト] をクリックします。



3. 以下のサイトを作成します。

サイトの操作

システム アカウント

テンプレートの選択

サイト テンプレートによって、新しいサイトで使用可能なリストと機能が決まります。各テンプレートの説明と新しいサイトの使用目的を基にサイト テンプレートを選択してください。サイトを作成した後でもサイトの多くの部分をカスタマイズできますが、サイト テンプレートは変更できません。

言語の選択

日本語

テンプレートの選択

グループ作業 会議 エンタープライズ 発行 ユーザー設定

発行ポータル
エンタープライズ Wiki

インターネット用サイトまたは大規模なイントラネット ポータルの開始サイト階層です。このサイトは、独自のブランドに合わせて簡単にカスタマイズできます。この開始サイトには、ホーム ページ、サンプルのプレスリリース サブサイト、検索センター、およびログイン ページが組み込まれています。通常、このサイトには投稿者よりも多くの閲覧者がいます。また、承認ワークフローを使用した Web ページの発行にも使用されます。

サイト コレクション管理者

このサイト コレクションの管理者を指定してください。ログインできるのは 1 ユーザーのみです。セキュリティ グループはサポートされていません。

ユーザー名: SOMEQORP administrator

代理のサイト コレクション管理者

必要に応じて、代理のサイト コレクション管理者を指定してください。ログインできるのは 1 ユーザーのみです。セキュリティ グループはサポートされていません。

ユーザー名:

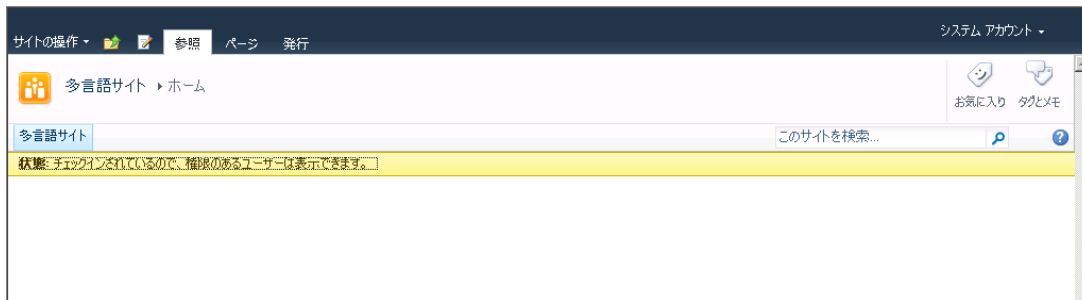
クォータ テンプレート

定義済みのクォータ テンプレートを選択して、このサイト コレクションで使用する

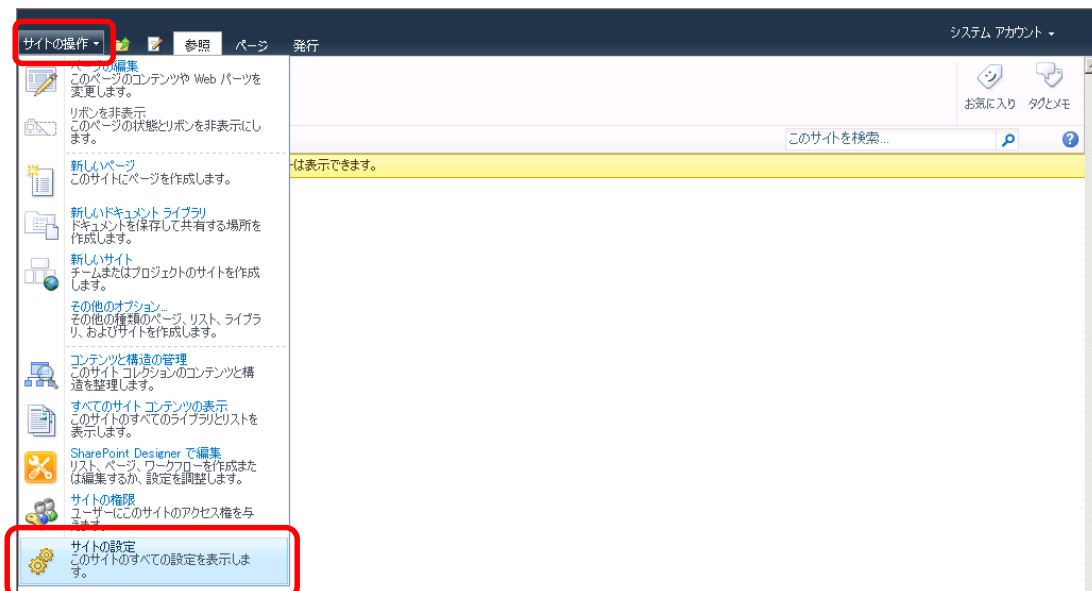
クォータ テンプレートの選択

クォータ

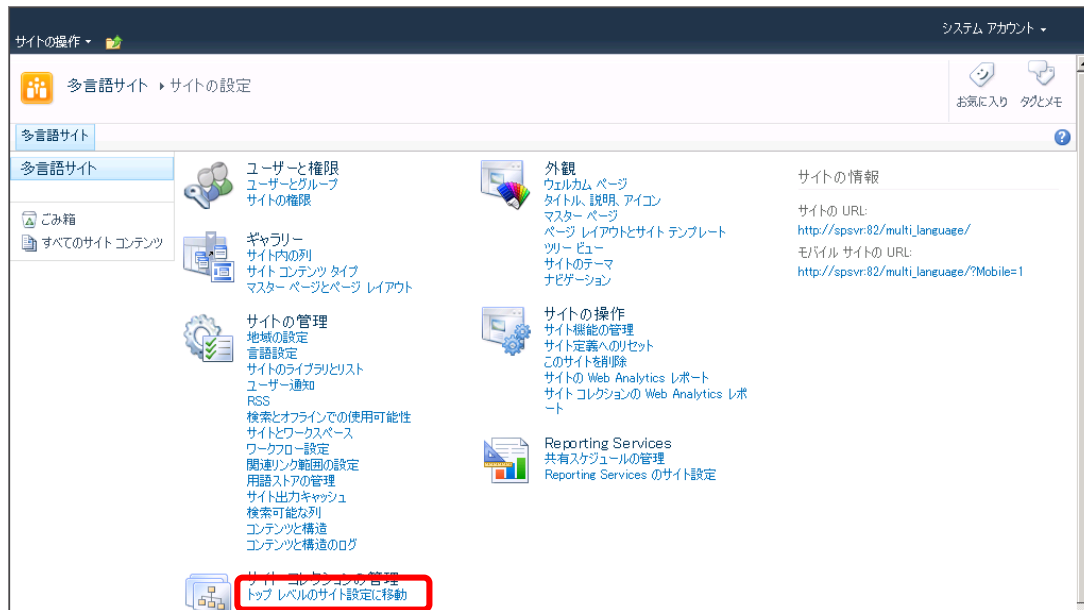
4. 作成したサイトにアクセスします。



5. [サイトの操作] - [サイトの設定] をクリックします。



6. [トップ レベルのサイト設定に移動] をクリックします。



7. [バリエーション] をクリックします。



8. [バリエーションのホーム] に作成したサイトの URL 名を入力します。

サイトの操作 ▾ システム アカウント ▾

サイト コレクションの管理 ▸ バリエーション/設定
このサイトコレクションのバリエーションを設定して構成してください。

多言語サイト プレス リリース このサイトを検索...

プレス リリース

バリエーションのホーム
このサイトのバリエーションの作成開始場所を指定してください。このサイトのバリエーションには、サイトとすべてのサブサイトが含まれます。

場所: 参照...

注意: サイト コレクションのトップレベル Web サイトを示す場合は、スラッシュ (/) を入力してください。

自動作成
サイトの作成時または新しいページの発行時に、対応するバリエーションを自動的に作成するかどうかを選択します。

削除された対象ページの再作成
以前の対象ページが削除された場合、ソース ページの再発行時に新しい対象ページを再度作成するかどうかを選択してください。

対象ページの Web パーツの更新
ソース ページの Web パーツに追加された変更に基づいて、既存の対象ページを更新するかどうかを選択します。更新する場合、Web パーツの個人用設定が失われます。

通知
新しいサブサイトまたはページが作成されたときに対象サイトのウェルカム ページの連絡先に電子メールを送信する場合や、対象ページがソース バリエーションの変更により更新されたときにページの連絡先に電子メールを送信したりする場合は、チェック ボックスをオンにします。

☒ サイトおよびページのバリエーションを自動作成する
☐ サイトまたはページのバリエーションを自動作成しない

☒ ソース ページの再発行時に新しい対象ページを再作成する
☐ ソース ページの再発行時に新しい対象ページを再作成しない

☒ バリエーション ソース ページの更新が伝達されたら Web パーツの変更に基づいて対象ページを更新する
☐ バリエーション ソース ページの更新が伝達されても Web パーツの変更に基づいて対象ページを更新しない

☒ 新しいサイトまたはページが作成された場合や、バリエーション システムによってページが更新された場合にサイトとページの連絡先に電子メールで通知する

9. [OK] をクリックします。

通知
新しいサブサイトまたはページが作成されたときに対象サイトのウェルカム ページの連絡先に電子メールを送信する場合や、対象ページがソース バリエーションの変更により更新されたときにページの連絡先に電子メールを送信したりする場合は、チェック ボックスをオンにします。

リソース
新しいページ バリエーションで元のページと同じリソースを使用するか、新しいページの場所にリソースをコピーして使用するかを選択します。

☒ 新しいサイトまたはページが作成された場合や、バリエーション システムによってページが更新された場合にサイトとページの連絡先に電子メールで通知する

☒ 既存のリソースを参照する
☐ リソースをコピーする

OK キャンセル

10. [バリエーション ラベル] をクリックします。



11. [新しいラベル] をクリックします。



12. ラベル「Japanese」を作成します。

以下の情報を基に入力し、[OK] をクリックします。

ラベル名	任意
表示名	任意
サイト テンプレートの言語	日本語
ロケール	日本語

13. [ソースの階層] – [このバリエーションをソース バリエーションとして設定する] をオン、テンプレートを「発行サイト」をクリックし、[OK] をクリックします。

14. ラベル「Japanese」が追加されたことを確認します。



15. 次に同様の手順でラベル「English」を作成します。 以下の情報を基に入力し、[OK] をクリックします。

ラベル名	任意
表示名	任意
サイト テンプレートの言語	英語
ロケール	英語 (米国)

ラベルと説明
このバリエーション ラベルの名前と説明を入力してください。

ラベル名
[English]

説明
[]

表示名
このラベルの表示名を選択してください。通常、ラベルの文字列が階層化されたものやユーザーにわかりやすい名前を表示名に指定します。

表示名
[English]

言語
リストから言語パックを選択して、このバリエーションのアプリケーション UI 言語を指定してください。
同じ言語パックを参照するバリエーション ラベルが複数あってもかまいません。

言語
[英語]

ロケール
このバリエーションに適用するロケールを選択してください。

ロケール
[英語 (米国)]

16. [OK] をクリックします。


ソース バリエーション

チェック ボックスをオンにして、このバリエーション ラベルをソース バリエーションとして選択します。次に、ソース バリエーション サイトの準備に使用する発行サイト テンプレートを選択します。

ソースの階層:

☐ このバリエーションをソース バリエーションとして設定する

使用する発行サイト テンプレートを選択してください

 バリエーション階層を作成した後に、この設定を変更することはできません。

OK キャンセル

17. ラベル「English」が追加されたことを確認します。[階層の作成] をクリックします。

サイトの操作

システム アカウント

サイト コレクションの管理 ▶ バリエーション ラベル
このページを使用して、バリエーション ラベルを構成します。

WCMサイト このサイトを検索...

ライブラリ
サイトのページ
共有ドキュメント

新しいラベル **階層の作成**

ラベル	表示名	言語	ローカル	ソース	説明	階層作成済み
Japanese	Japanese	日本語 (日本)	日本語 (日本)	はい	いいえ	
English	English	English (United States)	English (United States)	いいえ	いいえ	

ディスカッション
チーム ディスカッション

18. [OK] をクリックします。

サイトの操作

システム アカウント

サイト コレクションの管理 ▶ バリエーションの送信

WCMサイト このサイトを検索...

ライブラリ
サイトのページ
共有ドキュメント

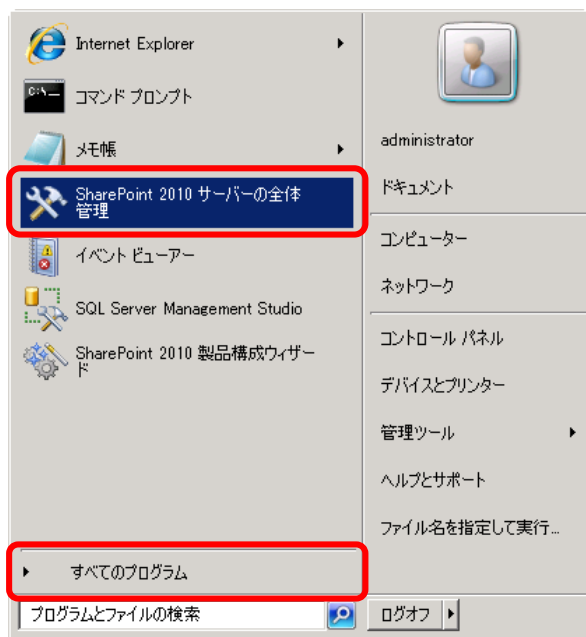
操作は正常に完了しました

バリエーション階層が作成されます。
次のスケジュールに基づいて、タイマー ジョブ 'バリエーション階層作成ジョブの定義' が実行されます: 'daily between 00:00:00 and 03:00:00'

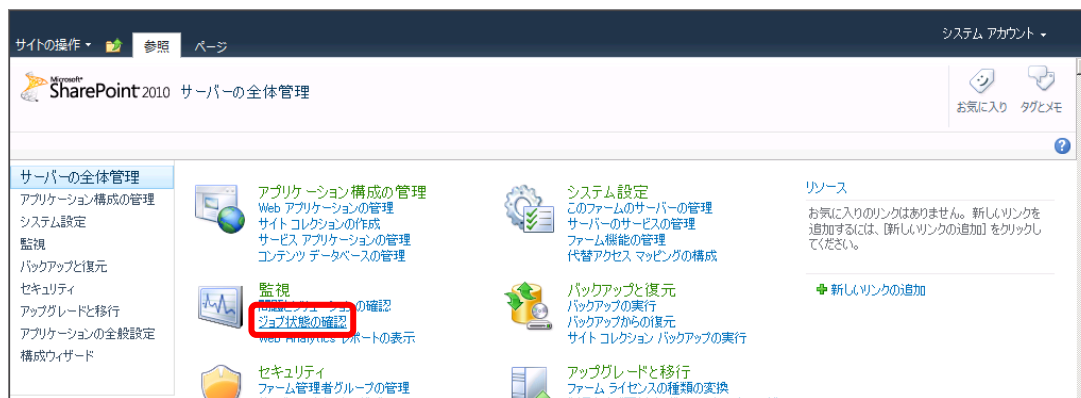
リスト
予定表
タスク

OK

19. [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] - [Microsoft SharePoint 2010 Products] - [SharePoint 2010 サーバーの全体管理] をクリックします。



20. [監視] - [ジョブ状態の確認] をクリックします。



21. [タイマーのリンク] – [ジョブの定義] をクリックします。

タイトル	Web アプリケーション	スケジュールの種類
CEIP データ収集		日単位
ContentDeploymentJobDefinition: tes5 のコンテンツ展開タイマー ジョブ		無効
ContentDeploymentJobDefinition: test2 のコンテンツ展開タイマー ジョブ		無効
ContentDeploymentJobDefinition: test4 のコンテンツ展開タイマー ジョブ		無効
ContentDeploymentJobDefinition: パス 'test' の簡易展開ジョブ のコンテンツ展開タイマー ジョブ		無効

22. [バリエーション階層作成ジョブの定義] をクリックします。

タイマー サービスのリサイクル		日単位
ディスク クォータの警告	SharePoint - 80	週単位
ドキュメント ID の割り当てジョブ	SharePoint - 80	日単位
ドキュメント ID の有効化/無効化ジョブ	SharePoint - 80	日単位
ドキュメント セットのフィールド同期ジョブ	SharePoint - 80	分単位
パスワード管理		日単位
バリエーション サイト作成ジョブの定義	SharePoint - 80	分単位
バリエーション サイト伝達ジョブの定義	SharePoint - 80	分単位
バリエーション ページ作成ジョブの定義	SharePoint - 80	時間単位
バリエーション ページ伝達ジョブの定義	SharePoint - 80	時間単位
バリエーション階層作成ジョブの定義	SharePoint - 80	日単位
ライセンス同期プログラムジョブ		時間単位
ログの管理	SharePoint - 80	週単位

23. [今すぐ実行] をクリックします。

ジョブのタイトル	バリエーション階層作成ジョブの定義
ジョブの説明	すべてのバリエーション ラベルの展開元のサイト階層から、すべてのサイトとページを生成して完全なバリエーション階層を作成します。
ジョブのプロパティ	Web アプリケーション: SharePoint - 80 前回の実行時刻: 該当なし
定期的なスケジュール	このタイマー ジョブの実行スケジュール: <input type="radio"/> 分単位 <input type="radio"/> 時間単位 <input checked="" type="radio"/> 日単位 <input type="radio"/> 週単位 <input type="radio"/> 月単位

このタイマー ジョブの実行スケジュール: 毎日実行: 00:00 から 03:00

このセクションには、このジョブのプロパティが一覧表示されています。

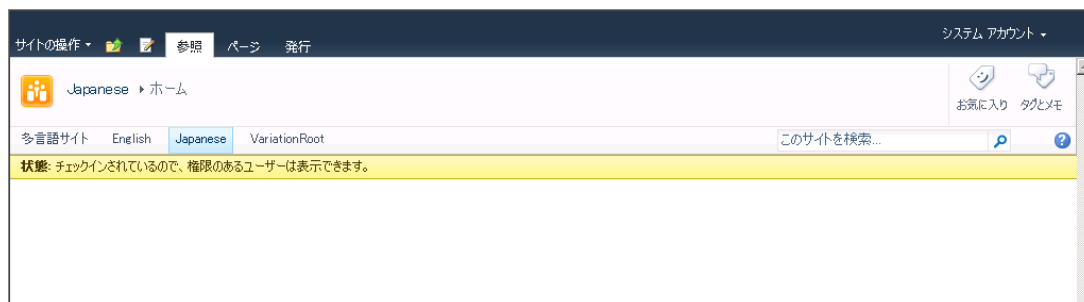
このセクションを使用して、タイマー ジョブの実行スケジュールを変更します。日単位、週単位、および月単位のスケジュールには実行時間帯も指定します。タイマー サービスは、この間隔に基づいて無作為に時刻を選択し、対象の各サーバーでこのジョブを実行します。この機能は、サーバーの稼働のサーバーで実行される負荷の大きいジョブに適しています。このようなジョブをすべてのサーバーで同時に実行すると、過剰な負荷がサーバーにかかることがあります。開始時刻を明確に指定するには、間隔の開始時刻と終了時刻を同じにします。

今すぐ実行 無効 OK キャンセル

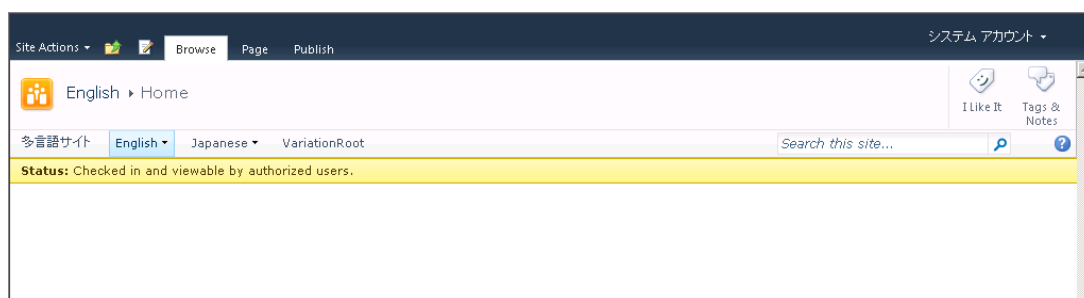
24. 先ほどの [バリエーション ラベル] 画面で、「Japanese」と「English」の [階層作成済み] が「はい」になったことを確認します。



25. 作成したサイトにアクセスします。アクセスした時に、「Japanese」に遷移することを確認します。「English」にアクセスします。

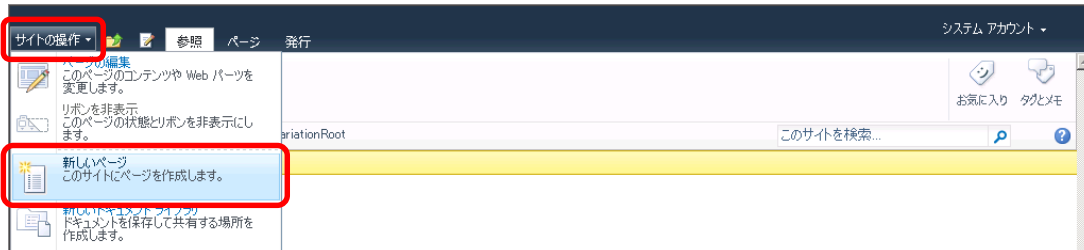


26. メニューの言語が、作成した言語になっていることを確認します。

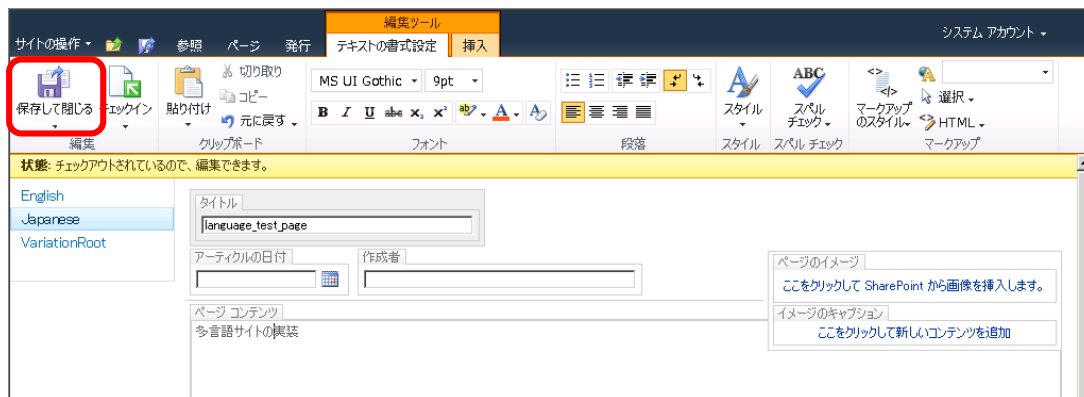


5.1.3 多言語サイトの利用方法

1. [Japanese] に遷移した状態で、[サイトの操作] - [新しいページ] をクリックします。任意のページ名を入力します。



2. テキスト ボックスに、任意の文字を入力し、[保存して閉じる] メニューをクリックします。



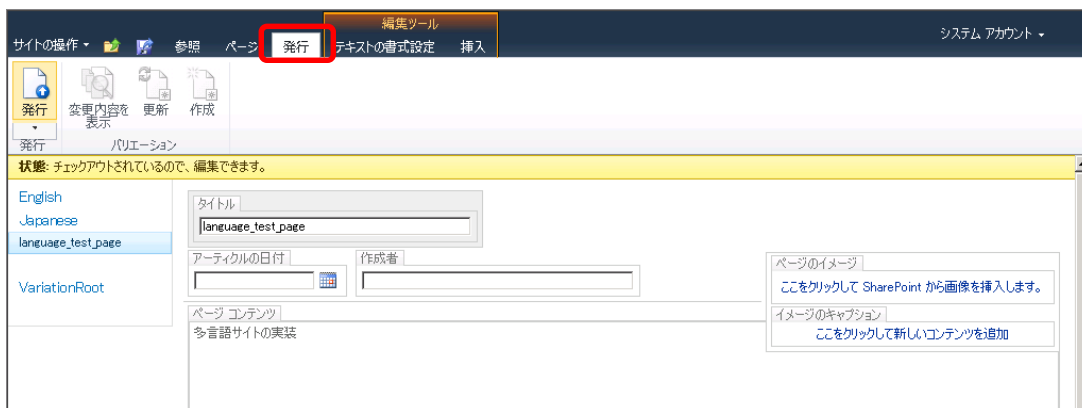
3. [サイトの操作] - [コンテンツと構造の管理] をクリックします。
[Japanese] - [ページ] をクリックし、先ほど作成したページを確認します。



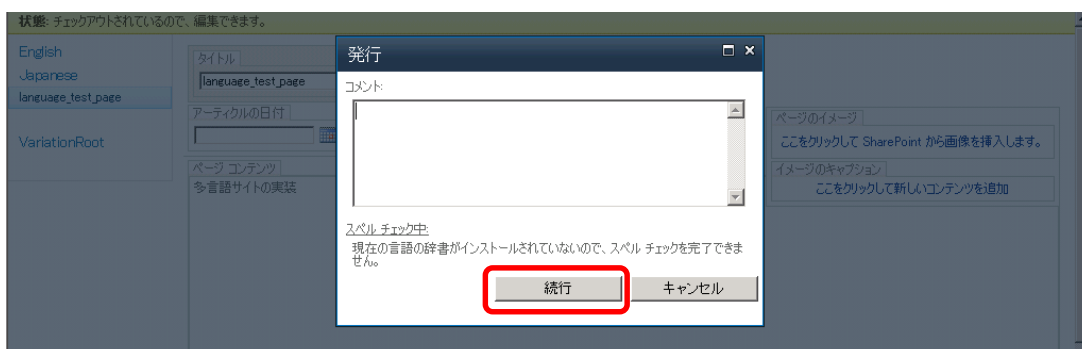
4. [English] - [Pages] をクリックし、ページが作成されていないことを確認します。



5. 先ほど作成したページを表示します。[発行] メニューをクリックします。



6. [続行] をクリックします。



7. [ジョブの定義] 画面で、[バリエーション ページ作成ジョブの定義] をクリックします。

サイトの操作	システム アカウント	
ソリューションの日単位リソース利用状況の更新	SharePoint - 82	日単位
タイマー サービスのサイクル		日単位
ディスク クォータの警告	SharePoint - 80	週単位
ディスク クォータの警告	SharePoint - 81	週単位
ディスク クォータの警告	SharePoint - 82	週単位
ドキュメント ID の割り当てジョブ	SharePoint - 80	日単位
ドキュメント ID の割り当てジョブ	SharePoint - 81	日単位
ドキュメント ID の割り当てジョブ	SharePoint - 82	日単位
ドキュメント ID の有効化/無効化ジョブ	SharePoint - 80	日単位
ドキュメント ID の有効化/無効化ジョブ	SharePoint - 81	日単位
ドキュメント ID の有効化/無効化ジョブ	SharePoint - 82	日単位
ドキュメント セットのフィールド同期ジョブ	SharePoint - 80	分単位
ドキュメント セットのフィールド同期ジョブ	SharePoint - 81	分単位
ドキュメント セットのフィールド同期ジョブ	SharePoint - 82	分単位
パスワード管理		日単位
バリエーション サイト作成ジョブの定義	SharePoint - 80	分単位
バリエーション サイト作成ジョブの定義	SharePoint - 81	分単位
バリエーション サイト作成ジョブの定義	SharePoint - 82	分単位
バリエーション サイト伝達ジョブの定義	SharePoint - 80	分単位
バリエーション サイト伝達ジョブの定義	SharePoint - 81	分単位
バリエーション サイト伝達ジョブの定義	SharePoint - 82	分単位
バリエーション ページ作成ジョブの定義	SharePoint - 80	時間単位
バリエーション ページ作成ジョブの定義	SharePoint - 81	時間単位

8. 「今すぐ実行」 をクリックします。

ここでは、バリエーション ページ作成ジョブをすぐに実行していますが、通常は、ジョブで定義されているように 1 時間毎に実行されます。

Microsoft SharePoint 2010

サーバーの全体管理 ▶ タイマー ジョブの編集
このページを使用して、タイマー ジョブを変更または削除します。

お気に入り タグとメモ

タスク	説明						
タイマーのリンク タイマー ジョブの状態 スケジュール済みのジョブ 実行中のジョブ ジョブ履歴 ジョブの定義	ジョブのタイトル バリエーション ページ作成ジョブの定義						
サーバーの全体管理 アプリケーション構成の管理 システム設定 監視 バックアップと復元 セキュリティ アップグレードと移行 アプリケーションの全般設定 構成ウィザード	ジョブの説明 バリエーション サイトにピア ページを作成します。						
	ジョブのプロパティ このセクションには、このジョブのプロパティが一覧表示されています。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ名</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Web アプリケーション:</td> <td>SharePoint - 80</td> </tr> <tr> <td>前回の実行時刻:</td> <td>2010/07/29 18:05</td> </tr> </tbody> </table>	プロパティ名	値	Web アプリケーション:	SharePoint - 80	前回の実行時刻:	2010/07/29 18:05
プロパティ名	値						
Web アプリケーション:	SharePoint - 80						
前回の実行時刻:	2010/07/29 18:05						
	定期的なスケジュール このセクションを使用して、タイマー ジョブの実行スケジュールを変更します。日単位、週単位、および月単位のスケジュールには実行時間帯も指定します。タイマー サービスは、この期間に基づいて無作為に時刻を選択し、対象の各サーバでこのジョブを実行します。この機能は、ファームの複数のサーバで実行される負荷の大きいジョブに適しています。このようなジョブをすべてのサーバで同時に実行すると、過剰な負荷がファームにかかることがあるためです。開始時刻を明確に指定するには、間隔の開始時刻と終了時刻を同じにします。						

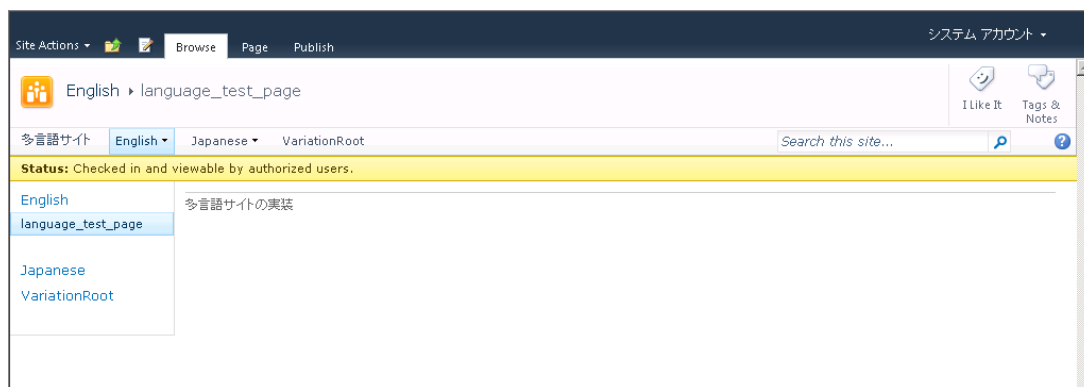
☒ 分単位 毎時実行
☒ 時間単位 [0] 分
 から
☐ 日単位 [59] 分
☐ 週単位
☐ 月単位

9. 先ほどの [コンテンツと構造の管理] 画面で、[English] - [pages] をクリックし、[Japanese] で作成したページが複製されていることを確認します。

複製されたページをクリックします。



10. [Japanese] で作成したページと同じ内容であることを確認します。

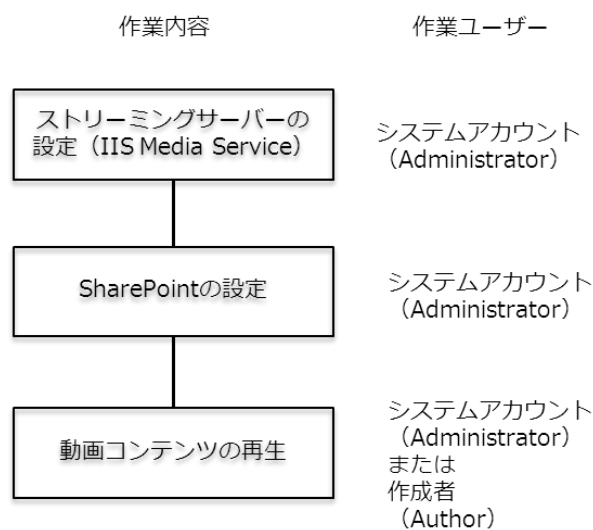


5.2 動画コンテンツの配信

ここでは、動画コンテンツのストリーミング配信について説明します。

ストリーミングとは、インターネットなどのネットワークを通じて映像や音声などのマルチメディアデータを視聴する際に、データを受信しながら同時に再生を行う方式のことです。従来、このようなコンテンツを閲覧するためには、すべてのデータを受信するまで待つ必要がありましたが（ダウンロード配信）、ストリーミング配信を行うことにより、低速な回線でも映像や音声のリアルタイム再生が可能となりました。

ここでは、以下の手順に従い、IIS Media Services を用いてストリーミング配信する方法を説明します。



5.2.1 ストリーミングサーバー (IIS Media Services) の設定

IIS Media Services を使い、ビットレート調整を行います (ビットレートスロットリング)。このビットレート調整を使用すると、複数の種類のメディアファイルおよびデータのダウンロード速度を計測して、ネットワーク負荷を削減できます。

1. <http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=21c12a04-7e36-4b63-b4ef-eeb6273cf54> にアクセスします。

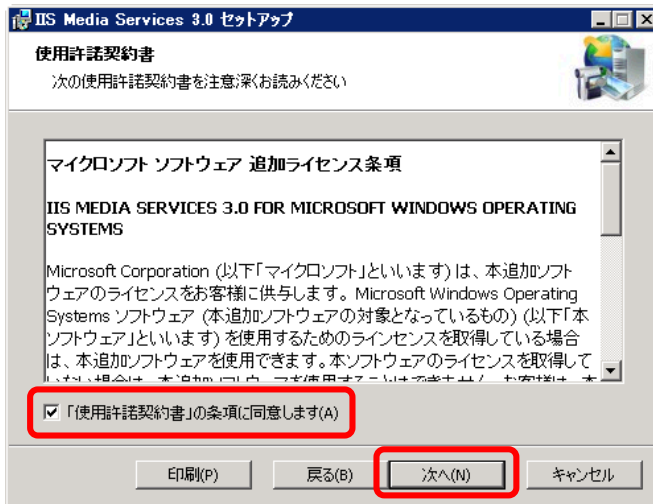
[ダウンロード] をクリックし、ファイルをダウンロードします。



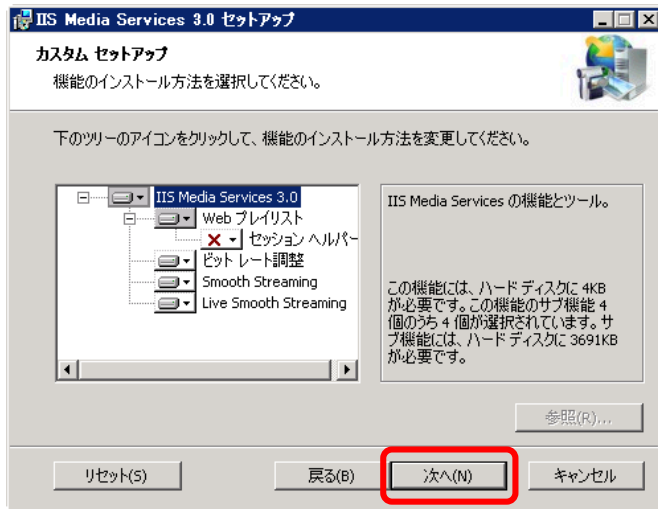
2. ダウンロードした「IISMedia_amd64_ja-JP.msi」を実行します。



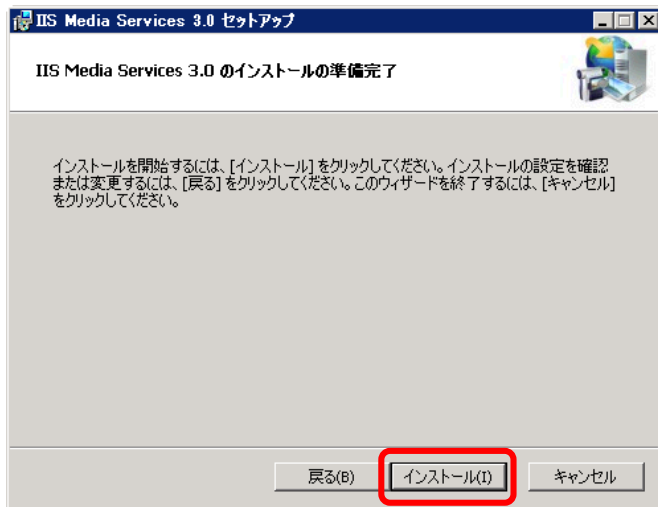
3. [「使用許諾契約書」の条項に同意します] をオンにし、[次へ] をクリックします。



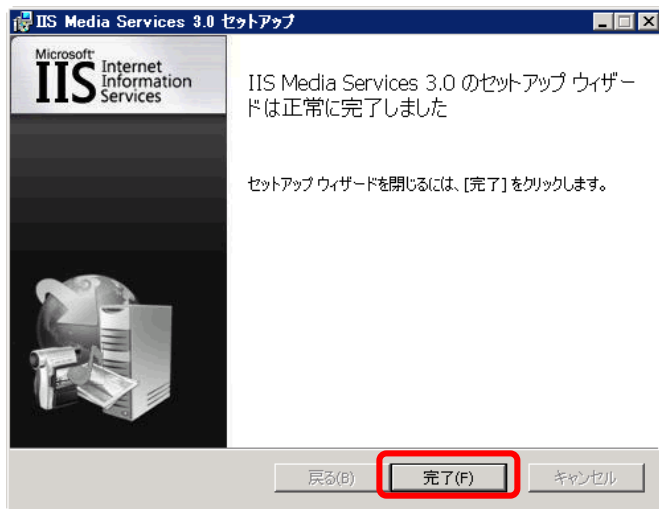
4. [次へ] をクリックします。



5. [インストール] をクリックします。

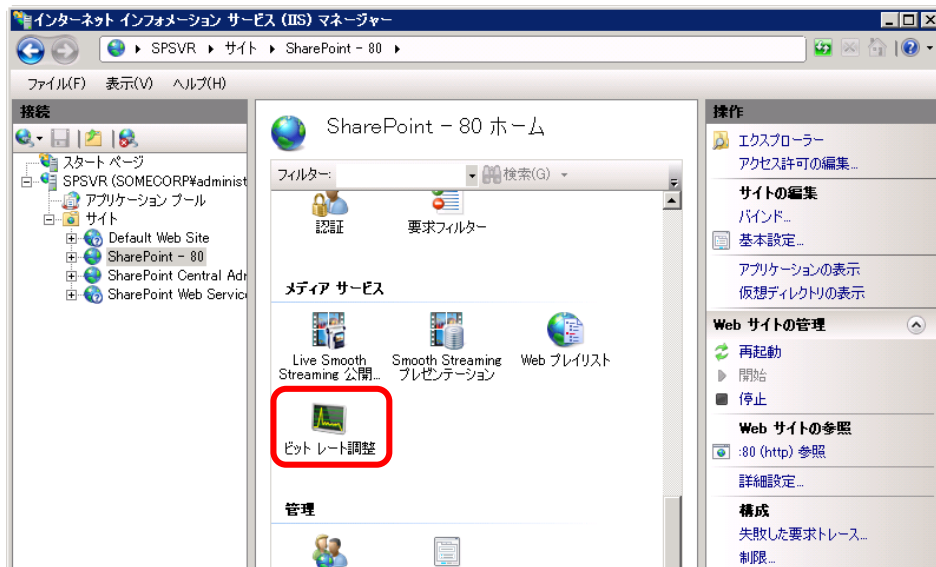


6. [完了] をクリックします。

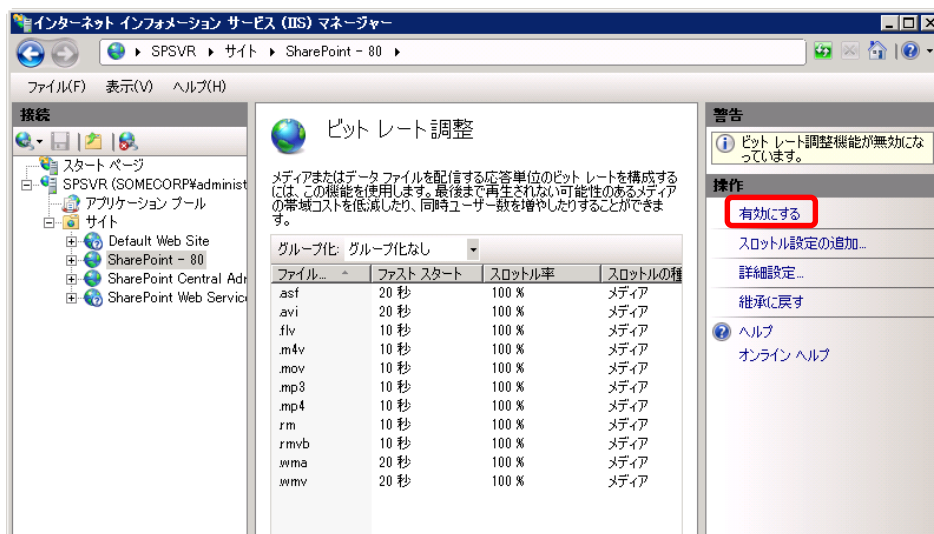


7. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーで、
[(サーバー名)] - [サイト] - [(ストリーミングを行うアプリケーション)] をクリックします。

[メディア サービス] - [ビット レート調整] をダブルクリックします。



8. 右ナビゲーションから [有効にする] をクリックします。



このビットレート調整を使用すると、複数の種類のメディアファイルおよびデータのダウンロード速度を計測して、ネットワーク負荷を削減できます。ビットレート調整は、Windows Media ビデオ (WMV)、Flash ビデオ (FLV)、MPEG 4 (MP4) などの一般的なメディア形式 11 種類について、エンコードされたビット レートを自動的に検出することでこれを実現します。

たとえば、最初の数秒分のコンテンツを最大可能データ送信速度でクライアントに送信し、残りのコンテンツはエンコードビットレートに落ちた速度で送信して、ユーザーが視聴したいコンテンツをすばやく再生する「ファスト スタート」を実現できます。

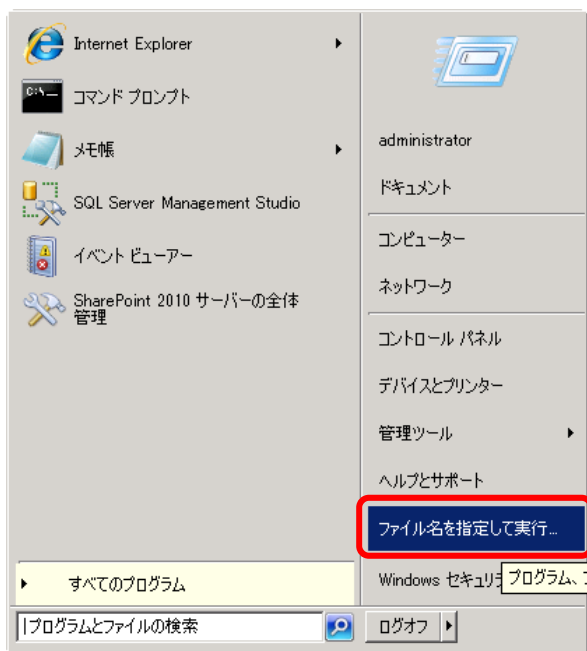
上の例で wmv の設定を見てみると、ファストスタート 20 秒、スロットル率 100%となっています。これは最初に接続してから 20 秒は帯域を多めに使ってデータを取得し、その後は指定されたビットレートでダウンロードする設定となります。このビットレート調整により、wmv ファイルのダウンロードに帯域を使い、他の重要な処理が行えなくなることを防ぎます。

5.2.2 SharePoint の設定

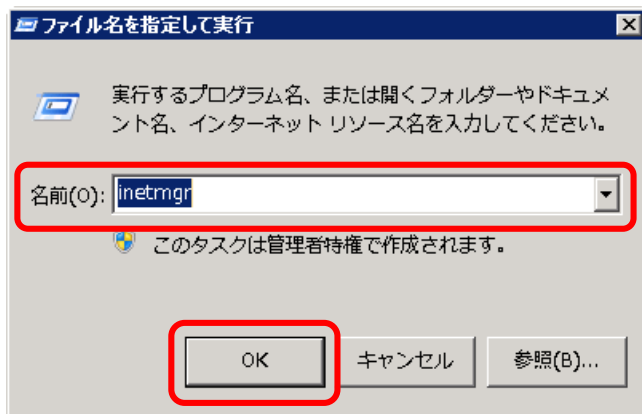
SharePoint で BLOB (Binary Large Object) キャッシュを有効にします。BLOB キャッシュを有効にすることにより、IIS Media Services で設定したビットレート調整も有効になります。

BLOB キャッシュはライブラリやリストに格納されている画像、スクリプト、動画、音声といったファイルサイズが大きなデータを Web サーバーのディスク上にファイルとしてキャッシュする機能です。この機能を使うと、SQL Server へのアクセスが減るためパフォーマンスが向上します。

1. [スタート] メニューから、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。

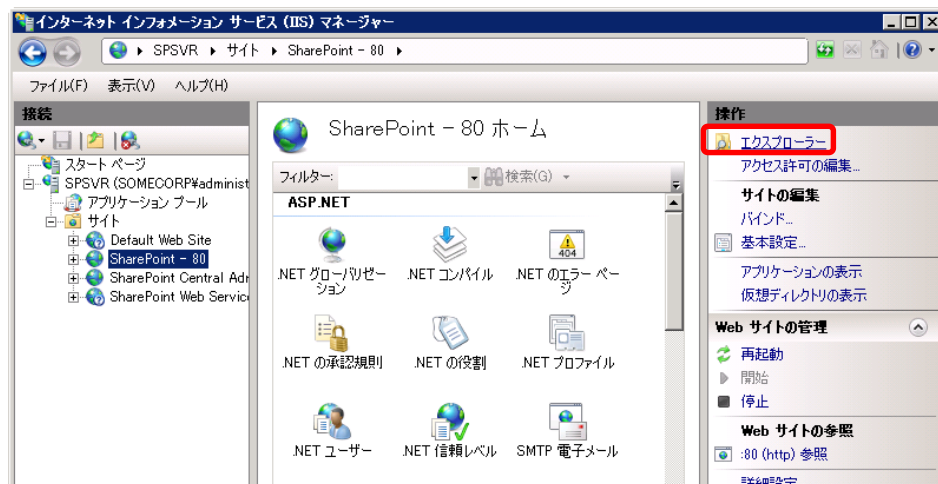


2. [名前] に「inetmgr」と入力し、[OK] をクリックします。

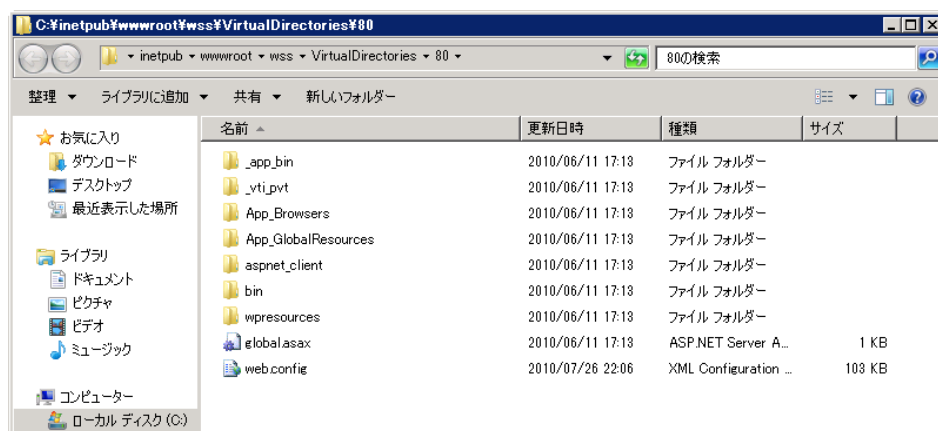


3. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーが起動されます。

[(サーバー名)] – [サイト] – [(ストリーミングを行うアプリケーション)] をクリックし、右ナビゲーションから [エクスプローラー] をクリックします。



4. web.config をメモ帳で開きます。




```
<Action id="2ac090bc-29ed-42dd-8b47-548a927c3501" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="ea2d54ca-cd14-48a7-5a3a-b10b24141937" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="0ff1ce14-1019-0000-0000-000000000000" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="0ff1ce14-101a-0000-0000-000000000000" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="0ff1ce14-101b-0000-0000-000000000000" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="0ff1ce14-101c-0000-0000-000000000000" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="0ff1ce14-101d-0000-0000-000000000000" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="0ff1ce14-101e-0000-0000-000000000000" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="0ff1ce14-1020-0000-0000-000000000000" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="0ff1ce14-1021-0000-0000-000000000000" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="ec0076ac-0c35-4880-8422-8062f5925bec" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="602bcb3c-9286-49a3-b973-3376ca178b297" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="00e22a78-33ff-41ac-b0fb-ea46d1636e22" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="4b60e42e-e6fc-4188-80d2-ef397cc00b5" sourceFile="C:\Program Files\Comman
<Action id="1d415973-1146-4bc2-8324-83dfff5bf33" sourceFile="C:\Program Files\Comman
</ArrayOfAction>
<BlobCache location="C:\BlobCache\14" paths="{\gif\jpeg\jpegi\iff\hml\dlb\itf\iff\ic
<ObjectCache maxSize=100 />
<OutputCacheProfiles useCacheProfileOverrides="false" varyByHeader="" varyByParam="*" va
<RuntimeFilter Assembly="Microsoft.Office.Server, Version=14.0.0.0, Culture=neutral, Pub
</SharePoint>
<system.web>
  <securityPolicy>
    <trustLevel name="WSS_Medium" policyFile="C:\Program Files\Comman Files\Microsoft Sha
    <trustLevel name="WSS_Minimal" policyFile="C:\Program Files\Comman Files\Microsoft Sha
  </securityPolicy>
  <httpHandlers />
  <customErrors mode="On" />

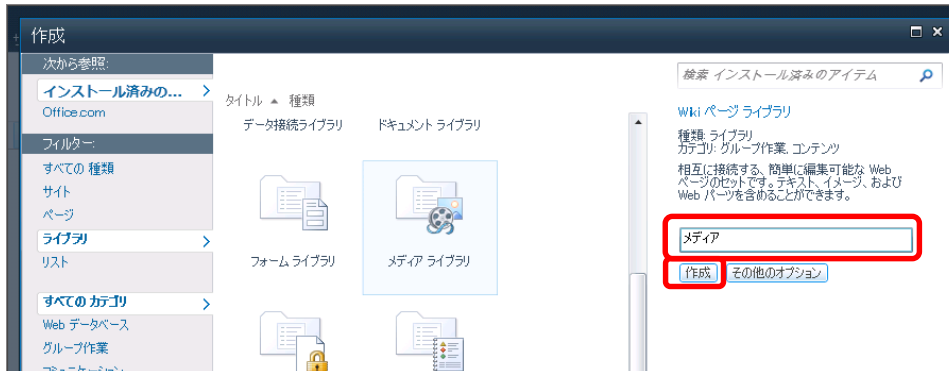
```

[illegible]

5.2.3 動画コンテンツの再生

ここでは、メディアライブラリを利用し、実際に動画のストリーミング配信を行います。

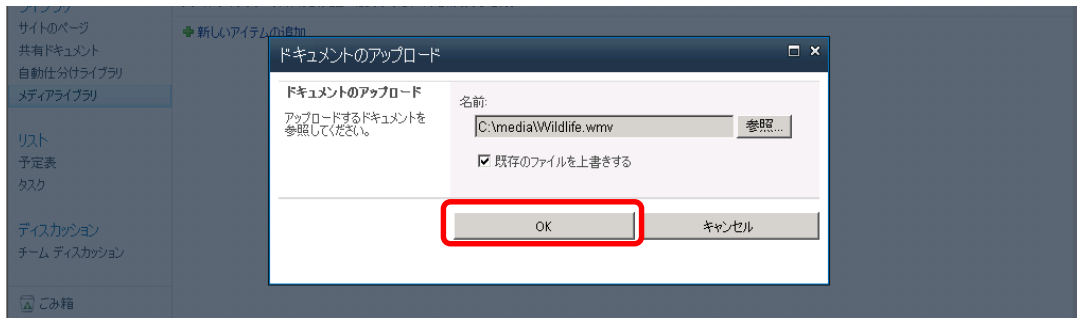
1. [サイトの操作] - [その他のオプション] をクリックします。
[メディア ライブラリ] をクリックし、[名前] に [メディア] と入力し、[作成] をクリックします。



2. [新しいアイテムの追加] をクリックします。

[参照] をクリックし、ドキュメントのファイルパスを指定します（ここでは Wildlife.wmv という動画ファイルを指定しています）。

[OK] をクリックします。



3. [保存] をクリックします。

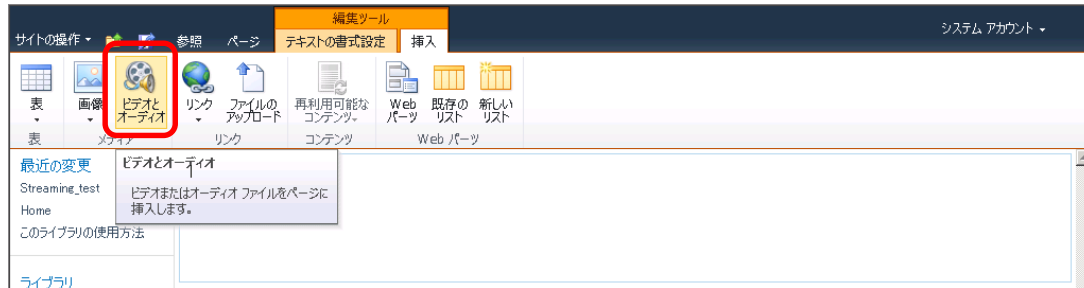
The screenshot shows the 'Media Library - Wildlife.wmv' window in SharePoint. The 'Edit' tab is active, displaying a form for editing the media item. The form includes fields for 'Content Type' (set to 'ビデオ'), 'Name' (set to 'Wildlife.wmv'), 'Title', 'Keywords', 'Author' (set to '主要作成者'), and 'Comments'. A message at the top states: 'ドキュメントは正常にアップロードされました。このフォームを使用して、ドキュメントのプロパティを更新してください。' (The document has been uploaded successfully. Use this form to update the document's properties.) At the bottom of the form, the 'Save' button is highlighted with a red rectangle. Other buttons visible include 'Cancel', 'Attach', 'Copy', and 'Delete Item'.

4. [サイトのページ] - [新しいページの追加] をクリックします。 [新しいページ名] に [Streaming_test] と入力し、[作成] をクリックします。

The screenshot shows the 'New Page' dialog box in SharePoint. The dialog box has a title bar that says '新しいページ' (New Page). Inside, it says 'このページはサイトのページ ライブラリに作成されます。' (This page will be created in the site's page library.) There is a text input field labeled '新しいページ名:' (New Page Name:) which contains the text 'Streaming_test'. Below the input field, the 'Create' button is highlighted with a red rectangle. The 'Cancel' button is also visible.

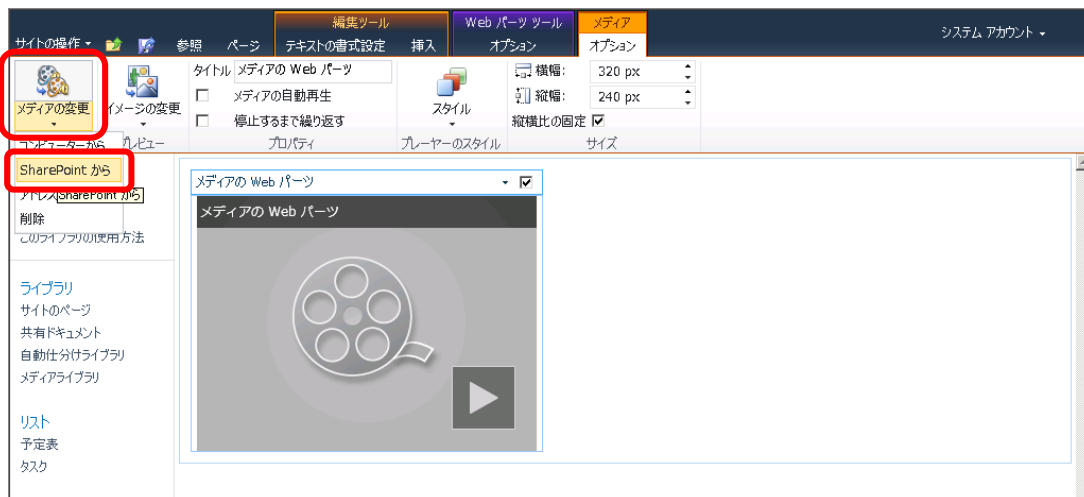
5. [Streaming_test] のページを編集します。

[編集ツール] - [挿入] - [ビデオとオーディオ] をクリックします。

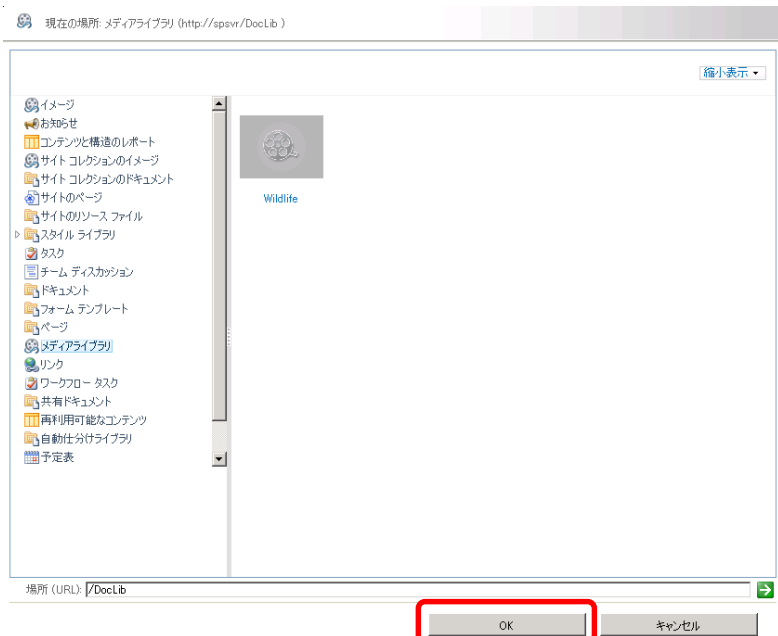


6. [メディアの Web パーツ] が挿入されます。

[メディアの変更] - [SharePoint から] をクリックします。



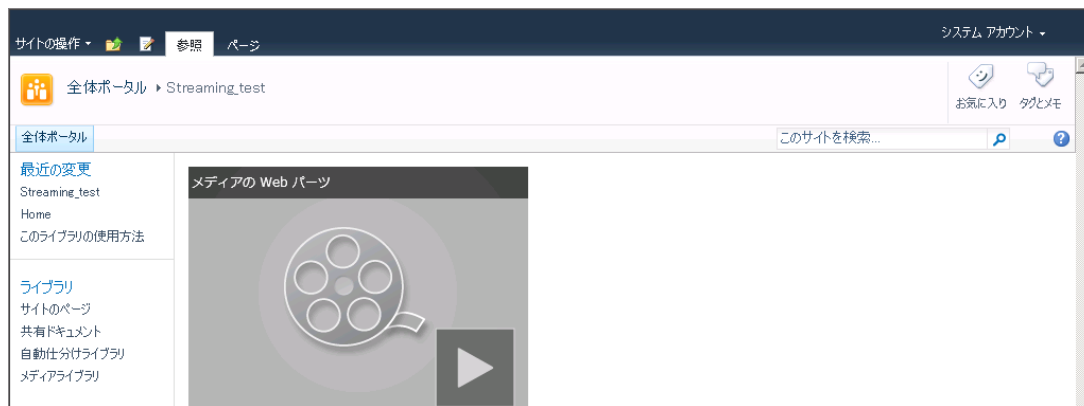
7. [メディアライブラリ] をクリックし、先ほど追加したメディアライブラリを選びます。
[OK] をクリックします。



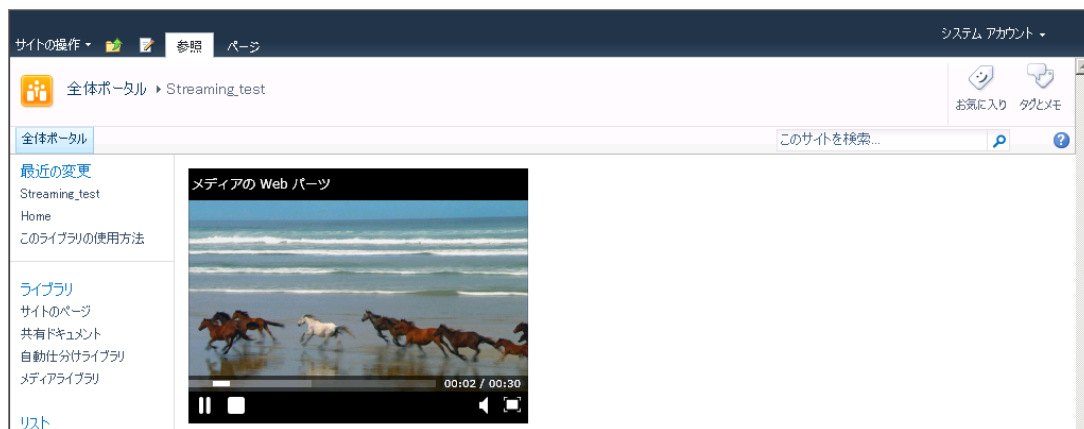
8. [保存して閉じる] をクリックします。



9. [Streaming_test] に [メディアの Web パーツ] が追加されました。



10. [再生] をクリックすることで、メディアを確認することができます。



5.3 ログ管理

Web サイトの利用状況はログとして SharePoint サーバー上に保存されます。ここでは、サイトの利用状況を分析するツールである Web Analytics レポートを用いて説明します。Web Analytics レポートではサイト単位またはサイト コレクション単位の 2 つのレベルで分析できます、

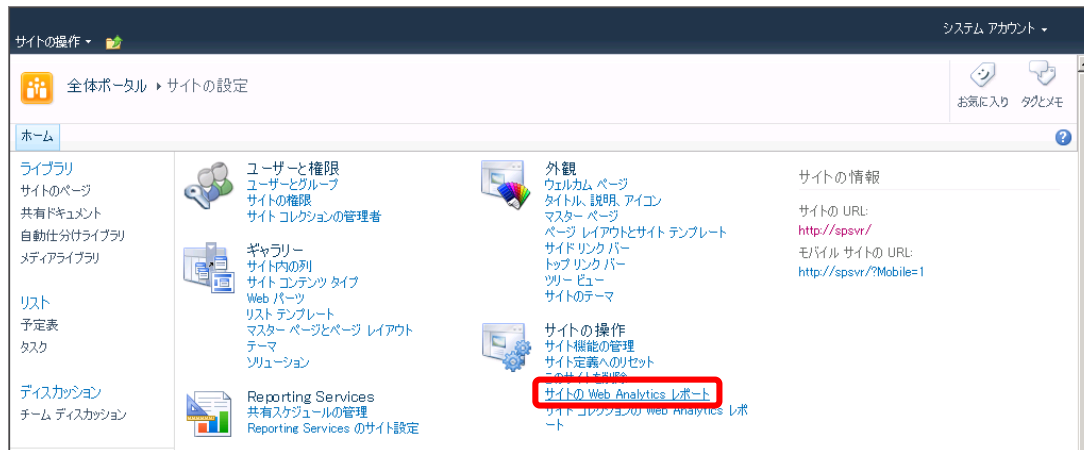
ここでは、閲覧ログと検索ログの 2 つについて説明します。

閲覧ログを見ることにより、ページビューの数やユニークビジターの数、アクセスの多いページなどサイトの利用状況を調べることができます。また、検索ログからは、よく使用されるクエリ（検索キーワード）や失敗したクエリ（1 件もヒットしなかったキーワード）、おすすめコンテンツの利用状況などを調べることができます。

5.3.1 閲覧ログの表示

サイトの Web Analytics レポートを見て、ページビューやユニークビジター数、参照元の数、アクセスの多いページ、上位訪問者など調べることができます。ここでは、ページビューとアクセスの多いページについて説明します。

1. [サイトの操作] - [サイトの設定] - [サイトの操作] - [サイトの Web Analytics] をクリックします。



2. [ページビューの数] をクリックします。

折れ線グラフとリストでページビューの数が表示されます。グラフの横軸が時刻、縦軸がページビューの数となります。

ページビューとは、Web サイトへのアクセス数の単位の一つです。Web サイトの訪問者のブラウザに HTML 文書 (Web ページ) が 1 ページ表示されるのが 1 ページビューです。通常、訪問者はサイト内の複数のページを閲覧するため、訪問者数(ユニークビジター数)よりもページビューの方が多くなります。

企業のマーケティング担当者が、ある Web サイトに広告 (インターネット広告やバナー広告) を掲載する場合には、掲載先となる Web サイトのページビューが重要になります。ページビューはどのくらいの人の目に広告がふれるのかを把握するための指標となります。



サイトの操作 ▾ 参照 分析 システム アカウント ▾

日付 ↑	ページ ビューの数
2010/07/05	0
2010/07/06	0
2010/07/07	0
2010/07/08	0
2010/07/09	0
2010/07/10	0
2010/07/11	0
2010/07/12	84
2010/07/13	1
2010/07/14	153
2010/07/15	15
2010/07/16	0
2010/07/17	0
2010/07/18	0
2010/07/19	0
2010/07/20	0
2010/07/21	0
2010/07/22	0
2010/07/23	0
2010/07/24	0
2010/07/25	0

3. [アクセスの多いページ] をクリックします。

ページごとに棒グラフとリストでアクセスの多いページが表示されます。グラフの横軸がページ番号（ページ番号の URL はリストに表示）、縦軸がページビューの数となります。



サイトの操作 参照 分析 システム アカウント

ページの URL (場所: http://spsvr)	ページビューの数↓	全体に対する割合
1 /_layouts/accessdenied.aspx	24	9.49%
2 /_layouts/settings.aspx	21	8.30%
3 /_layouts/addrankpromotion.aspx	19	7.51%
4 /_layouts/contextualkeywordmanagement.aspx	19	7.51%
5 /_layouts/popupselector.aspx	17	6.72%
6 http://160.14.100.224/	14	5.53%
7 /_layouts/usercontextmanagement.aspx	14	5.53%
8 /_layouts/keyworddetails.aspx	11	4.35%
9 /_layouts/addgallery.aspx	9	3.56%
10 /_layouts/addusercontext.aspx	8	3.16%
11 /_layouts/addfeaturedcontent.aspx	7	2.77%
12 /_layouts/rankpromotionmanagement.aspx	7	2.77%
13 /_layouts/listedit.aspx	6	2.37%
14 /_layouts/ratingssettings.aspx	6	2.37%
15 /_layouts/upload.aspx	6	2.37%
16 /sitepages/home.aspx	6	2.37%
17 /_layouts/people.aspx	5	1.98%
18 /_layouts/urlselector.aspx	5	1.98%
19 /_layouts/inplview.aspx	4	1.58%
20 /_layouts/managefeatures.aspx	4	1.58%
1-20 合計	212	83.79%

123

5.3.2 検索ログの表示

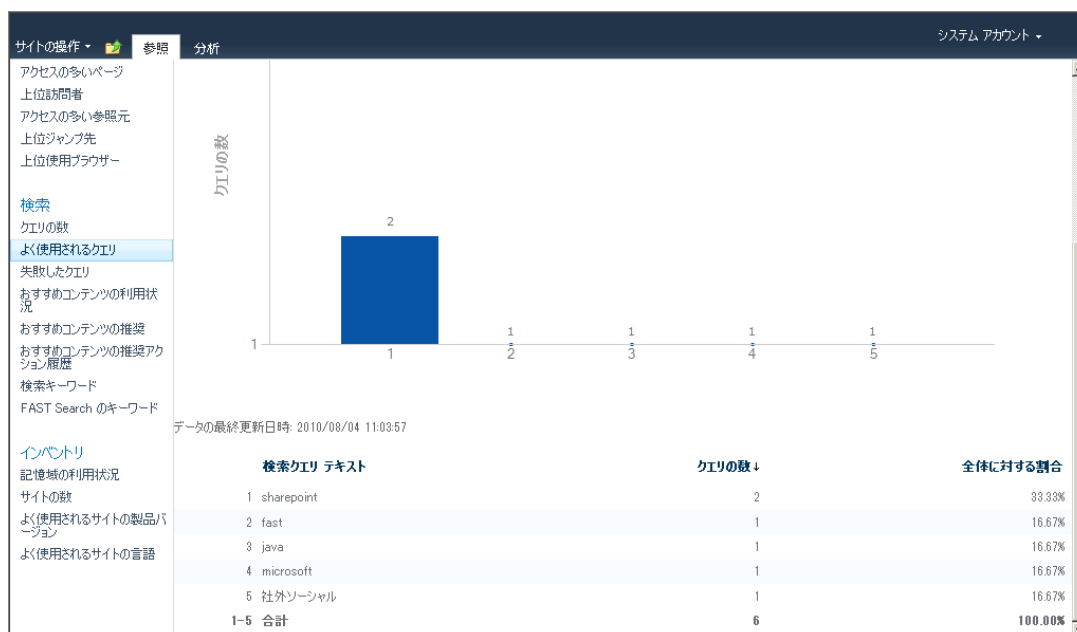
サイト コレクションの Web Analytics レポートを見ると、クエリの数やよく使用されるクエリ、失敗したクエリ、お奨めコンテンツの利用状況などを調べることができます。ここでは、よく使用されるクエリについて説明します。

1. [サイトの操作] - [サイトの設定] - [サイトの操作] - [サイト コレクションの Web Analytics レポート] をクリックします。



2. [よく使用されるクエリ] をクリックします。

検索クエリテキスト（検索キーワード）ごとに棒グラフとリストで使用頻度の多いクエリテキストが表示されます。グラフの横軸が検索クエリテキスト番号（検索クエリテキスト番号に対応するテキストはリストに表示）、縦軸がクエリの数となります。



企業のマーケティング担当者は使用頻度の多い検索クエリテキストに対し、検索結果一覧画面にバナー広告を掲載することができます。ただし、そのためには FAST Search Server 2010 for SharePoint をインストールする必要があります。

FAST Search Server 2010 for SharePoint のインストール方法につきましては、下記ドキュメントを参照願います。

「FAST Search Server 2010 for SharePoint インストールガイド」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/ff358322.aspx>

また、設定したキーワードに対して、おすすめコンテンツやビジュアルおすすめコンテンツを表示する方法、および、特定のドキュメントを検索結果上位に表示する方法は、下記ドキュメントを参照願います。

「FAST Search Server 2010 for SharePoint 検索機能チューニング自習書」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/ff358322.aspx>

6. インターネット上での会員制サイトとしての利用方法

SharePoint サーバーを用いてインターネット上に会員制サイトを構築する方法を説明します。

会員制サイトとは、商品販売サイト（EC サイト）等で利用者が自分の氏名や住所等の個人情報（会員情報）を登録した上で利用するサイトのことで、会員制サイトを利用者がアクセスするためには、ログイン画面にてユーザー名とパスワードを入力してユーザー認証を行う必要があります。SharePoint では通常、インターネット経由での認証には Form 認証を用います。一方、イントラネットを利用する場合には Active Directory 上にユーザーアカウントを作成して、Windows 上のユーザーとしてユーザー管理を行います。イントラネットでの認証には Windows 認証を用います。

Windows 認証や Form 認証といった認証方式の設定は、Web アプリケーションごとに指定できます。そのため、1 つのサイトに対し、クライアントからのアクセスがイントラネット内からであるか、インターネット経由であるかによって認証方法を変更することができます。例えば、イントラネット内からのアクセスは Windows 認証、インターネット経由のアクセスは Form 認証を利用するといった設定を行えます。



また、コーポレートサイト（企業情報サイト）のように、インターネットに公開し不特定多数のユーザーからのアクセスを前提とする Web サイトがあります。このような場合には、ログイン画面でユーザー名とパスワードを入力させる必要はありません。ユーザー認証を必要としない場合には、SharePoint では「匿名アクセス」（匿名認証）の設定を行います。

匿名アクセスの設定方法は、下記ドキュメントを参照願います。

「クレーム ベース Web アプリケーションへの匿名アクセスを構成する (SharePoint Server 2010)」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ee806863.aspx>

ここでは、まず Windows 認証と Form 認証、匿名アクセスの 3 つの認証方法を比較した後、特に Windows 認証と Form 認証について説明します。その後、会員制サイトでの会員情報の登録や会員属性ごとに異なるコンテンツの表示方法、属性ごとに異なる検索結果表示について説明します。

6.1 認証方法の設定

会員専用ページやサイト管理者向けページのように、あるページを特別な権限を持ったユーザーだけが利用できるようにするためには、ユーザーがその権限を保有するユーザー本人であるかを確認する必要があります。そのためにユーザー認証が必要となります。

6.1.1 認証方法の比較

Windows 認証と Form 認証、匿名アクセスの 3 つの認証方法を比較します。

認証方式	用途
Windows 認証	ActiveDirectory と連携することで、組織内のユーザーに適用する認証。ActiveDirectory で管理しているユーザー名とパスワードを入力して認証を行います。主にイントラネット用の認証として使用されます。
Form 認証	サイトへの外部からのログイン用として適用する認証。フォームでユーザー名とパスワードを入力して認証を行います。主に、インターネット公開の際に使用されます。
匿名アクセス	ユーザー名とパスワードを使った認証を必要としません。 閲覧のみを行う不特定多数のユーザーに適用する認証で、インターネット公開の際に使用されます。

6.1.2 Windows 認証の設定

Windows 認証の構成を行います。Windows 認証の構成にするには、Web アプリケーション作成時、クラシックモード認証をオンにします。

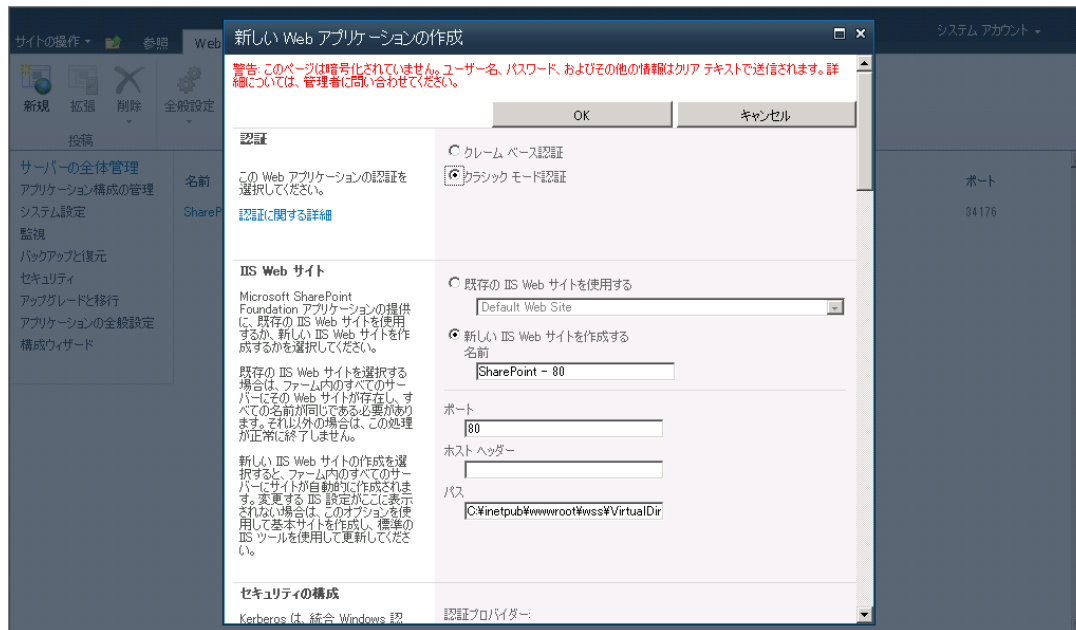
1. [アプリケーション構成の管理] - [Web アプリケーションの管理] をクリックします。



2. [新規] メニューをクリックします。



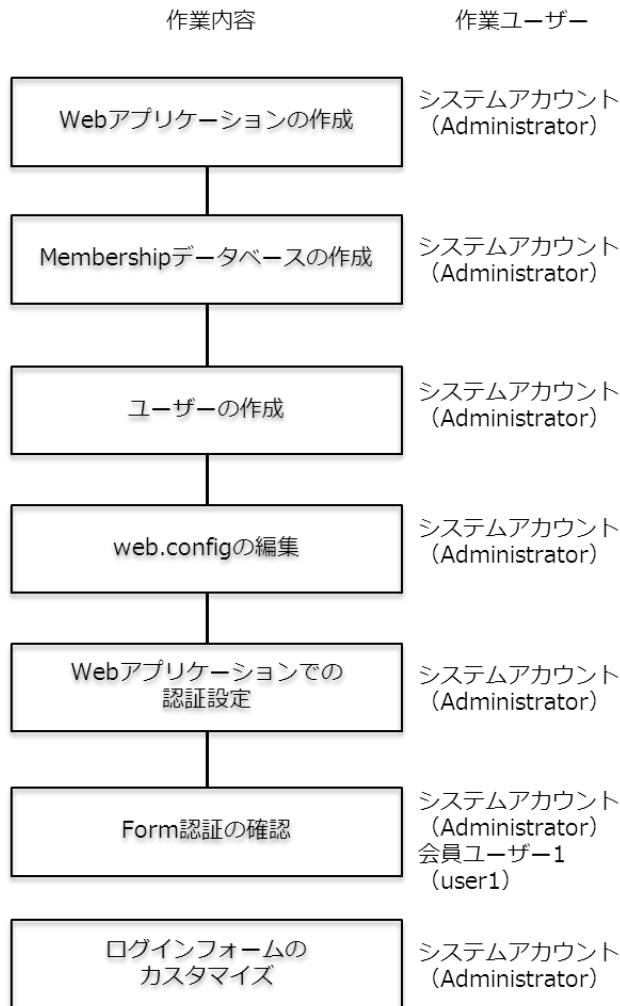
3. [クラシックモード認証] をオンにすることにより、Windows 認証になります。



4. 以後は [4.1.1](#) と同じ手順です。

6.1.3 Form 認証の設定

Form 認証を利用すると、独自のログインフォームを使うことができます。ここでは、Form 認証の構成をするための手順を説明した後、ログインフォームのカスタマイズについて説明します。

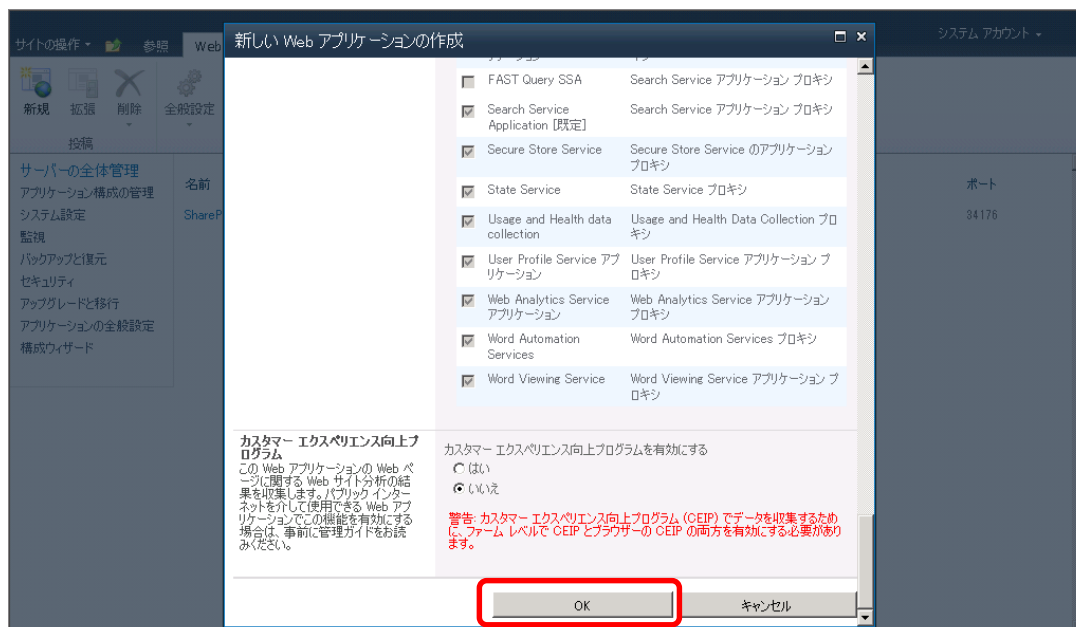
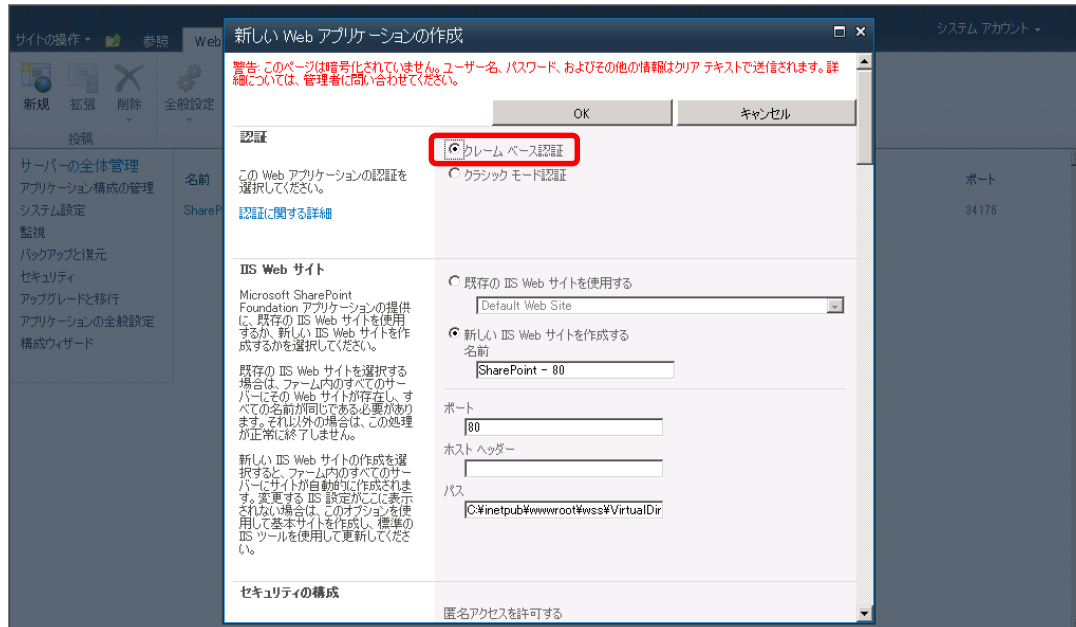


※ 今回は .NET の標準である MemberShip データベースを使用しますが、独自にデータベースを作成し、使用することも可能です。

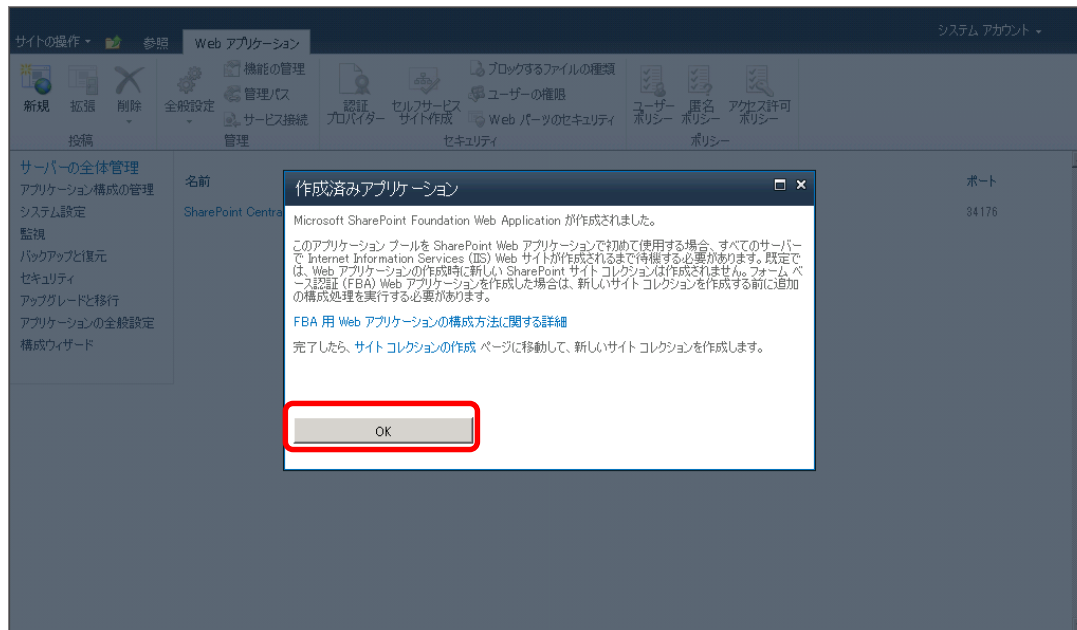
Web アプリケーションの作成

Form 認証を行うために、Web アプリケーションをクレームベース認証で作成します。

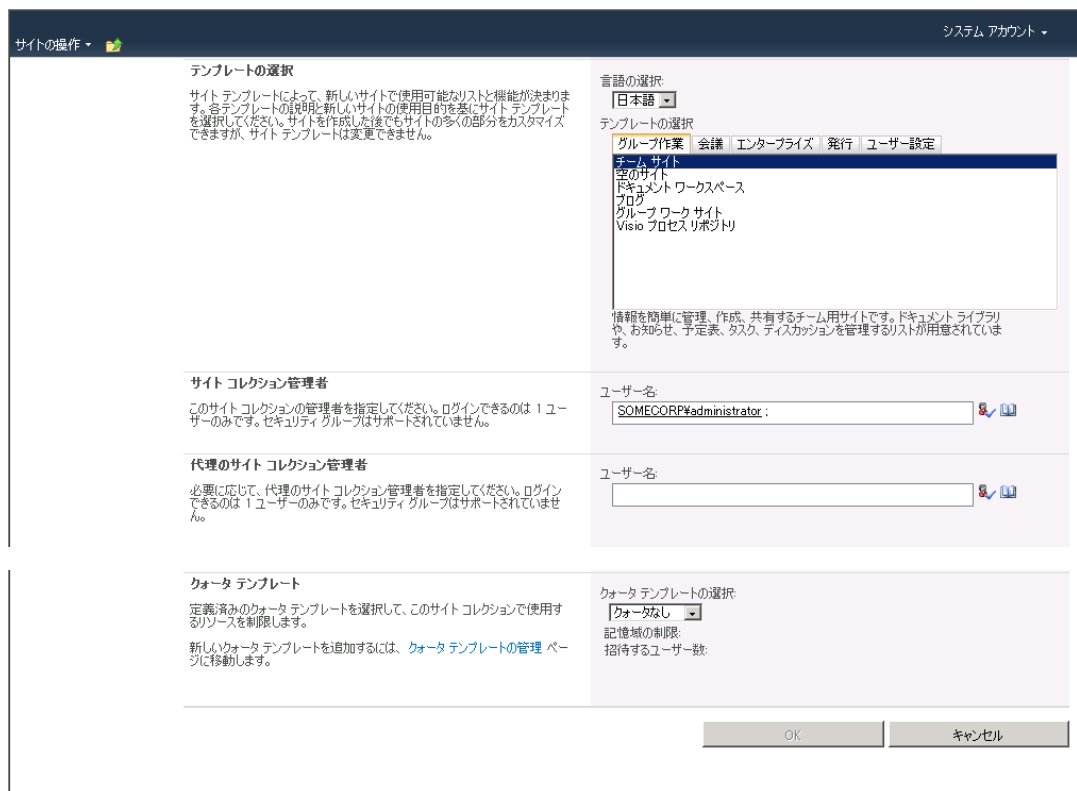
1. [クレーム ベース認証] をオンにし、[OK] をクリックします。



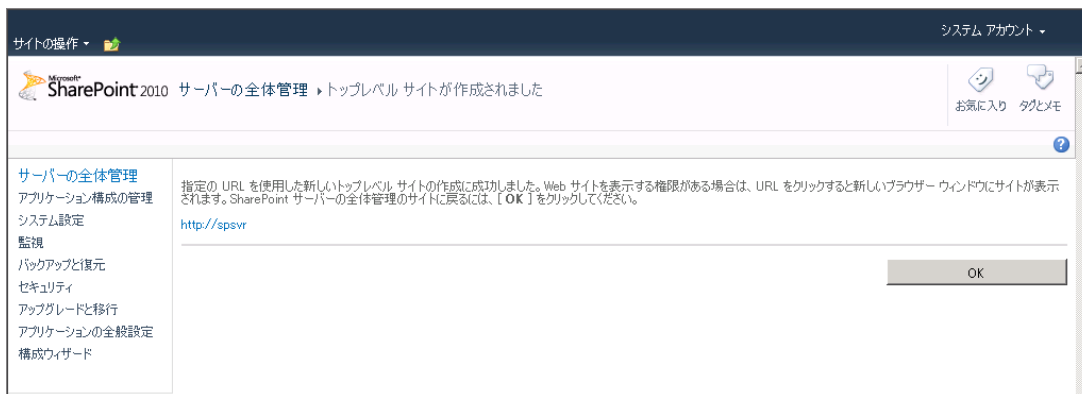
2. [OK] をクリックします。



3. [サイト コレクションの作成] から、以下のサイトを作成します。



4. サイトが作成されたことを確認します。

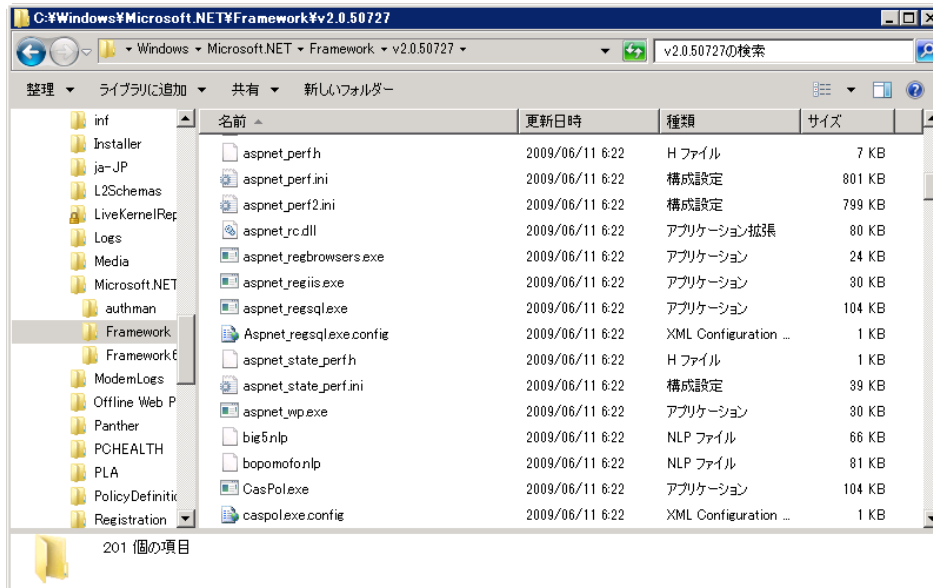


MemberShip データベースの作成

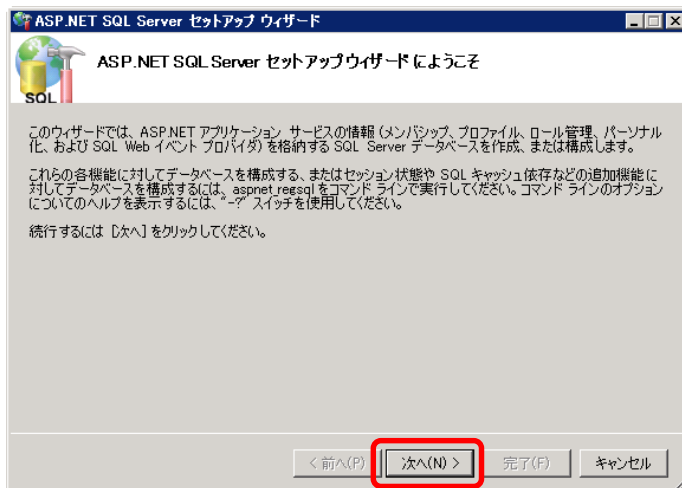
ユーザー情報を格納するためのデータベースを作成します。 MemberShip データベースは aspnet_regsql.exe という ASP.NET SQL Server 登録ツールを用いて自動生成します。

1. ASP.NET SQL Server 登録ツール

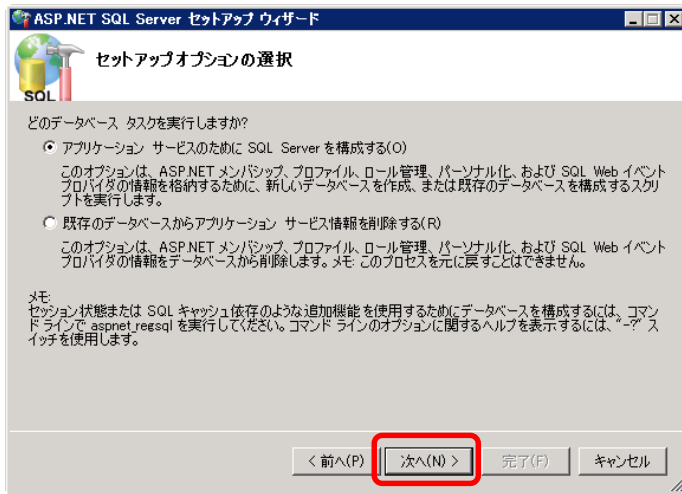
C:\¥Windows¥Microsoft.NET¥Framework¥v2.0.50727¥aspnet_regsql.exe) を実行します。



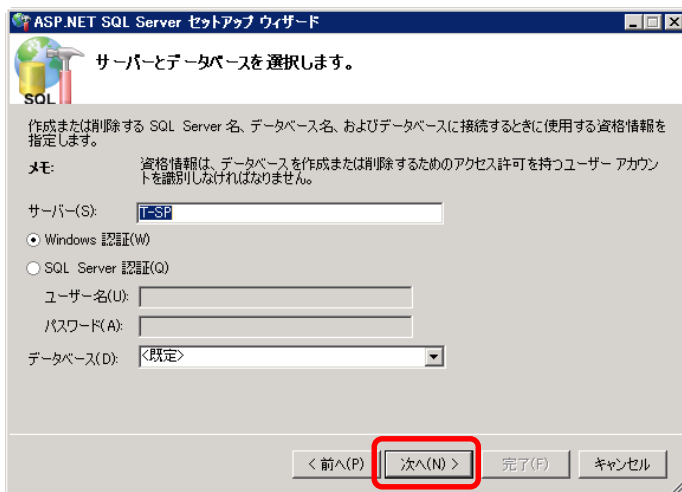
2. ASP.NET SQL Server セットアップ ウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



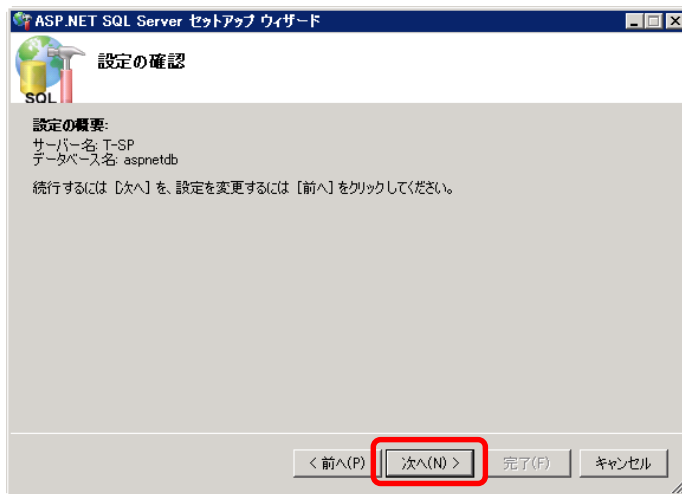
3. [次へ] をクリックします。



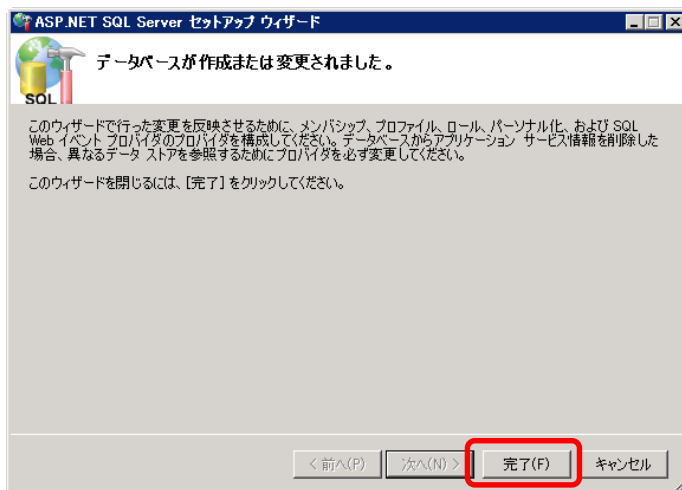
4. [次へ] をクリックします。



5. [次へ] をクリックします。



6. [完了] をクリックします。

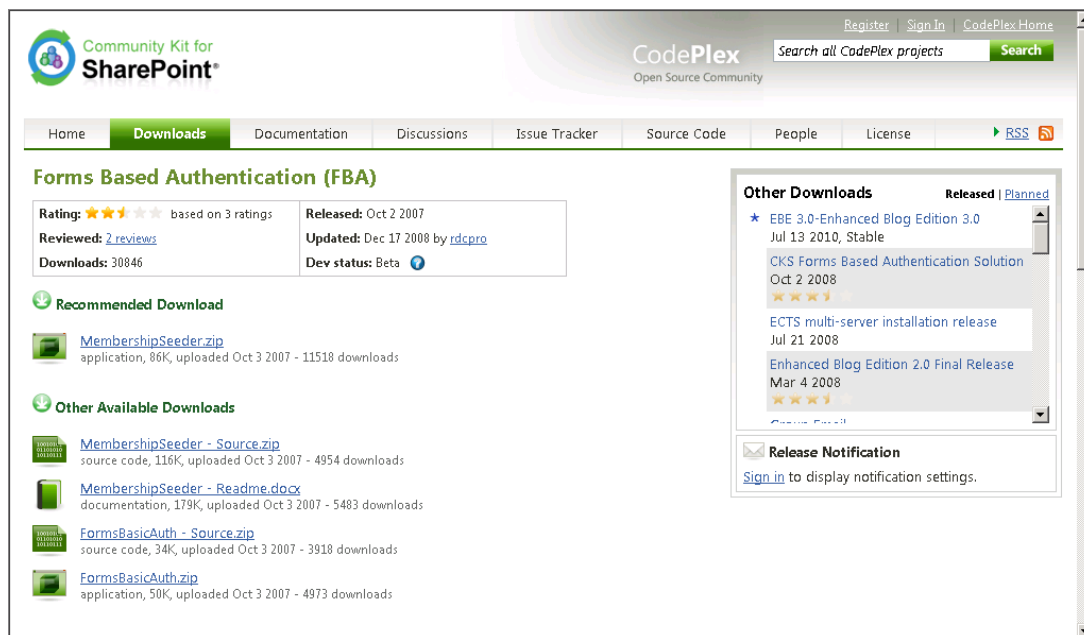


ユーザーの作成

Membership データベースに Form 認証用のユーザーを作成します。

SharePoint は、ユーザーやグループを作成したり、パスワードを管理するツールを搭載していません。そのため、Membership データベースにユーザー情報を登録するツールを独自に作成する必要があります。ここでは Codeplex（マイクロソフト社が運営するオープンソースを含む開発プロジェクトのホスティングウェブサイト）で提供されている MembershipSeeder というツールを使用してユーザーを追加する手順を説明します。

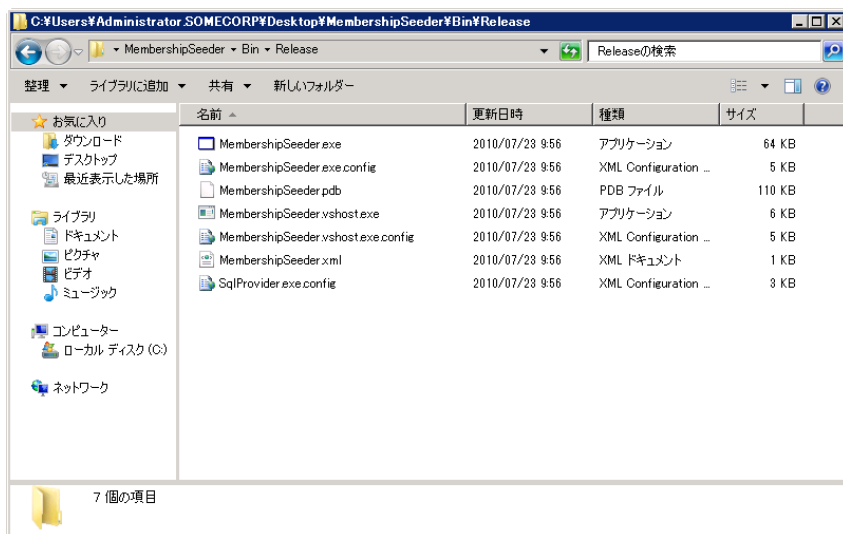
1. <http://cks.codeplex.com/releases/view/7450> にアクセスします。



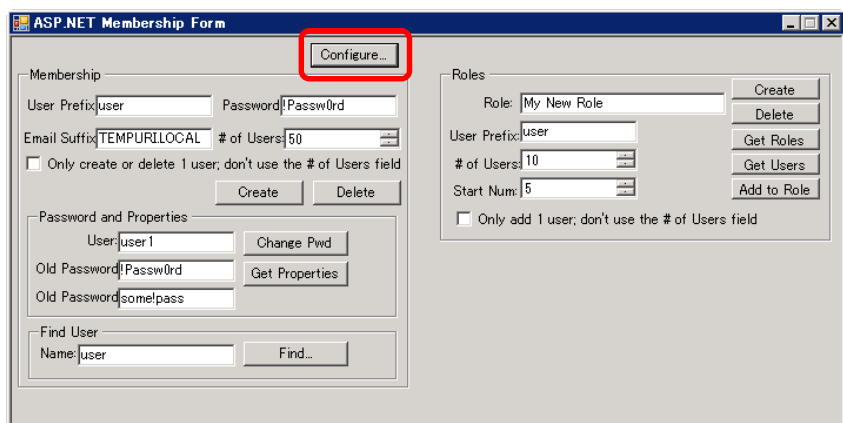
2. MembershipSeeder.zip をダウンロードし、解凍します。



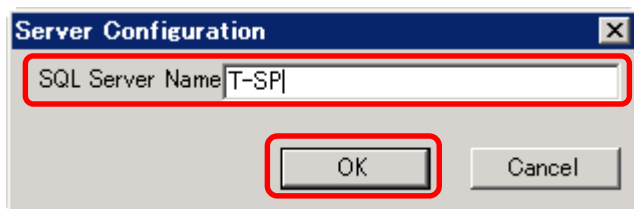
3. 「MembershipSeeder.exe」を実行します。



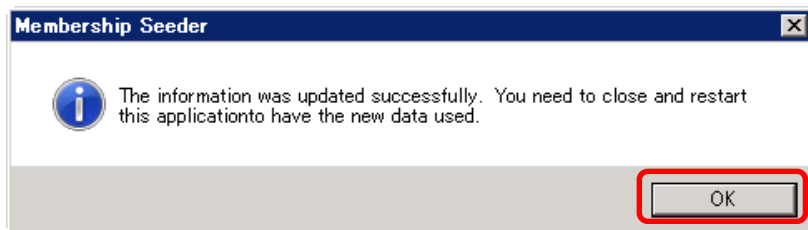
4. [Configure...] をクリックします。



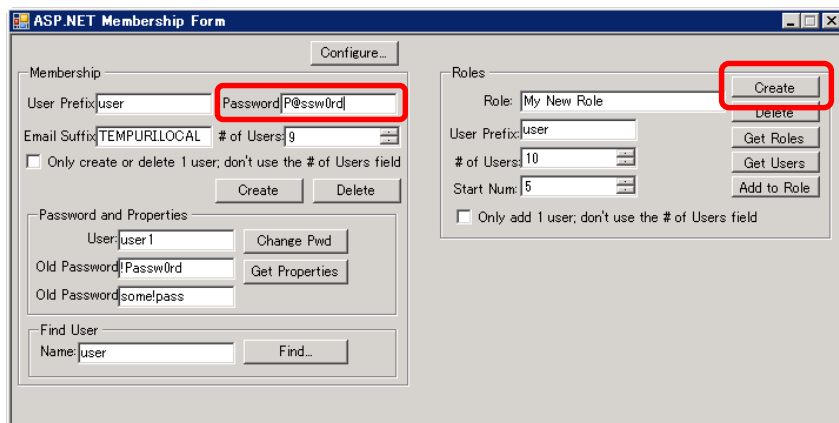
5. [SQL Server Name] に SQL Server の名前を入力し、[OK] をクリックします。



6. [OK] をクリックし、MembershipSeeder を再起動します。

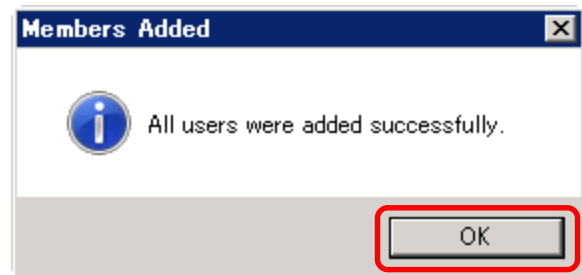


7. [Password] に任意のパスワードを入力、[# of Users] に作成するユーザー数を入力し、[Create] をクリックします。



この場合、MemberShip データベースに user1～user9 まで作成されます。

8. [OK] をクリックします。

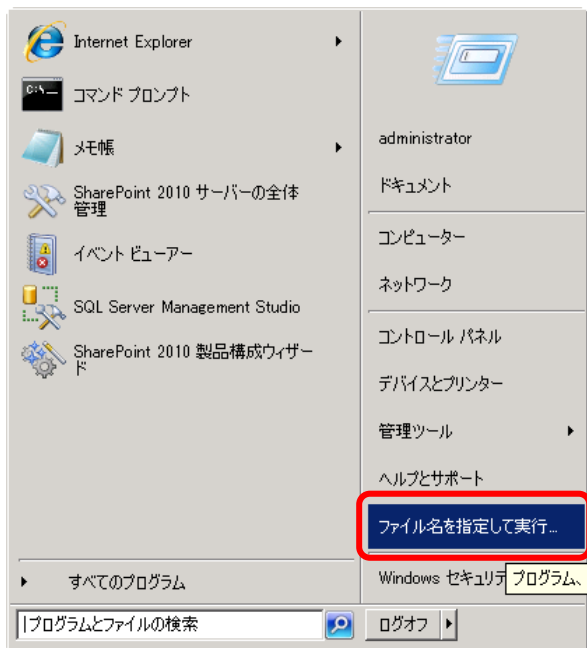


web.config の編集

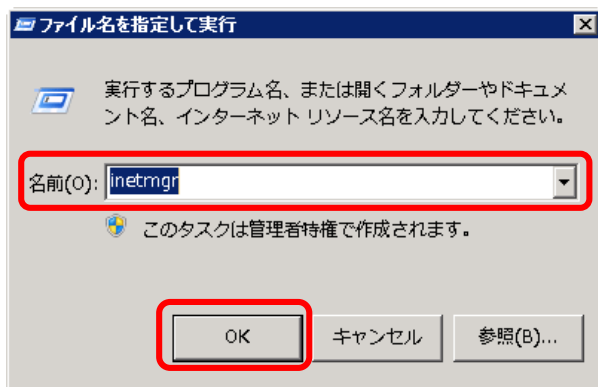
MemberShip データベースと SharePoint を関連付けるために、次の3つの web.config ファイルを編集し、プロバイダーを作成します。

- SharePoint Central Administration v4 の web.config
- STS (SecurityTokenService) の web.config
- Form 認証を行うアプリケーションの web.config

1. [スタート] メニューから、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。

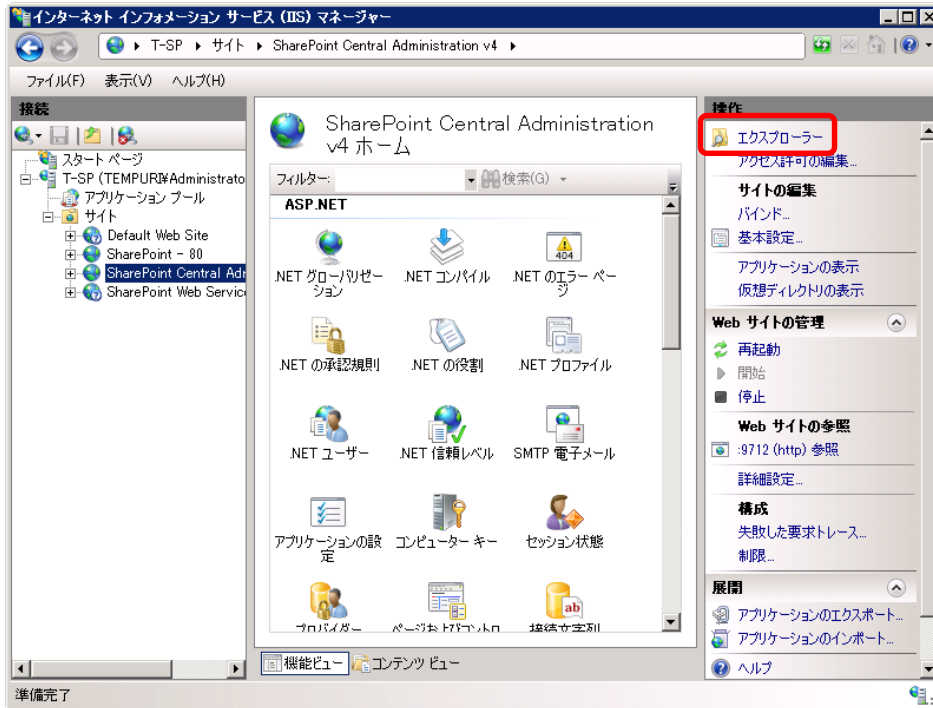


2. [名前] に「inetmgr」と入力し、[OK] をクリックします。

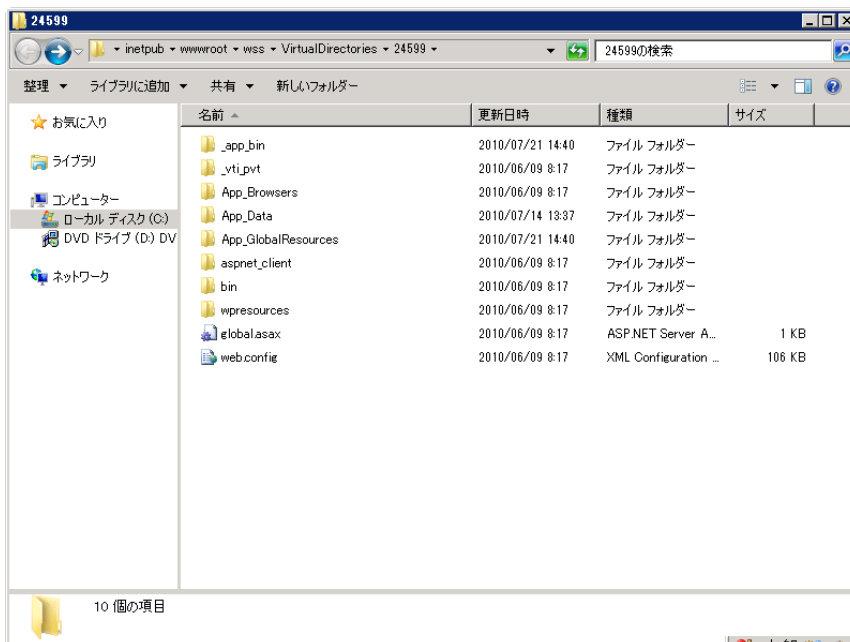


3. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーが起動されます。

[(サーバー名)] - [サイト] - [SharePoint Central Administration v4] をクリックし、右ナビゲーションから [エクスプローラー] をクリックします。



4. web.config をメモ帳で開きます。

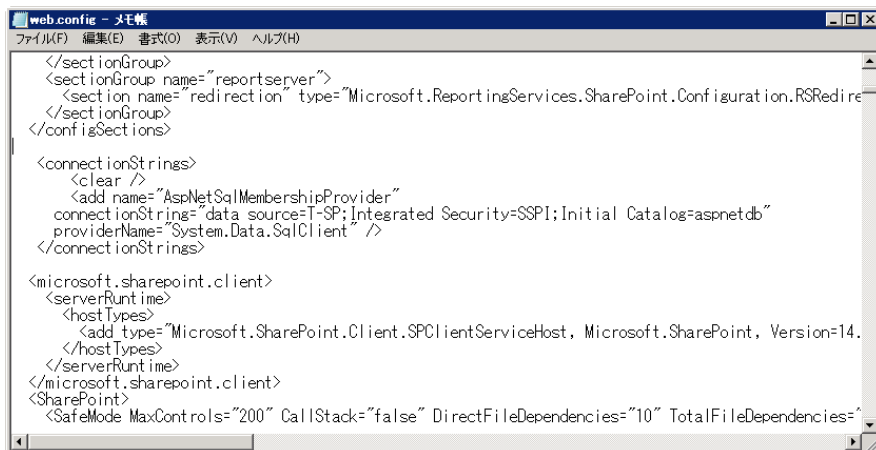


5. </configSections> の次の行に下記のコードを追加します。

```
<connectionStrings>
  <clear />
  <add name="AspNetSqlMembershipProvider"
    connectionString="data source=T-SP;Integrated Security=SSPI;Initial Catalog=aspnetdb"
    providerName="System.Data.SqlClient" />
</connectionStrings>
```

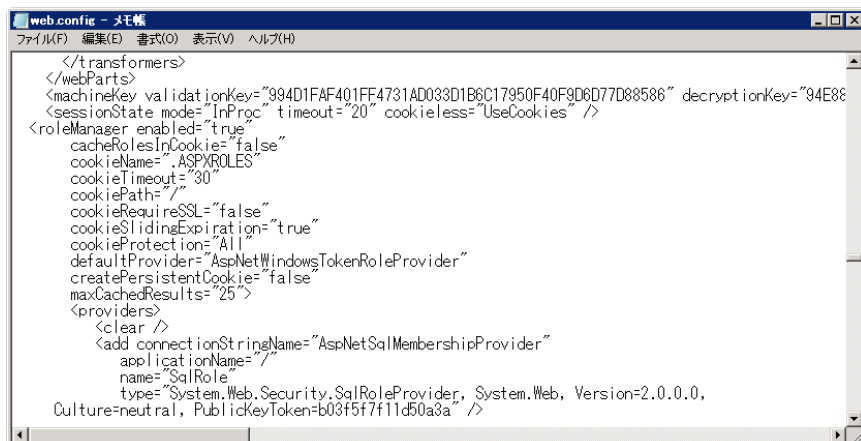
Membership データベースへの接続先を記述し、AspNetSqlMembershipProvider と名前を付けます。

接続先を設定しておくことで、以降同様の記述をする必要がなくなります



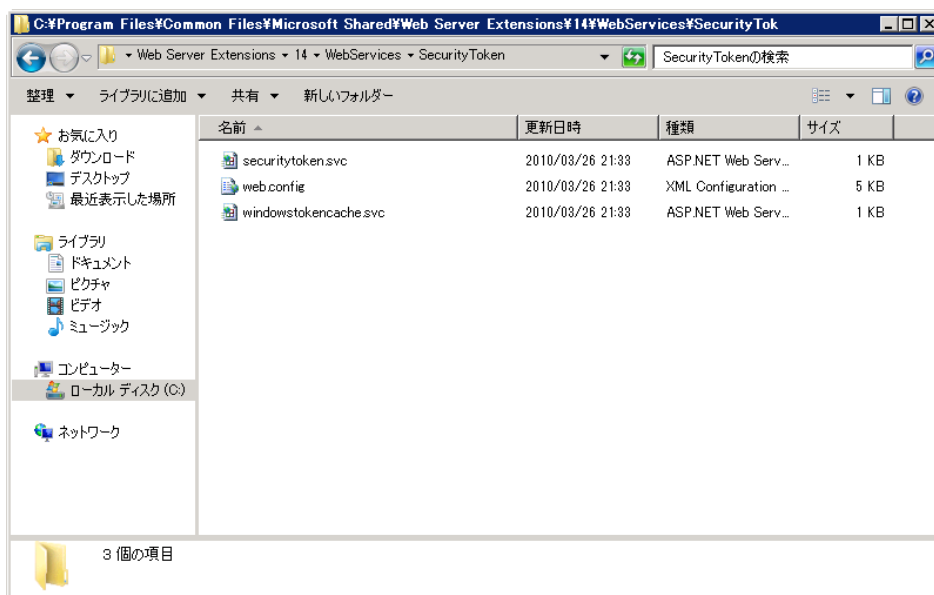
6. <roleManager> ~ </roleManager> と <membership> ~ </membership> を下記のコードに変更します。

```
<roleManager enabled="true"
  cacheRolesInCookie="false"
  cookieName=".ASPXROLES"
  cookieTimeout="30"
  cookiePath="/"
  cookieRequireSSL="false"
  cookieSlidingExpiration="true"
  cookieProtection="All"
  defaultProvider="AspNetWindowsTokenRoleProvider"
  createPersistentCookie="false"
  maxCachedResults="25">
  <providers>
    <clear />
    <add connectionStringName="AspNetSqlMembershipProvider"
      applicationName="/"
      name="SqlRole"
      type="System.Web.Security.SqlRoleProvider, System.Web, Version=2.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
    <add applicationName="/"
      name="AspNetWindowsTokenRoleProvider"
      type="System.Web.Security.WindowsTokenRoleProvider, System.Web, Version=2.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
  </providers>
</roleManager>
<membership defaultProvider="SqlMember"
  userIsOnlineTimeWindow="15" hashAlgorithmType="">
  <providers>
    <clear />
    <add connectionStringName="AspNetSqlMembershipProvider"
      enablePasswordRetrieval="false"
      enablePasswordReset="true"
      requiresQuestionAndAnswer="true"
      passwordAttemptWindow="10"
      applicationName="/"
      requiresUniqueEmail="false"
      passwordFormat="Hashed"
      name="SqlMember"
      type="System.Web.Security.SqlMembershipProvider, System.Web, Version=2.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
  </providers>
</membership>
```



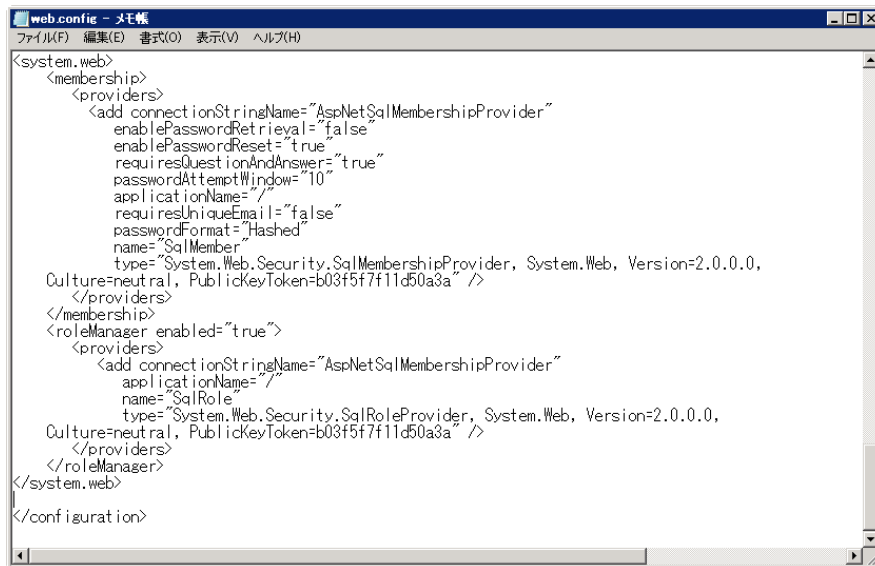
この記述をすることで、サーバーの全体管理画面のユーザーポリシーから、ロールマネージャーとメンバシッププロバイダーを呼び出せるようになります。

7. C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\WebServices\SecurityToken をエクスプローラーから開きます。



8. </system.net> の次の行に下記のコードを追加します。

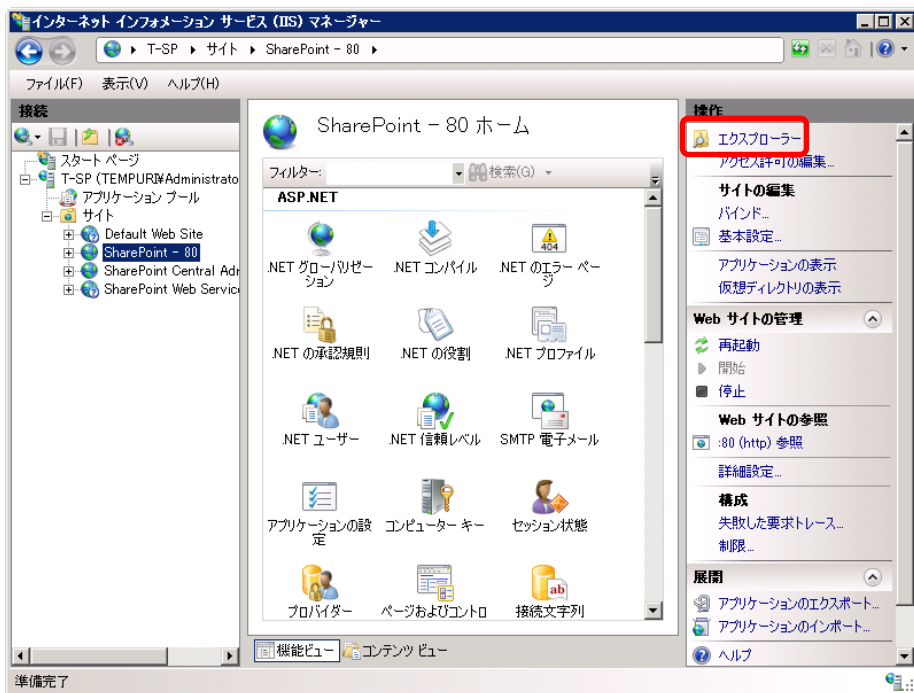
```
<connectionStrings>
  <clear />
  <add name="AspNetSqlMembershipProvider"
    connectionString="data source=T-SP;Integrated Security=SSPI;Initial Catalog=aspnetdb"
    providerName="System.Data.SqlClient" />
</connectionStrings>
<system.web>
  <membership>
    <providers>
      <add connectionStringName="AspNetSqlMembershipProvider"
        enablePasswordRetrieval="false"
        enablePasswordReset="true"
        requiresQuestionAndAnswer="true"
        passwordAttemptWindow="10"
        applicationName="/"
        requiresUniqueEmail="false"
        passwordFormat="Hashed"
        name="SqlMember"
        type="System.Web.Security.SqlMembershipProvider, System.Web, Version=2.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
    </providers>
  </membership>
  <roleManager enabled="true">
    <providers>
      <add connectionStringName="AspNetSqlMembershipProvider"
        applicationName="/"
        name="SqlRole"
        type="System.Web.Security.SqlRoleProvider, System.Web, Version=2.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
    </providers>
  </roleManager>
</system.web>
```

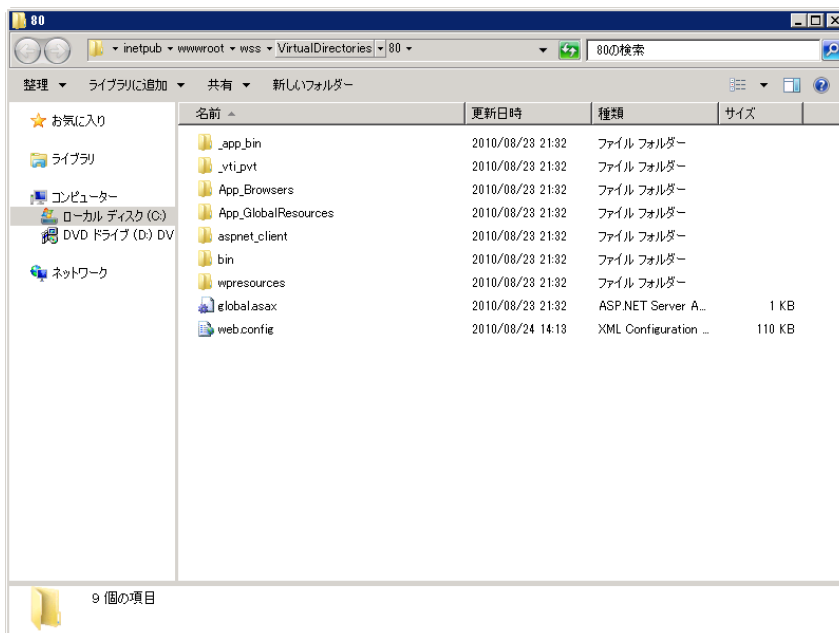
クレームベース認証をオンにすることで、STS (SecurityTokenService) が使用されるようになります。そのため、STS の web.config に web アプリケーション web.config と同様の記述を行います。この記述することにより、SecurityToken が発行されるようになります。

9. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを起動します。

[(サーバー名)] - [サイト] - [(FORM 認証を行うアプリケーション)] をクリックし、右ナビゲーションから [エクスプローラー] をクリックします。

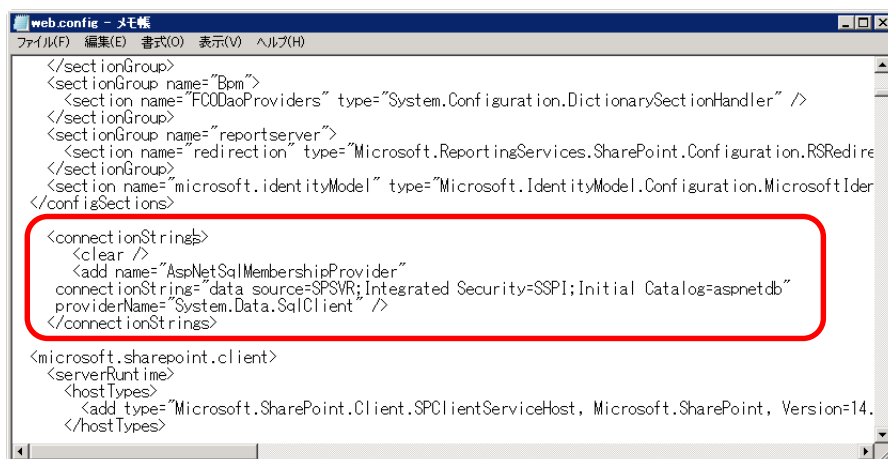


10. web.config をメモ帳で開きます。



11. </configSections> の次の行に下記のコードを追加します。

```
<connectionStrings>
  <clear />
  <add name="AspNetSqlMembershipProvider"
    connectionString="data source=T-SP;Integrated Security=SSPI;Initial Catalog=aspnetdb"
    providerName="System.Data.SqlClient" />
</connectionStrings>
```



Membership データベースへの接続先を記述し、AspNetSqlMembershipProvider と名前を付けます。
接続先を設定しておくことで、以降同様の記述をする必要がなくなります。

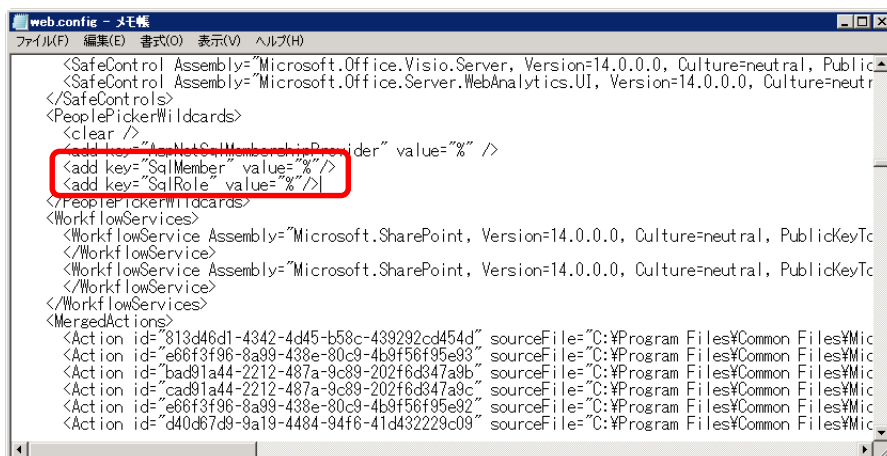
12. <membership> ~ </membership> と <roleManager> ~ </roleManager> を下記のコードに変更します。

```
<membership defaultProvider="i"
  userIsOnlineTimeWindow="15"
  hashAlgorithmType="">
  <providers>
    <clear />
    <add connectionStringName="AspNetSqlMembershipProvider"
      enablePasswordRetrieval="false"
      enablePasswordReset="true"
      requiresQuestionAndAnswer="true"
      passwordAttemptWindow="10"
      applicationName="/"
      requiresUniqueEmail="false"
      passwordFormat="Hashed"
      name="SqlMember"
      type="System.Web.Security.SqlMembershipProvider, System.Web, Version=2.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
    <add name="i"
      type="Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPClaimsAuthMembershipProvider,
Microsoft.SharePoint, Version=14.0.0.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=71e9bce111e9429c" />
  </providers>
</membership>
<roleManager enabled="true"
  cacheRolesInCookie="false"
  cookieName=".ASPXROLES"
  cookieTimeout="30"
  cookiePath="/"
  cookieRequireSSL="false"
  cookieSlidingExpiration="true"
  cookieProtection="All"
  defaultProvider="c"
  createPersistentCookie="false"
  maxCachedResults="25">
  <providers>
    <clear />
    <add connectionStringName="AspNetSqlMembershipProvider"
      applicationName="/"
      name="AspNetSqlRoleProvider"
      type="System.Web.Security.SqlRoleProvider, System.Web, Version=2.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
    <add applicationName="/"
      name="SqlRole"
      type="System.Web.Security.WindowsTokenRoleProvider, System.Web, Version=2.0.0.0,
Culture=neutral, PublicKeyToken=b03f5f7f11d50a3a" />
    <add name="c" type="Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPClaimsAuthRoleProvider,
Microsoft.SharePoint, Version=14.0.0.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=71e9bce111e9429c" />
  </providers>
</roleManager>
```

この記述をすることで、Web アプリケーションがロールマネージャーとメンバシッププロバイダーと連携されるようになります。

- 13.** <PeoplePickerWildcards> の <add key="AspNetSqlMembershipProvider" value="%" /> の次の行に下記のコードを追加します。

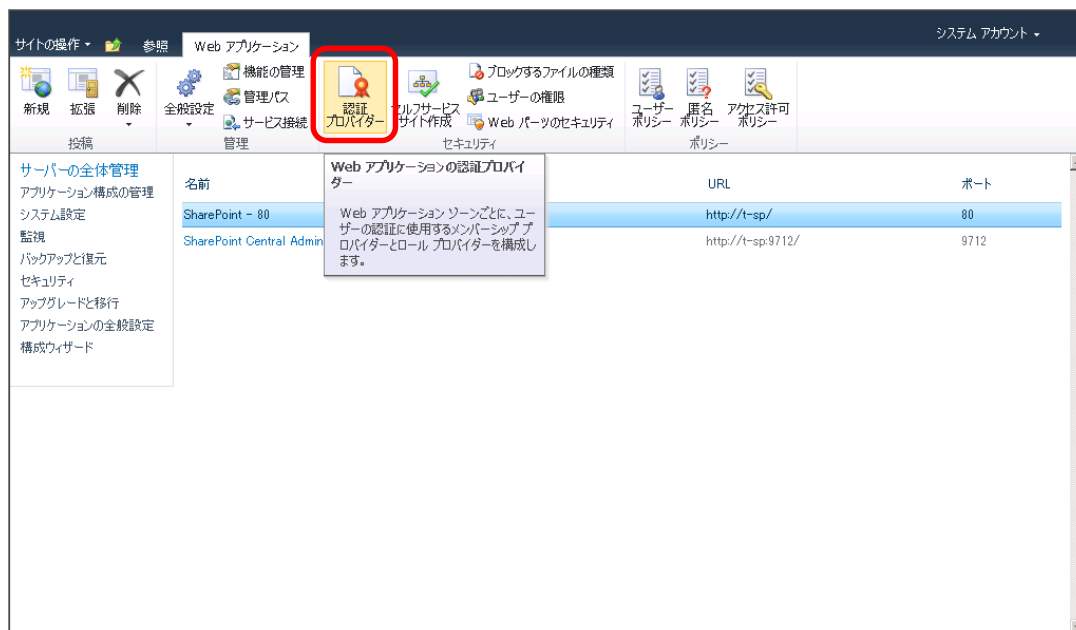
```
<add key="SqlMember" value="%" />
<add key="SqlRole" value="%" />
```



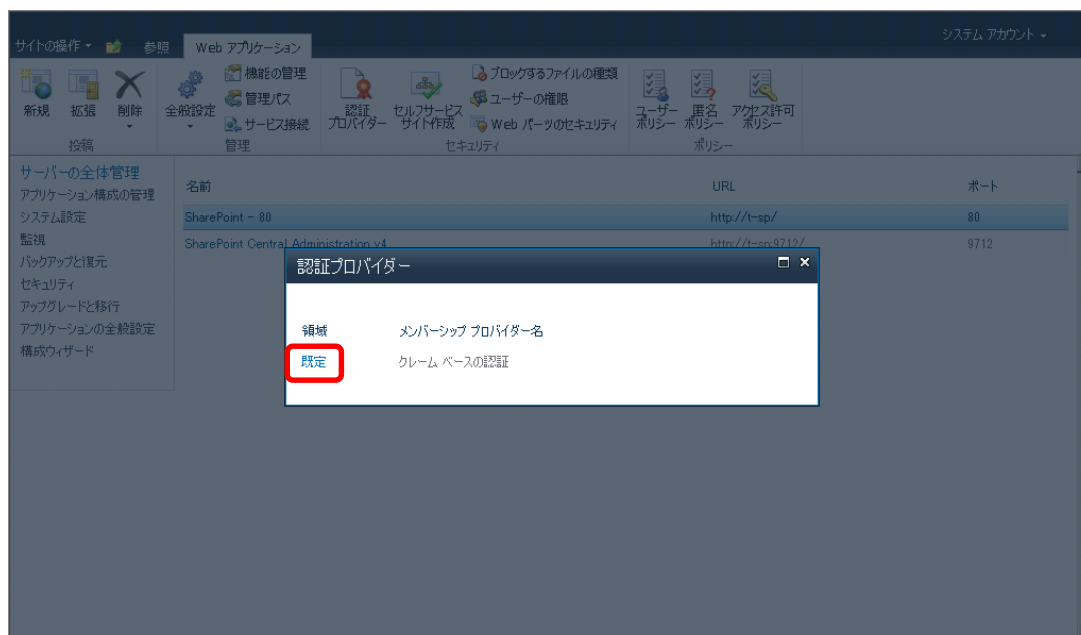
Web アプリケーションでの認証設定

Form 認証を利用可能とするために、Web アプリケーションにプロバイダーを関連付けします。
これを設定することにより、インターネットからのアクセスでは Form 認証が利用できるようになります。

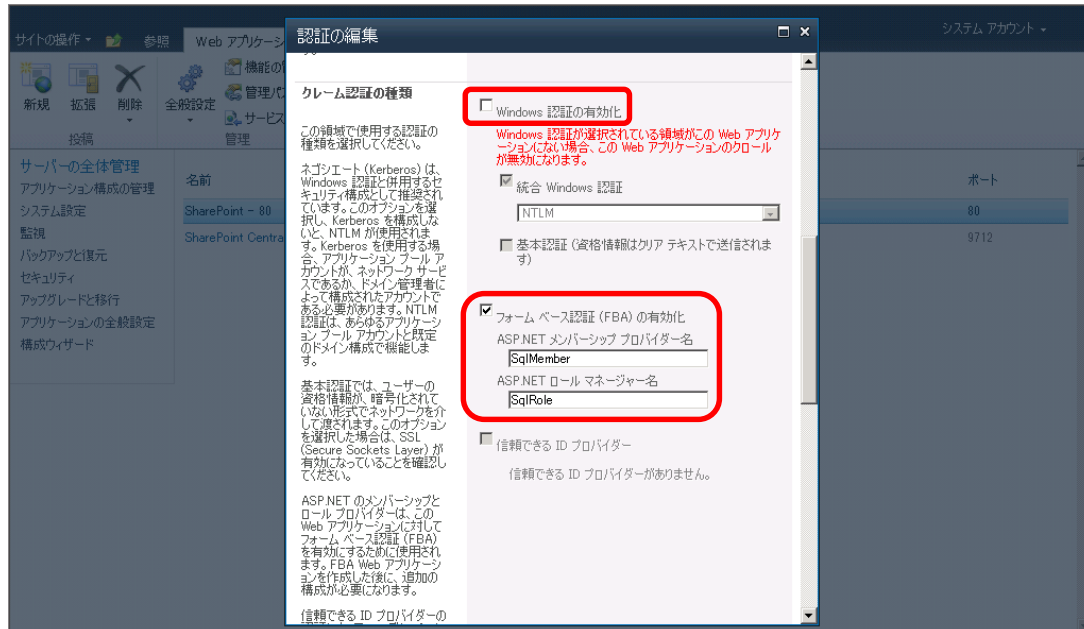
1. 作成した Web アプリケーションをクリックし、[認証プロバイダー] メニューをクリックします。



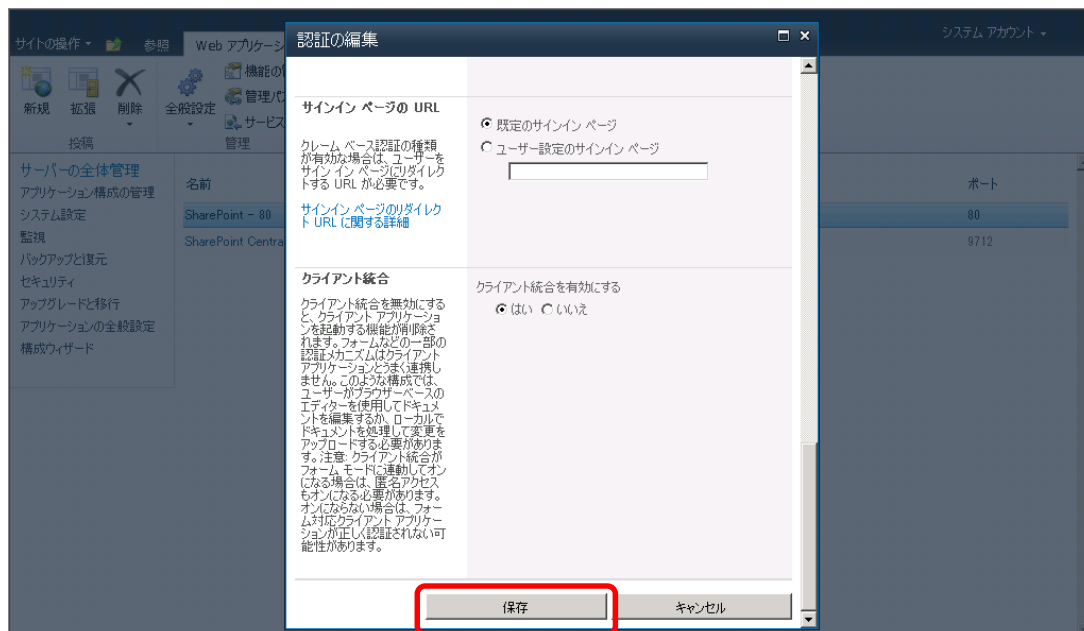
2. [既定] をクリックします。



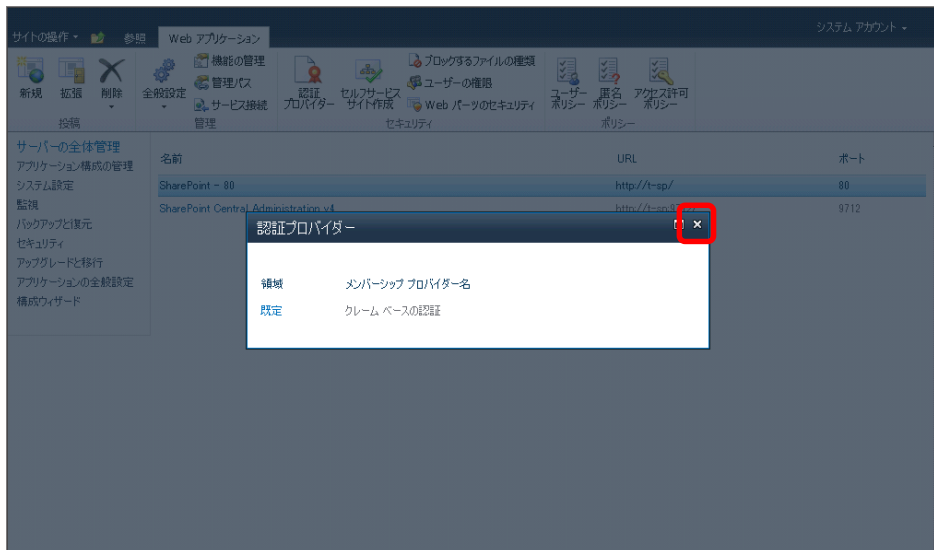
3. [クレーム認証の種類] – [Windows 認証の有効化] チェックボックスをオフ、[クレーム認証の種類] – [フォームベース認証 (FBA) の有効化] チェックボックスをオン、[ASP.NET メンバーシップ プロバイダー名] に「SqlMember」、[ASP.NET ロールマネージャー名] に「SqlRole」と入力します。



4. [保存] をクリックします。



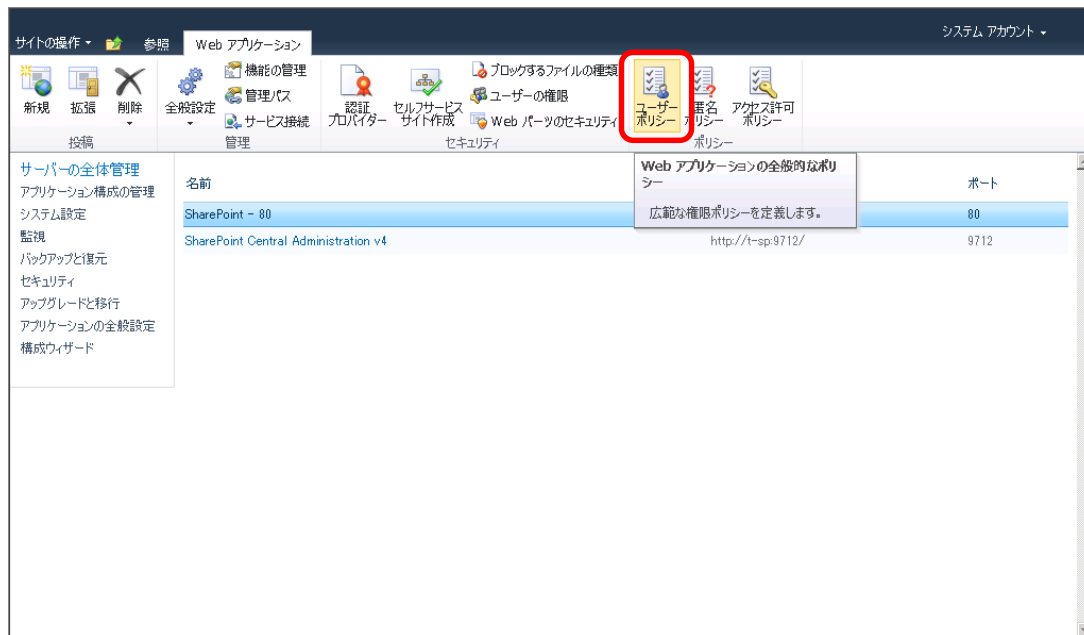
5. [×] をクリックします。



Form 認証の確認

ここではまず Web アプリケーションにユーザーを追加し、続いてそのユーザーで Form 認証の確認を行います。

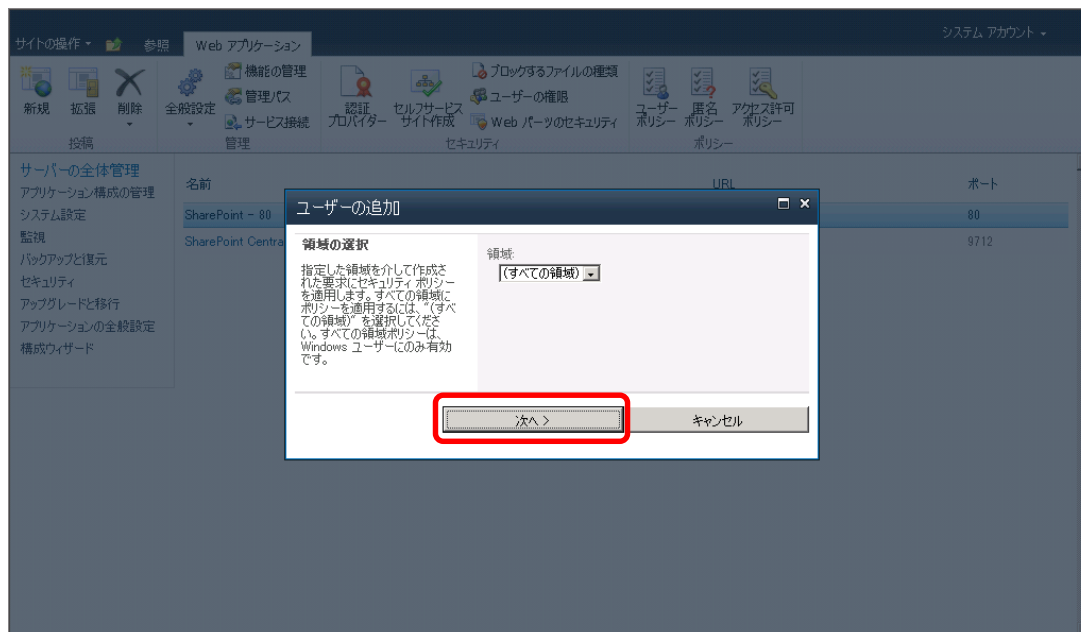
1. [ユーザーポリシー] メニューをクリックします。



2. [ユーザーの追加] をクリックします。



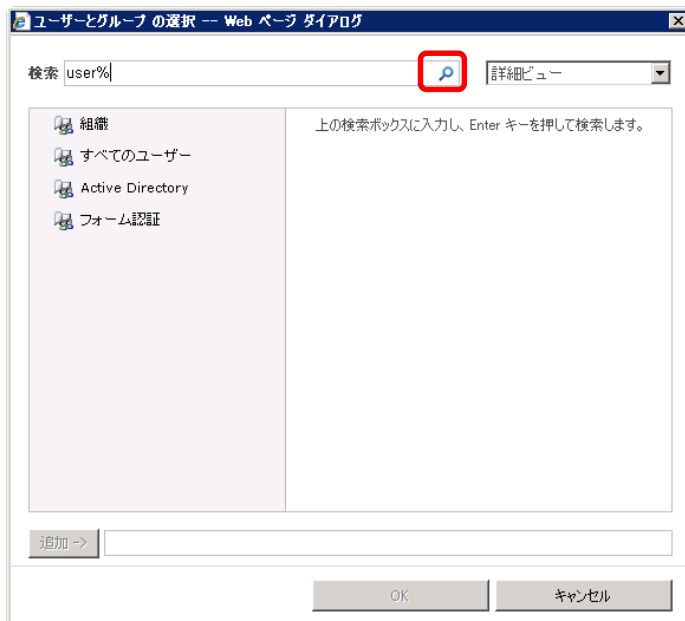
3. [次へ] をクリックします。



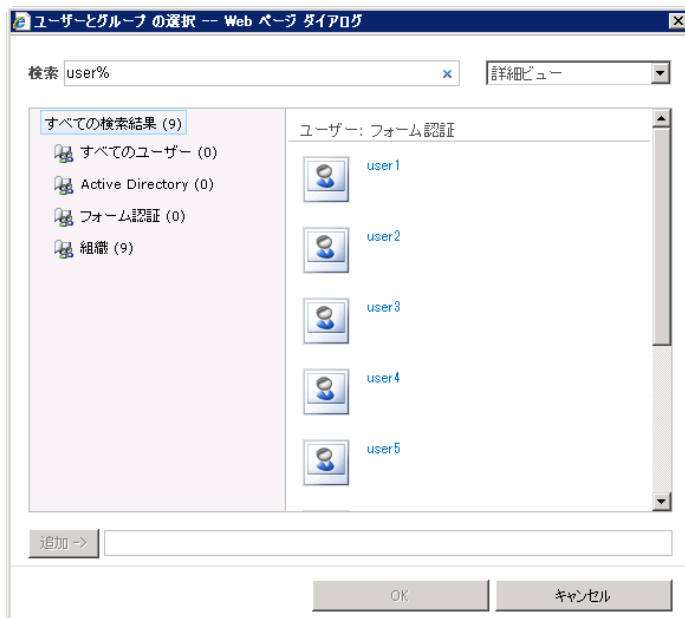
4. 本のアイコンをクリックします。



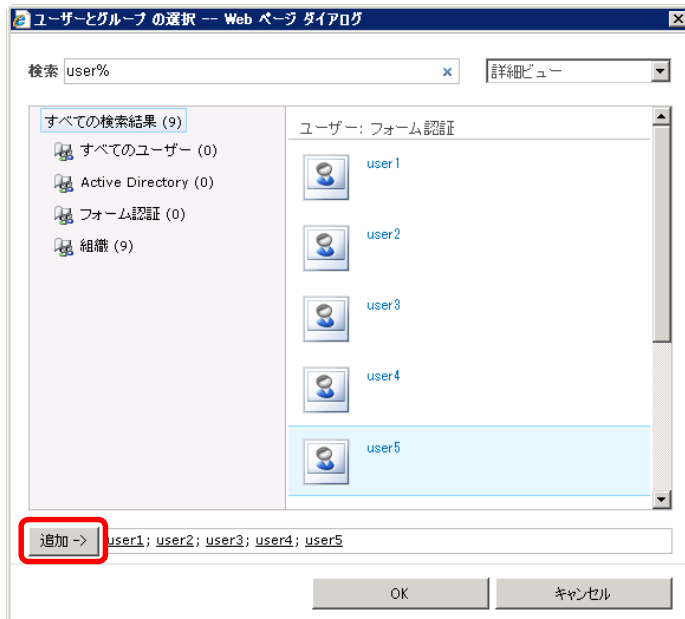
5. [検索] に「user%」と入力し、虫眼鏡アイコンをクリックします。



6. ユーザーを確認します。



7. 任意のユーザーをクリック、[追加] をクリックしユーザーを追加します。



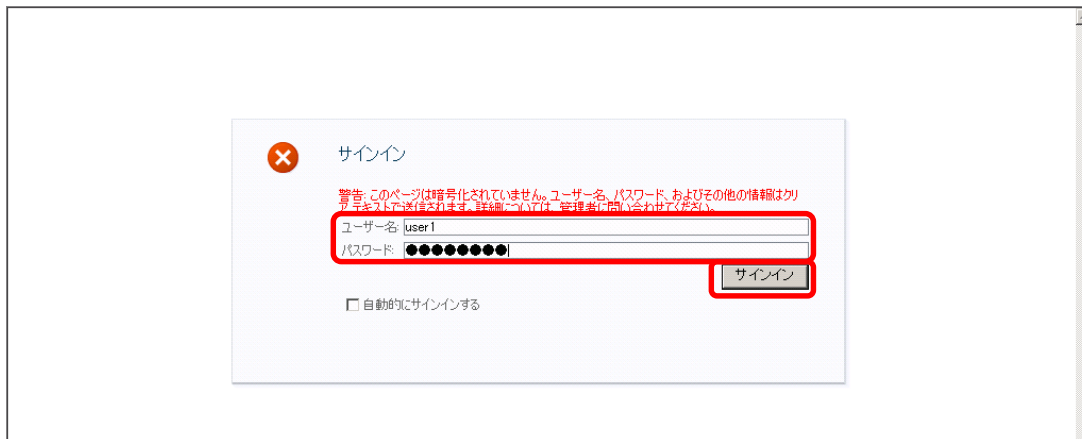
8. [OK] をクリックします。



9. ユーザーが追加されたことを確認し、[OK] をクリックします。
これで Form 認証のサイトが作成されました。



10. [ユーザー名] に追加したユーザー、[パスワード] にパスワードを入力し、[サインイン] をクリックします。



11. 認証されることを確認します。



今回は一つの Web アプリケーションで Form 認証を検証しました。そのため、ユーザーポリシーから権限を与える必要がありましたが、実際の運用では、ユーザーポリシーは使用されません。

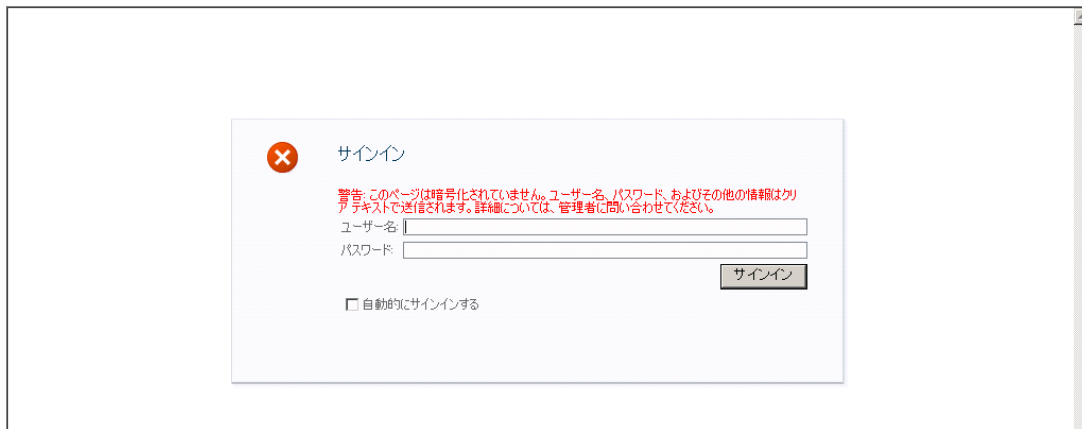
ログインフォームのカスタマイズ

SharePoint で Form 認証を利用する場合、ログインページは SharePoint に標準で搭載されているページを利用できます。カスタムのログインページを利用したい場合は、HTML ベースでログインフォームのカスタマイズが可能です。

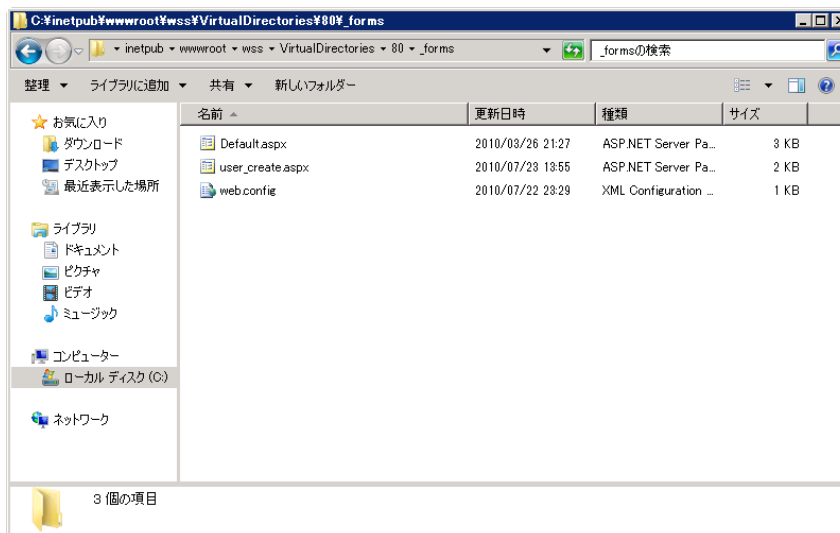
ここでは [警告] 表示を消し、[サインイン] を [カスタムログインページ] にカスタマイズする方法を紹介します。

1. サインインページにアクセスします。

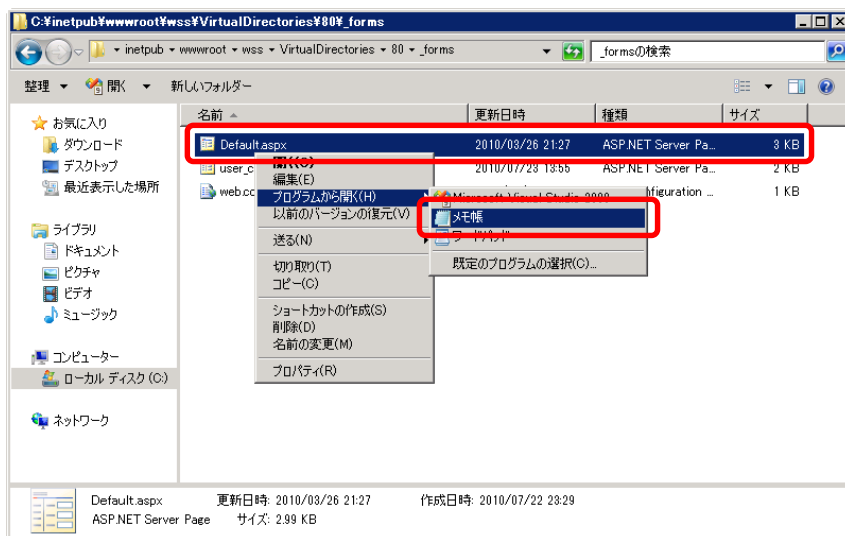
[サインイン] と、[警告] が表示されていることを確認します。



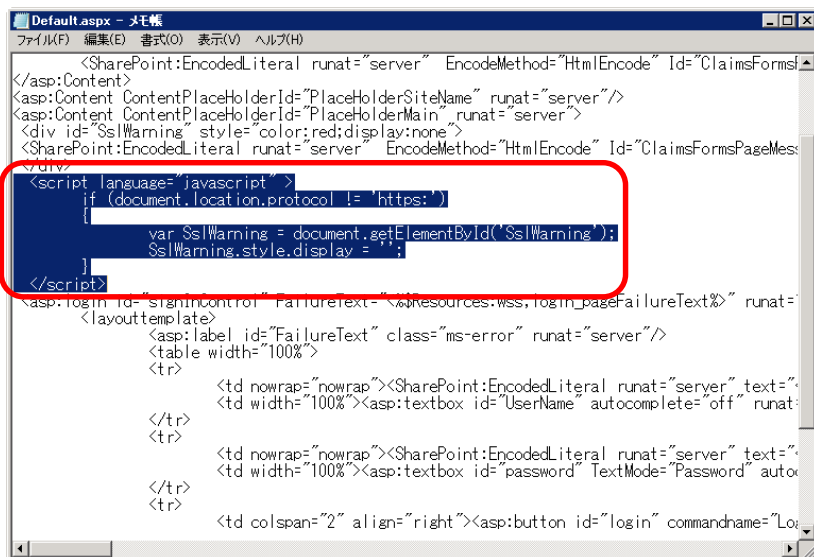
2. C:\inetpub\wwwroot\wss\VirtualDirectories\80_forms をエクスプローラーから開きます。



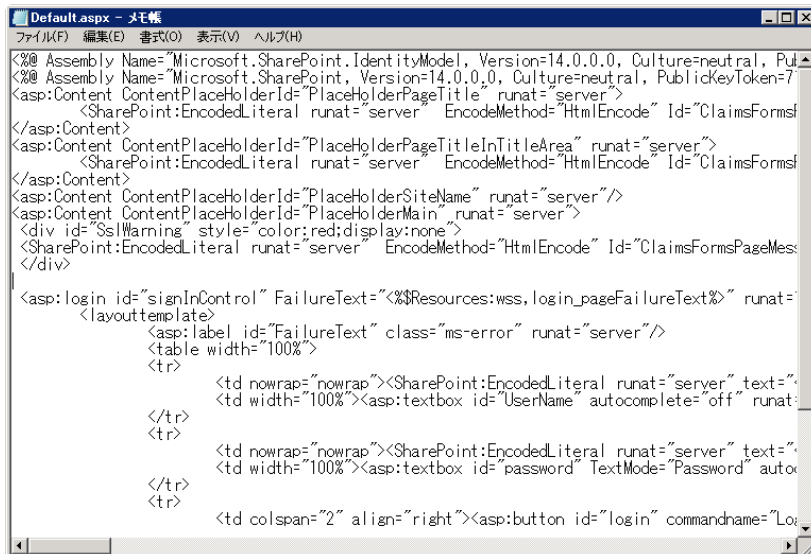
3. Default.aspx をメモ帳で開きます。



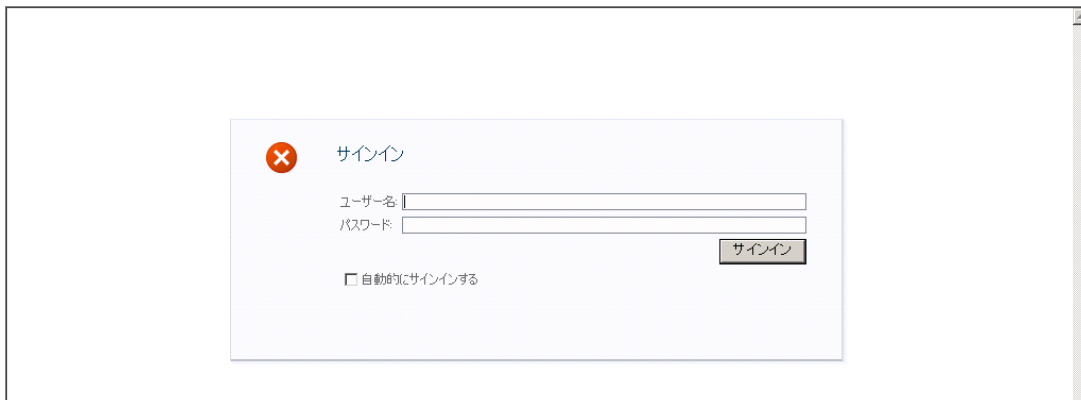
4. <script language="javascript"> ~ </script> を削除します。



5. 削除した後に、保存します。



6. サインインページにアクセスし、[警告] の表示が消えたことを確認します。

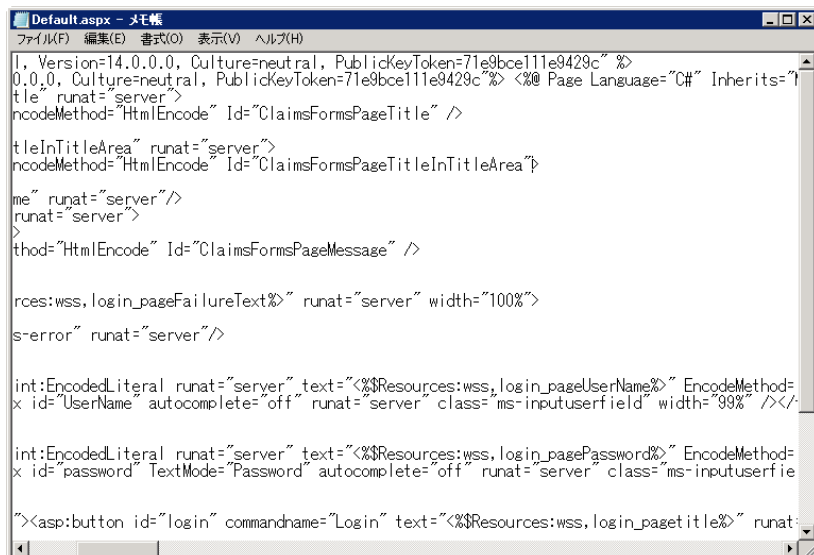


7. 次に

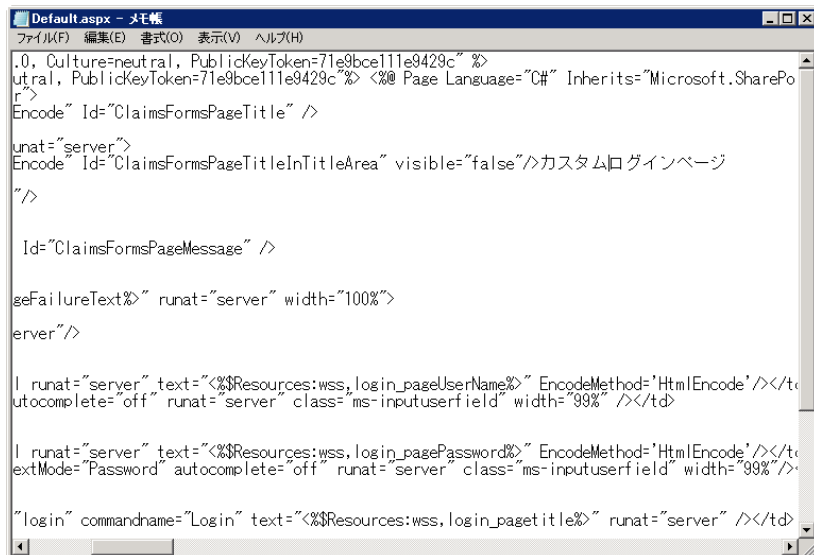
```
<SharePoint:EncodedLiteral runat="server" EncodeMethod="HtmlEncode"
  Id="ClaimsFormsPageTitleInTitleArea"/>
```

を下記コードに変更します。

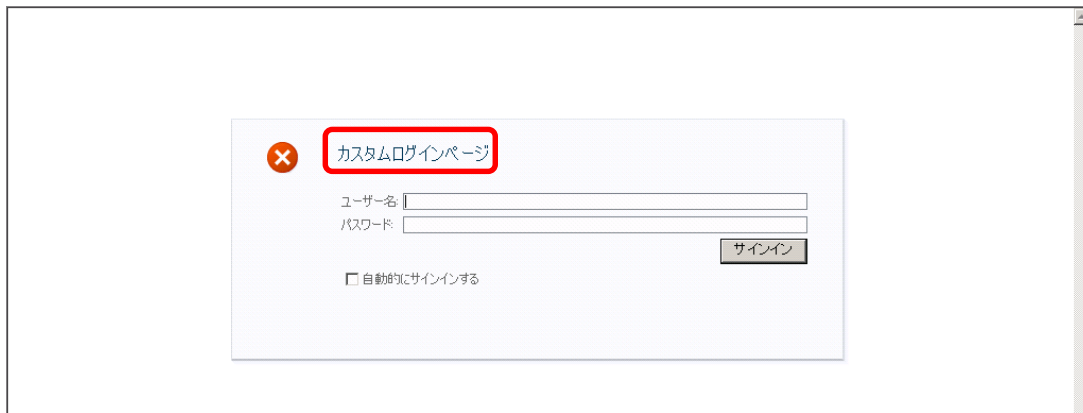
```
<SharePoint:EncodedLiteral runat="server" EncodeMethod="HtmlEncode" Id="ClaimsFormsPageTitleInTitleArea"
visible="false"/>カスタムログインページ
```



8. 変更した後に、保存します。



9. サインインページにアクセスし、[サインイン] が [カスタムログインページ] に変更されたことを確認します。



今回は既存の認証フォームを使用し、デザインの一部を変更しました。デザインを大幅に変更したい場合は、master ファイルを変更する必要があります。

ASP.NET ログイン コントロールは SharePoint のフォーム認証で使用されている [Login] コントロールだけでなく、[ChangePassword]、[CreateUserWizard]、[PasswordRecovery] など多くのコントロールがあり、ページに配置するだけで、ノンコードで多くの機能を実装できます。これらは SharePoint でも使用する事が可能です。たとえば今回は、ユーザーの追加のために Code Plex で公開されている、[MembershipSeeder] を使用しましたが、実際の運用では、ユーザー登録ページを作成する事になります。

この際、[CreateUserWizard] コントロールを使用する事で、容易にユーザー登録ページを作成する事ができます。

6.2 属性ごとに異なるコンテンツを表示

会員のユーザー属性に応じて、異なるコンテンツを表示させることができます。ユーザーの [勤務先所在地] や [興味] を基に異なるコンテンツを表示させる方法を説明します。

まず最初に、ユーザー属性を登録し、そしてユーザー属性により異なるコンテンツを表示させるための Web パーツを作成します。最後に複数のユーザーでログインし、Web パーツに異なるコンテンツが表示されることを確認します。

ここでは user1 および user2 の [勤務先所在地] と [興味] を以下のように設定し、これを基に表示するコンテンツを変更させます（ここでは、[勤務先所在地] に異なるコンテンツを表示させます）。

ユーザー名	勤務先所在地	興味
user1	東京	SharePoint
user2	千葉	InfoPath

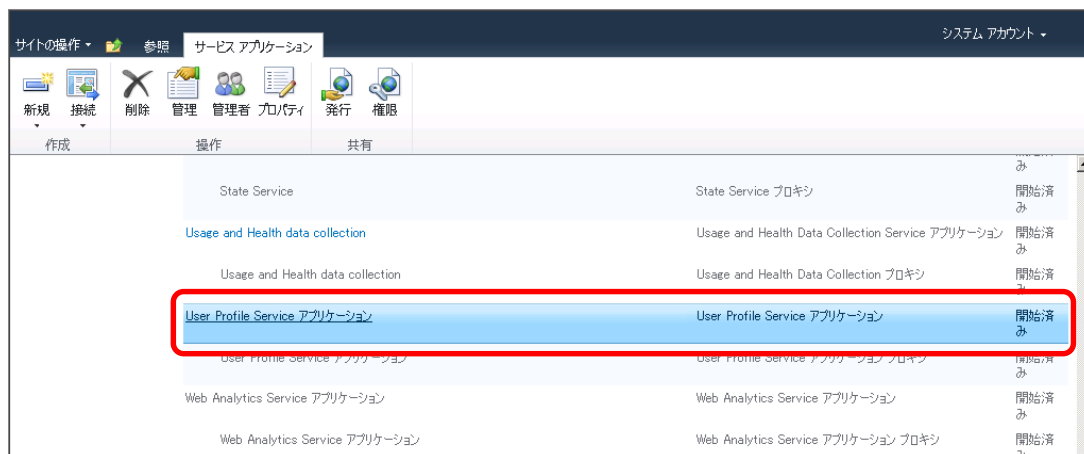
6.2.1 ユーザープロファイルへ属性を登録

まず、user1 と user2 のユーザープロファイルに勤務先所在地、興味を設定します。

1. [サーバー全体の管理] - [アプリケーション構成の管理] [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。



2. [User Profile Service アプリケーション] をクリックします。



3. [ひと] - [ユーザー プロファイルの管理] をクリックします。



4. [プロフィールの検索] に [User 1] と入力し、[検索] をクリックします。

検索結果が表示されます。

user1 のプロフィールを編集します。

5. user 1 の[勤務先所在地] を「東京」と入力し、[興味] を「SharePoint」 と入力します。

[保存して閉じる] をクリックします。

6. 同様に、User 2 の[勤務先所在地] を「千葉」と入力し、[興味] を「InfoPath」と入力します。
[保存して閉じる] をクリックします。

これで user 1 と user 2 のユーザープロフィールに勤務先所在地、興味が設定されました。

The screenshot shows the 'Edit Profile' page for a user in SharePoint 2010. The page has a dark blue header with 'サイトの操作' and '参照' on the left, and 'システム アカウント' on the right. The main content area is a light purple table with various user profile fields. Two fields are highlighted with red rectangles:

- 勤務先所在地:** The text '千葉' (Chiba) is entered in the input field. Below the field, there is a note: '現在の場所を入力してください。例: 中国、東京、西キャンパスなど'.
- 興味:** The text 'InfoPath' is entered in the input field. Below the field, there is a note: '個人的な興味やビジネスに関する関心を公開します。ニュースフィードのイベントを通じて、これらの分野に関連するアラートや通知の提供が提供されます。'.

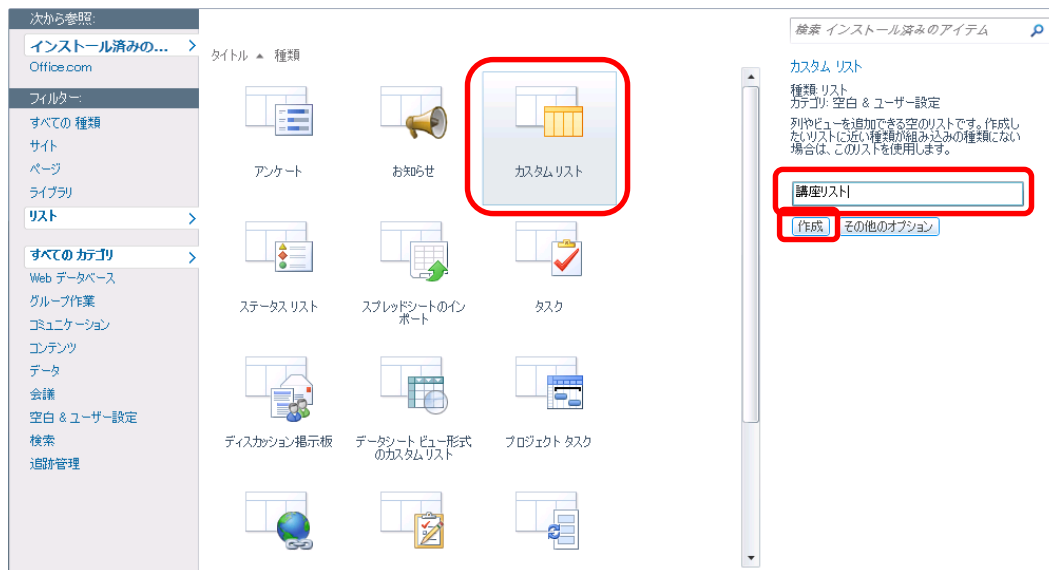
Other fields visible include: 電話番号 (自宅), オフィス, タイムゾーン, アシスタント, 以前のプロジェクト, スキル, 教育関係, 誕生日, and 電子メールの通知 (with three checked options).

6.2.2 コンテンツの作成

【講座リスト】という【カスタムリスト】を追加し、地域、製品の違う講座を登録します。そのリストにフィルターを設定します。

1. 【サイトの操作】 - 【その他のオプション】 をクリックします。
【フィルター】 の 【リスト】 をクリックし、【カスタムリスト】 をクリックします。

名前に【講座リスト】 と入力し、【作成】 をクリックします。



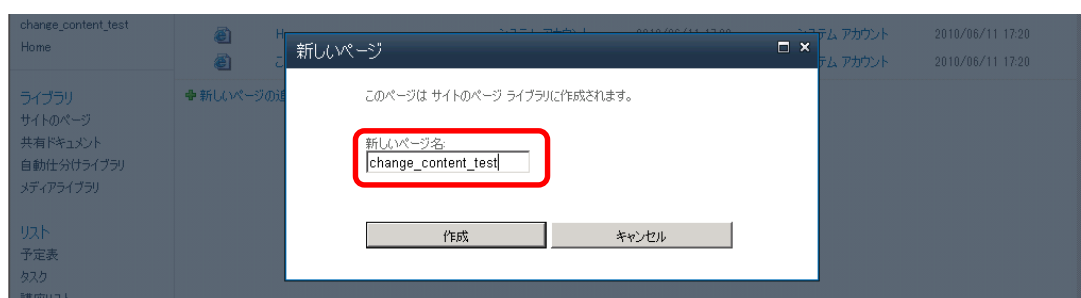
2. [リスト] に [講座リスト] が追加されました。

ここでは、講座名、地域、製品を以下のように入力してください。

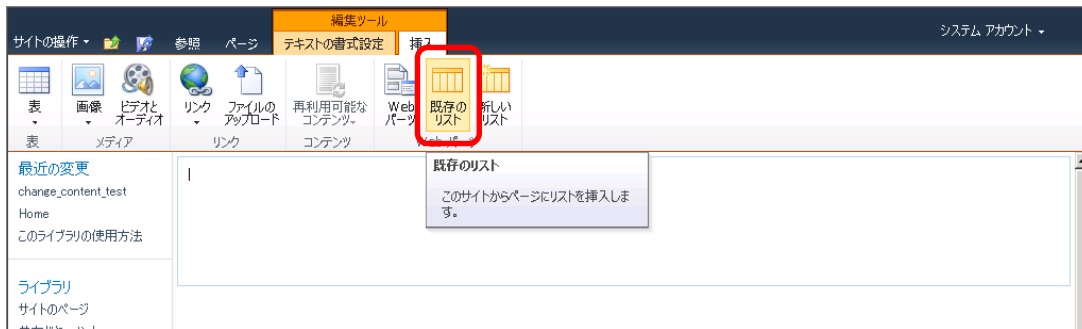
講座名	地域	製品
SharePoint 講座 - 初級 -	東京	SharePoint
SharePoint 講座 - 上級 -	東京	SharePoint
InfoPath 講座 - 初級 -	東京	InfoPath
SharePoint 講座 - 初級 -	千葉	SharePoint
InfoPath 講座 - 初級 -	神奈川	InfoPath
InfoPath 講座 - 上級 -	神奈川	InfoPath



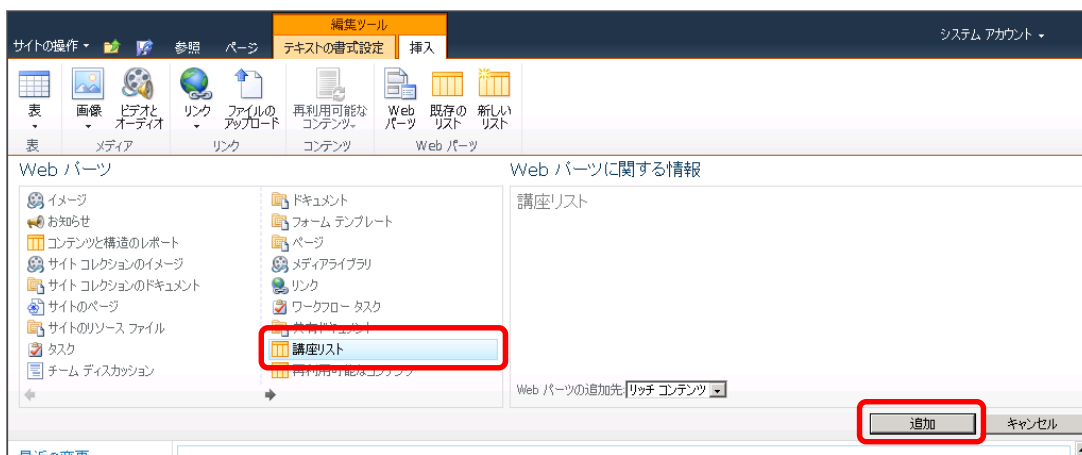
3. [ホーム] - [サイトのページ] - [新しいページの追加] をクリックし、[change_content_test] を作成します。



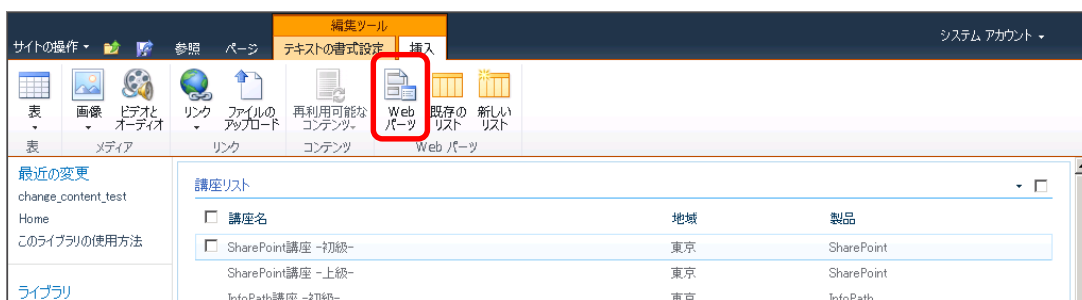
4. [編集ツール] - [挿入] - [既存のリスト] をクリックします。



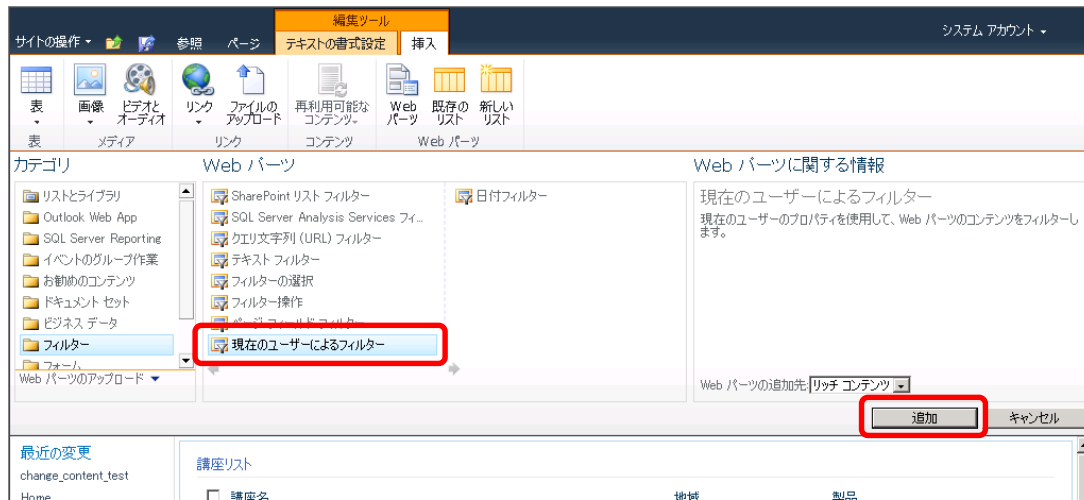
5. [Web パーツ] から [講座リスト] をクリックし、[追加] をクリックします。



6. [編集ツール] - [挿入] - [Web パーツ] をクリックします。



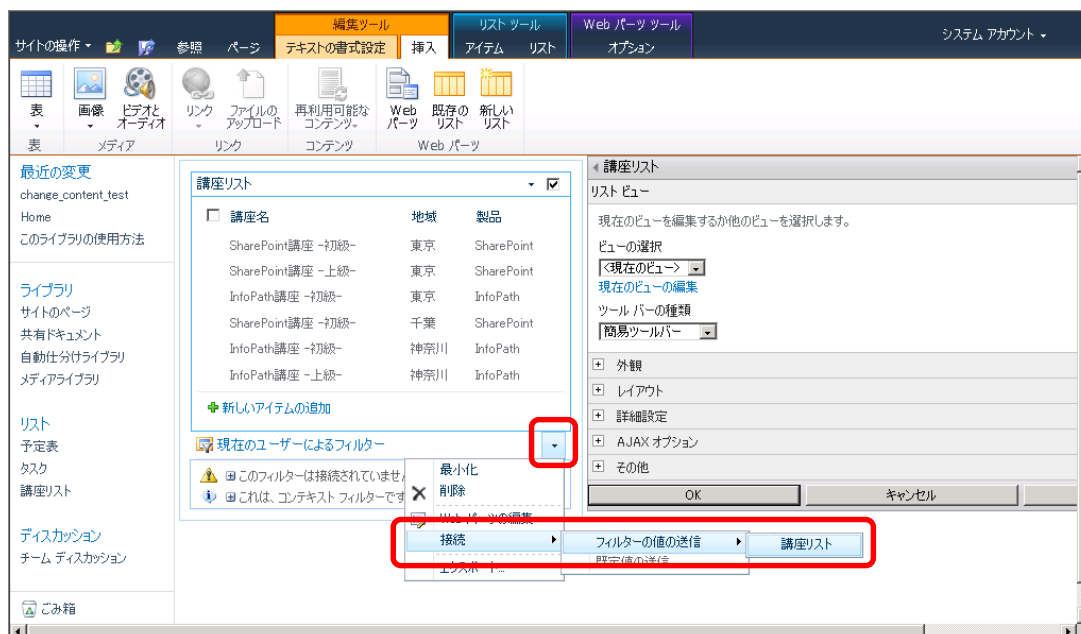
7. [カテゴリ] から [フィルター]、[Web パーツ] から [現在のユーザーによるフィルター] をクリックし、[追加] をクリックします。



8. [講座リスト] の▼をクリックし、[Web パーツの編集] をクリックします。



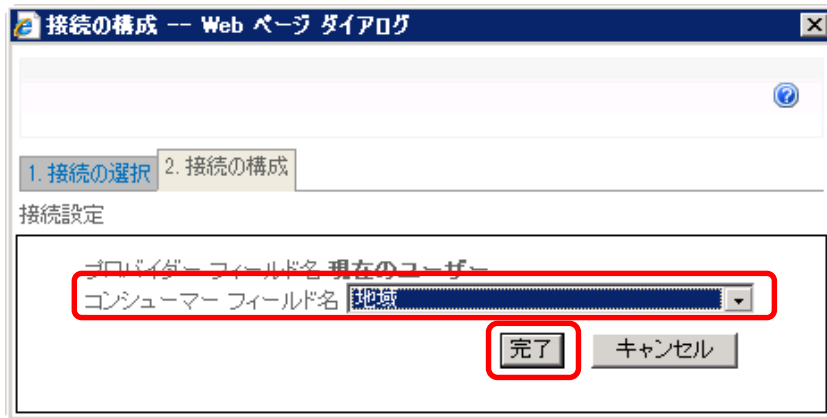
9. [現在のユーザーによるフィルター] の▼をクリックし、[接続] - [フィルターの値の送信] - [講座リスト] をクリックします。



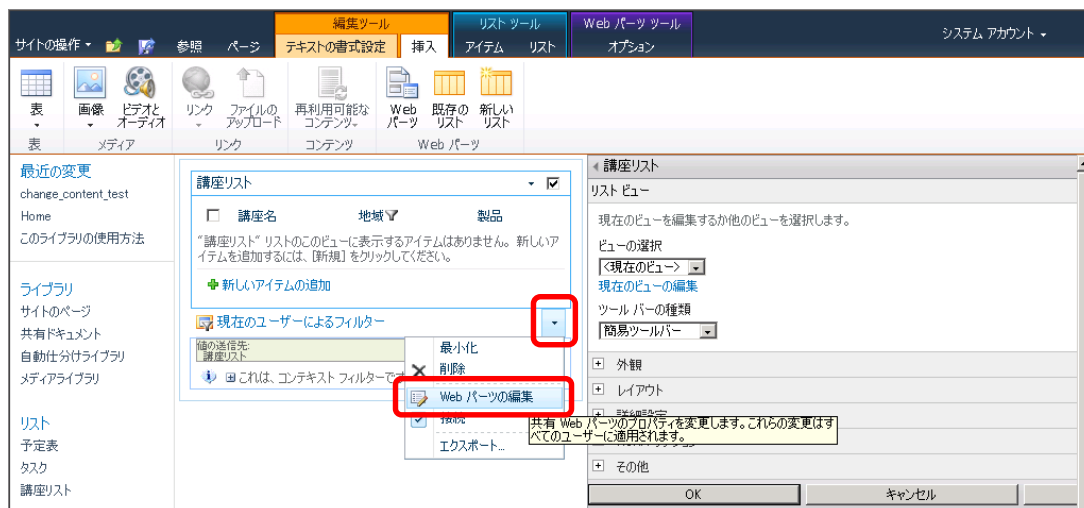
10. [接続の選択] が立ち上がります。
[2.接続の構成] をクリックします。



11. [コンシューマー フィールド名] から [地域] を選び、[完了] をクリックします。

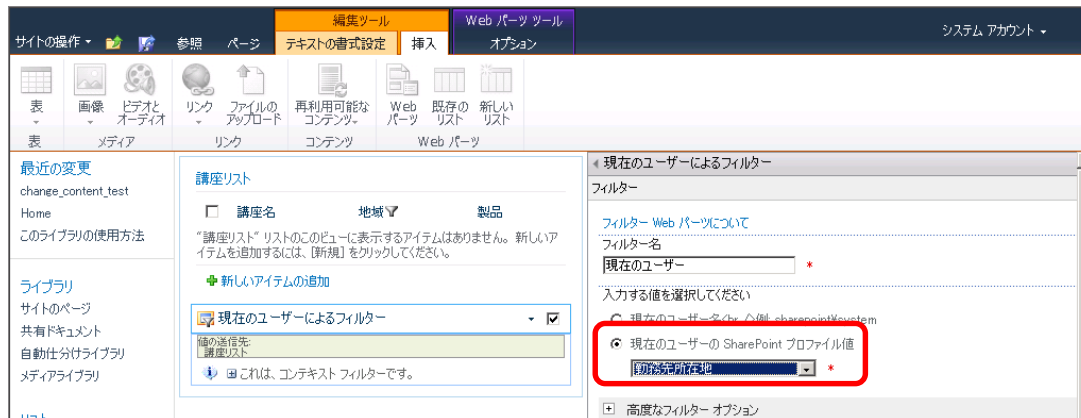


12. [現在のユーザーによるフィルター] の▼をクリックし、[Web パーツの編集]をクリックします。



13. [フィルター] の [現在のユーザーの SharePoint プロファイル値] をオンにし、[勤務先所在地] を選びます。

[OK] をクリックします。



14. [保存して閉じる] をクリックします。

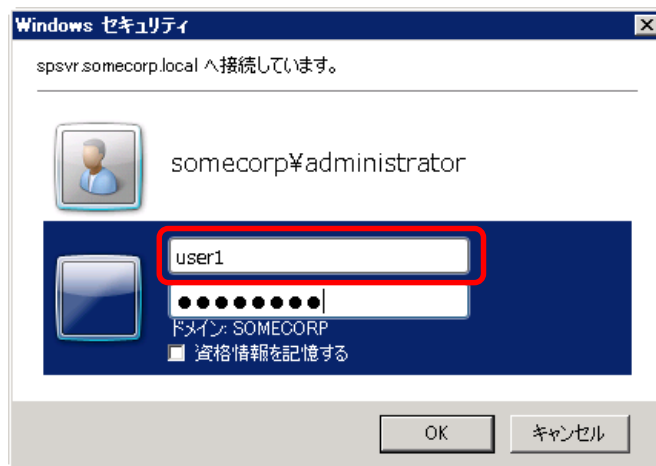


6.2.3 表示の確認

1. [システムアカウント] - [別のユーザーとしてログイン] をクリックします。



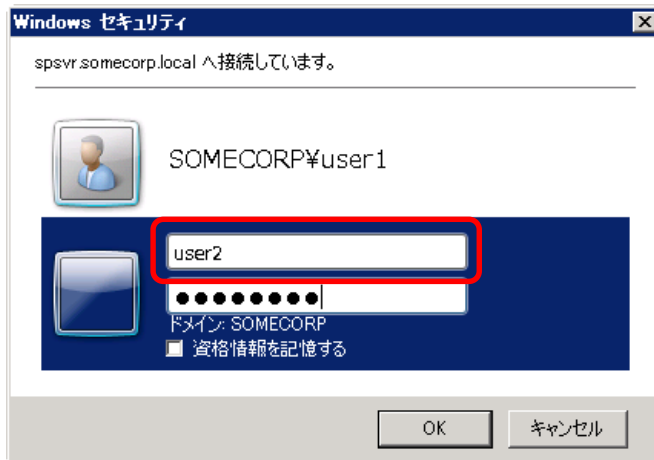
2. user 1 でログインします。



3. user 1 でログインすると [講座リスト] に [SharePoint 講座 - 初級 -] [SharePoint 講座 - 上級 -] [InfoPath 講座 - 初級 -] が表示されます。



4. User 2 でログインします。



5. user 2 でログインすると [講座リスト] に [SharePoint 講座 - 初級 -] が表示されます。



6.3 属性ごとに異なる検索結果を表示

会員のユーザー属性に応じて、検索結果表示を変えることができます。
ただし、そのためには FAST Search Server 2010 for SharePoint をインストールする必要があります。

FAST Search Server 2010 for SharePoint のインストール方法につきましては、下記ドキュメントを参照願います。

「FAST Search Server 2010 for SharePoint インストールガイド」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/ff358322.aspx>

また、会員のユーザー属性によって検索結果表示を変える方法は、下記ドキュメントを参照願います。

「エンタープライズ検索 / FAST Search Server 2010 for SharePoint 活用ガイド」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/ff358322.aspx>

同様のキーワード検索でも、ユーザーごとに異なる検索結果が表示されます。

The screenshot shows the FASTSearch Site interface. The search bar contains 'SharePoint'. The results are filtered by '製品名' (Product Name) and show 137 items. The top result is 'Hyper-V のコスト優位性を徹底検証' (Thoroughly Verifying the Cost Advantage of Hyper-V), which is a PowerPoint presentation. The interface includes a sidebar with filters for '製品名' (Product Name), '人名' (Person Name), and 'ロケーション' (Location). The user is identified as 'CONTOSO#ms'.

The screenshot shows the FASTSearch Site interface. The search bar contains 'SharePoint'. The results are filtered by '製品名' (Product Name) and show 137 items. The top result is 'tech.ed Japan 2010 残席わずか' (tech.ed Japan 2010, Almost No Seats Left), which is a PowerPoint presentation. The interface includes a sidebar with filters for '製品名' (Product Name), '人名' (Person Name), and 'ロケーション' (Location). The user is identified as 'Microsoft Japan'.

6.4 属性情報のインポート

これまでの手順では、管理ツールを使用して、ユーザーの[勤務先所在地]や[興味]を入力しましたが、一般的には個人用サイトを使用して、各ユーザーが自身のプロフィール(属性)情報を入力します。しかし、場合によっては、会員登録の際にプロフィール情報を収集したり、既存の顧客管理システムのプロフィール情報を利用する場合もあります。その場合、SQL Server などのデータベースや WCF サービスのような外部サービスからプロフィール情報を取得する必要があります。幸いにも SharePoint Server 2010 には、BCS (Business Connectivity Services) があるため、外部システムからデータをインポート、エクスポートする事ができます。BCS を活用することで、外部システムからプロフィール情報を自動的にインポートする事が容易に実現可能です。

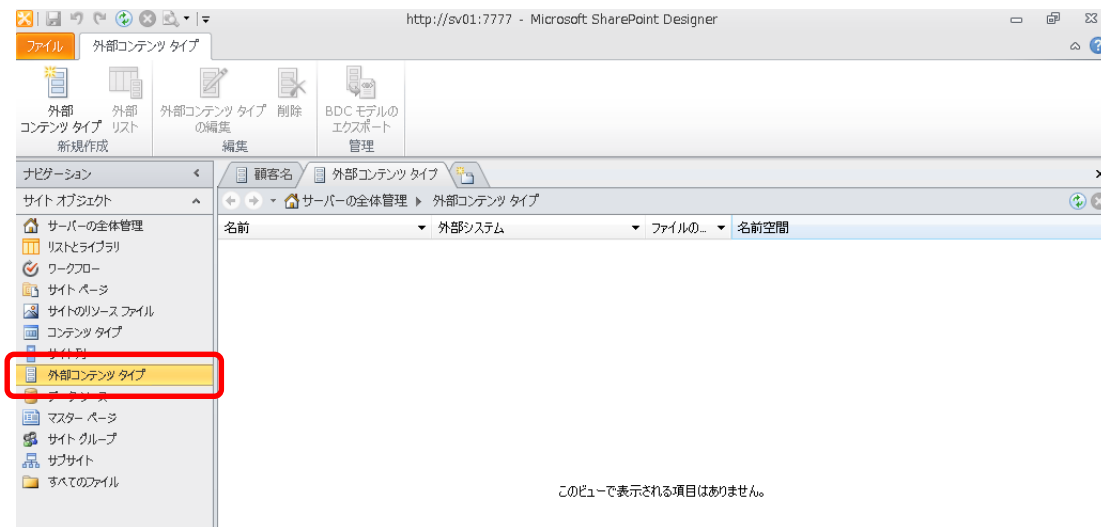
6.4.1 外部コンテンツタイプの作成

今回の例では SQL Server 2008 R2 上にあるサンプルデータベース (NorthwindJ) の社員テーブルから、[在籍支社]情報を取得する事にします。あらかじめ社員テーブルには次の図のようなデータが格納されており、[在籍支社]列のデータ型は `nvarchar(20)` で定義されています。また、[社員コード]列のデータ型は `int` で主キーとして定義されています。

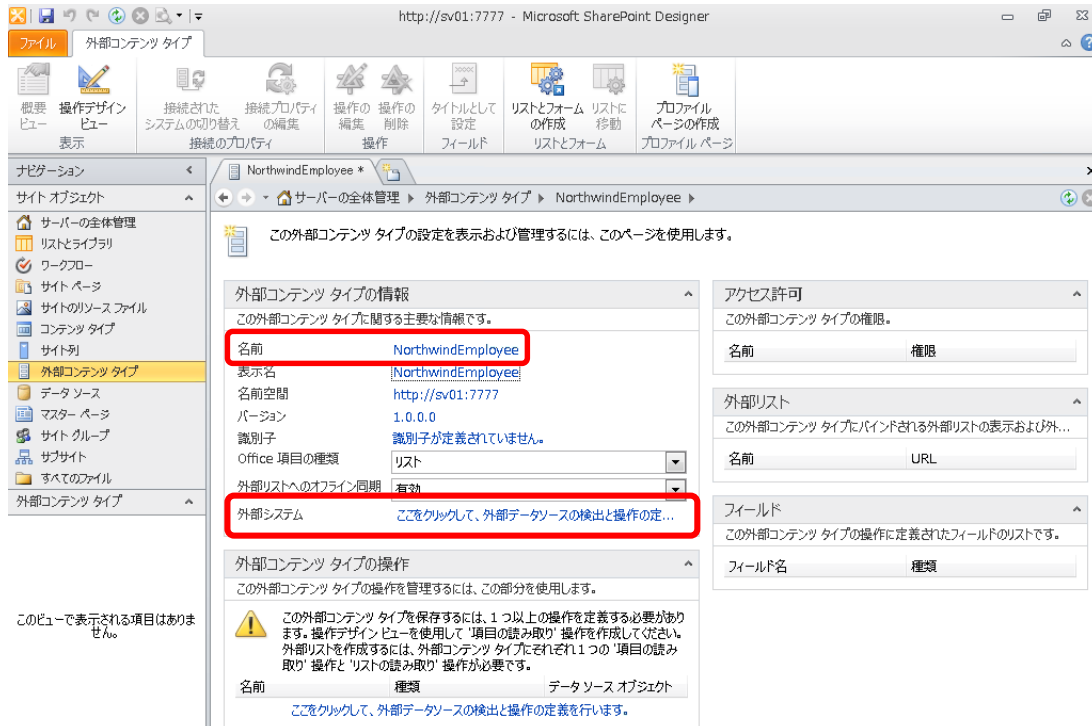
	社員コード	フリガナ	氏名	在籍支社	部署名	誕生日
1	105	モリウエ イクマ	森上 偉久馬	東京本社	第一営業	1967-10-25 00:00:00
2	107	カツラギ コウシ	葛城 孝史	東京本社	第二営業	1961-02-03 00:00:00
3	110	カトウ ヤスエ	加藤 泰江	東京本社	第一営業	1968-02-02 00:00:00
4	204	カワムラ タダシ	川村 匡	大阪支社	営業開発	1957-12-08 00:00:00
5	207	マツザワ セイイチ	松沢 誠一	大阪支社	営業開発	1965-03-30 00:00:00
6	210	ナルミヤ マキ	成宮 真紀	大阪支社	営業一	1968-03-03 00:00:00
7	304	ヤモト マサハル	山本 雅治	北九州支社	営業一	1967-01-16 00:00:00
8	305	アオキ トシユキ	青木 俊之	北九州支社	営業一	1966-08-21 00:00:00
9	307	オガワ サヨコ	小川 さよ子	北九州支社	営業二	1966-09-23 00:00:00

1. [Microsoft SharePoint Designer 2010] を起動し、[SharePoint 2010 サーバーの全体管理] サイトを開きます。

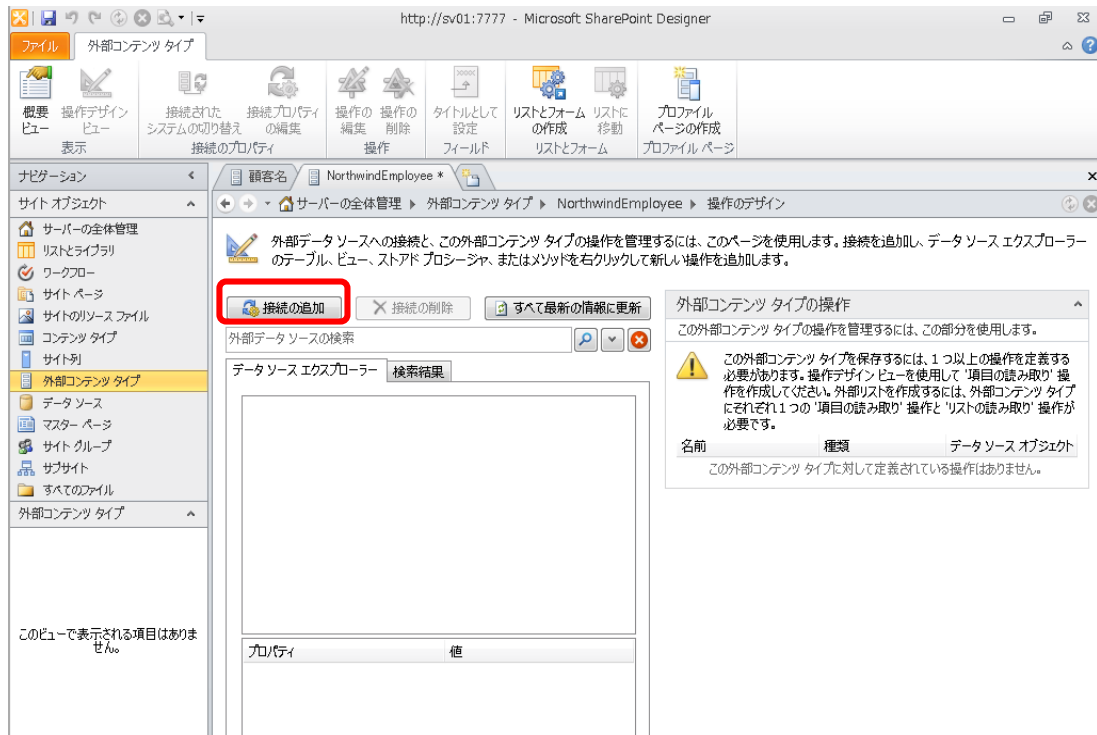
2. [ナビゲーション] ウィンドウで [外部コンテンツ タイプ] をクリックします。



3. [外部コンテンツ タイプ] 画面が表示されます。
リボン内の [新規作成] グループにある [外部コンテンツ タイプ] をクリックします。
4. [外部コンテンツ タイプの情報] にある [名前] に「NorthwindEmployee」と入力します。
[外部システム] の [ここをクリックして、外部データソースの検出と・・・] リンクをクリックします。



5. [操作のデザイン] 画面が表示されます。
[接続の追加] をクリックします。



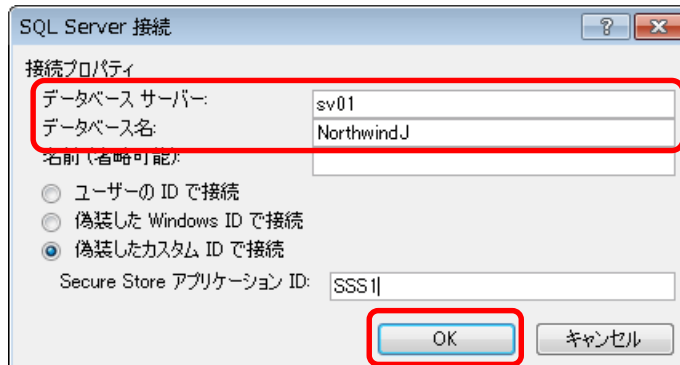
6. [外部データ ソース タイプの選択] ダイアログ ボックスが表示されるので、今回は [SQL Server] を選択し、[OK] をクリックします。

7. [SQL Server 接続] が表示されます。

[データベース サーバー]、[データベース名] を適切に入力します。

さらに、データを取得するデータベースに正しくアクセスできるよう、適切なセキュリティ設定を行います。

[OK] をクリックします。

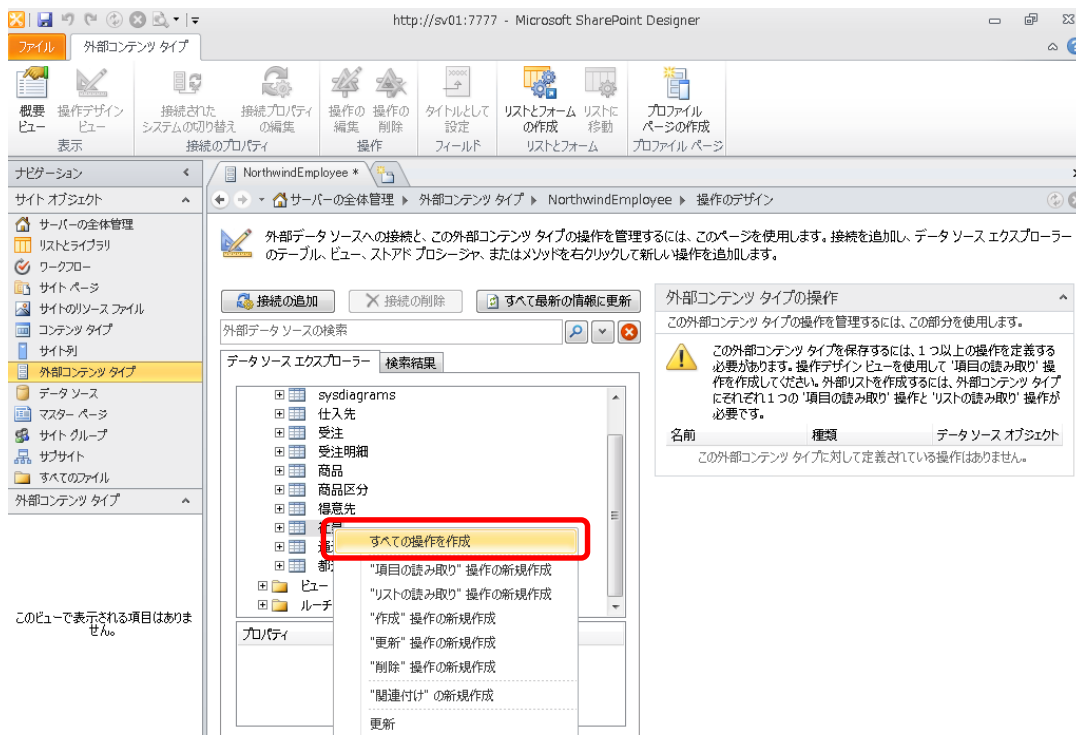


※ プロファイル情報を取得するのは、[User Profile Synchronization Service] によって実行されます。このサービスが正しくデータソースにアクセスできる必要があります。

※ この例では SSS (Secure Store Services) を使用して、[User Profile Synchronization Service] のサービス アカウントが SQL Server にアクセスできるアカウントにマッピングされるように事前に設定してあります。

8. [データソース エクスプローラー] にデータベースへの接続定義 [NorthwindJ] が表示されます。

[NorthwindJ] を展開し、[社員] テーブルを右クリックし、[すべての操作を作成] をクリックします。

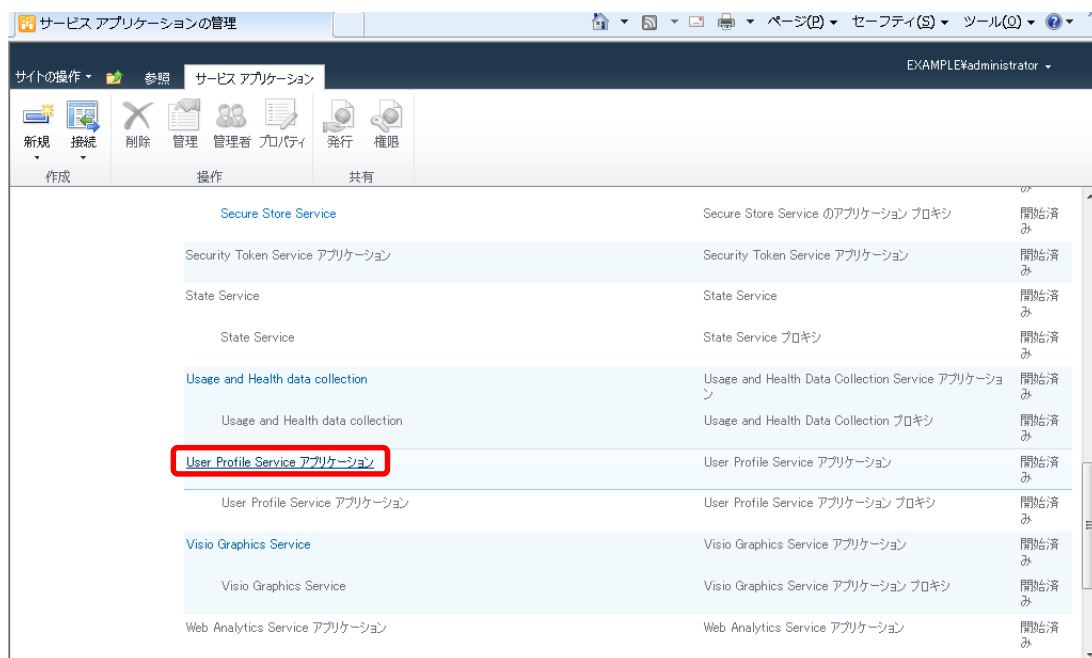


9. [すべての操作] ウィザードが表示されます。
今回はフィルター等を設定する必要がないので [完了] をクリックします。
10. これで [外部コンテンツ タイプ] の定義が完了しました。
[ファイル] タブの [上書き保存] をクリックし、メタデータ ストアに作成したコンテンツ タイプを保存します。
11. SharePoint Designer 2010 を終了します。

6.4.2 ユーザー プロパティの作成

データベースから取得したユーザー情報を格納するためのユーザー プロパティを作成します。今回は取得した [在籍支社]情報を格納する [Branch] プロパティを作成します。しかし、データベースには複数社員のデータが格納されており、その中から特定社員情報のみを取得する必要があります。今回は特定の社員を識別するために、社員コードを使用します。標準では、社員コードを格納するプロパティがないため、まずは [EmployeeCode] プロパティを作成します。その後、先に作成した外部コンテンツタイプを使用して、[同期接続] を作成します。この際に、[EmployeeCode] プロパティでデータをフィルターします。ここまでの設定で準備は完了です。後は、データベースから取得するデータのユーザー プロファイルとして使用するかを指定するために、ユーザー プロパティを作成するだけです。

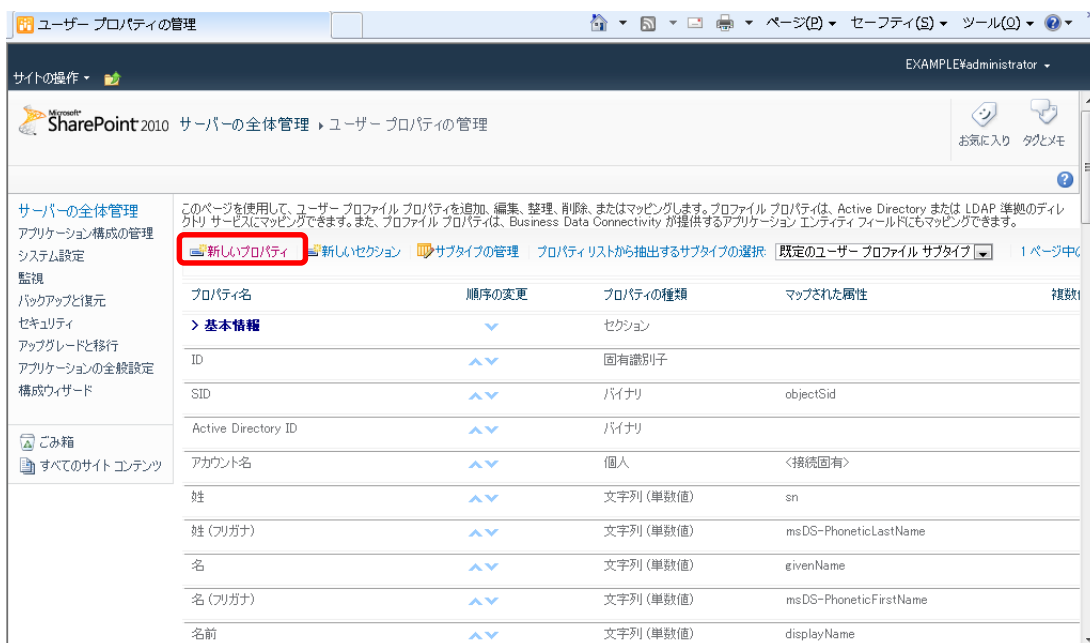
1. [SharePoint 2010 サーバーの全体管理] を開きます。
2. [アプリケーション構成の管理] にある [サービス アプリケーションの管理] をクリックします。
3. [サービス アプリケーション] の一覧から [User Profile Service アプリケーション] リンクをクリックします。
([サービス アプリケーション] の名前はサーバー構成時に任意の名前を指定できるため、異なる可能性があります)。



4. [プロファイル サービスの管理] が表示されます。
[ひと] - [ユーザー プロパティの管理] をクリックします。



5. [ユーザー プロパティの管理] が表示されます。
[新しいプロパティ] をクリックします。



6. [ユーザー プロファイル プロパティの追加] が表示されます。

[プロパティの設定] の [名前]、[表示名] に任意の設定を行います。[種類] はデータベースのデータ型と同じ（または互換性のある）データ型を選択します。今回は [社員コード] 列のデータを参照（フィルター）するために使用するプロパティを作成するため、[社員コード] 列と同じ [整数] を選択します。

Microsoft SharePoint 2010 サーバーの全体管理 ユーザー プロファイル プロパティの追加

お気に入り タグとメモ

サーバーの全体管理 このページを使用して、ユーザー プロファイルにプロパティを追加します。

アプリケーション構成の管理 *

システム設定 *

監視

バックアップと復元

セキュリティ

アップグレードと移行

アプリケーションの全般設定

構成ウィザード

プロパティの設定

このプロパティのプロパティ設定を指定します。名前は、User Profile Service (によって、プロパティに対してプログラム的に使用され、表示名はプロパティが表示されるときにラベルとして使用されます。プロパティの作成後に変更できるのは表示名だけです。

名前: * EmployeeCode

表示名: * EmployeeCode

言語の編集

種類: 整数

既定のユーザー プロファイル サブタイプ

既定のユーザー プロファイル サブタイプ

ユーザー向け説明

このプロパティについて、ユーザーへの指示や情報などの説明を入力してください。この説明は、[詳細の編集] ページに表示されます。

説明:

言語の編集

7. [ポリシー設定] の [ポリシー設定] で [任意] を選択し、[既定のプライバシー設定] で [すべてのユーザー] を選択します。その後は既定値のままで [OK] をクリックします。

ポリシー設定

このプロパティに適用するプライバシー ポリシーを指定します。すべてのサイトのユーザー情報リストにこのプロパティを表示するには、[レプリケート] チェック ボックスをオンにします。プロパティを複製するには、既定のプライバシーを「すべてのユーザー」に設定し、ユーザーによる上書きを許可する] チェック ボックスをオフにしておく必要があります。

設定の編集

ユーザーが、自分のユーザー プロファイルの中でこのプロパティの値を変更できるかどうかを指定します。プロパティの管理権限を持つユーザーは、すべてのユーザーのプロパティの値を変更できます。

表示設定

プロパティを個人用サイトのプロフィール ページの [プロフィール プロパティ] セクションに表示するかどうか、[詳細の編集] ページに表示するかどうか、およびこのプロパティの値が変更された場合にユーザー プロファイルの変更ログに表示するかどうかを指定します。

注意: これらの表示設定は、ユーザーのプライバシー設定に従います。

検索の設定

エリニアされたプロパティは、ユーザーが作成したアイテムを検索するとき、ユーザーにアイテムを参照するとき、またはユーザーの個人用サイトのドキュメント Web パーツでアイテムを表示するとき、ユーザー名およびアカウント名と同じように扱われます。

インデックスのプロパティは、検索エンジンによってクロールされ、ひとの検索範囲スキーマに追加されます。プロパティに検索対象のひとの関連情報が含まれている場合、またはひとの検索結果にデータを表示する場合にのみ、プロパティのインデックスを作成してください。

同期のためのプロパティ マッピング

既存のマッピングを削除または変更するには、[削除] をクリックします。

ポリシー設定

任意

既定のプライバシー設定:

すべてのユーザー

ユーザーによる上書きを許可する

レプリケート

ユーザーがこのプロパティの値の編集を許可する

ユーザーがこのプロパティの値の編集を許可しない

ユーザーのプロファイル ページの [プロフィール プロパティ] セクションに表示する

詳細の編集ページに表示する

ニュース フィードのプロパティに対する更新を表示する

エリニア

インデックス

このビューに表示するアイテムはありません。

8. 次に、[在籍支社] 情報を保存するための [Branch] プロパティを作成します。

このプロパティを作成するためには、先に作成した BCS を使用したユーザー プロファイルの同期接続を事前に構成しておく必要があります。

[プロファイル サービスの管理] に戻ります。

(直接戻ることができないので、[サービス アプリケーションの管理] から移動します)。

[同期] にある [同期接続の構成] をクリックします。



9. [同期接続] が表示されます。

[新しい接続の作成] をクリックします。



※ Active Directory との同期接続が正しく構成されている必要があります。

10. [新しい同期接続の追加] が表示されます。

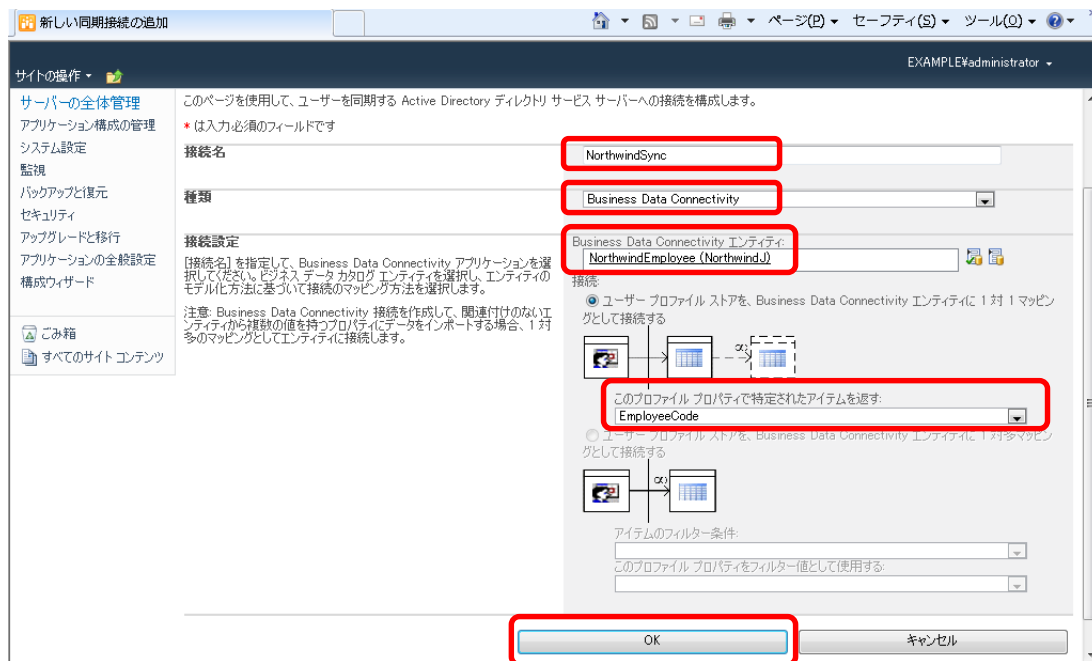
[接続名] に任意の名前を入力し、[種類] で [Business Data Connectivity] を選択します。

さらに、[接続設定] で今回作成した外部コンテンツ タイプ ([NorthwindEmployee]) を指定します。

最後に、[ユーザー プロファイル ストアを、Business Connectivity エンティティに 1 対 1 マッピングとして接続する] がオンになっていることを確認し、[このプロファイル プロパティで特定されたアイテムを返す] で、今回作成したプロパティ ([EmployeeCode]) を指定します。

[外部コンテンツ タイプ] では [社員] テーブルのデータを全件取得する設定になっていましたが、この同期接続の設定によって、[社員コード] でフィルターされた単一データに絞り込む事ができます。今回の例では [社員コード] を手動で入力する事になります。

[OK] をクリックします。



※ [このプロファイル プロパティで特定されたアイテムを返す] の一覧に表示されるプロパティは、[種類] で指定した BCS の定義にて取得されるデータソースの主キーと同じデータ型のプロパティしか表示されません。今回の場合、[社員コード] 列が主キーであり、データ型が [整数] ([int]) なので、既定のプロパティでは [表示順]、[電子メールの通知] しか表示されません。

11. [同期接続] に戻ります。

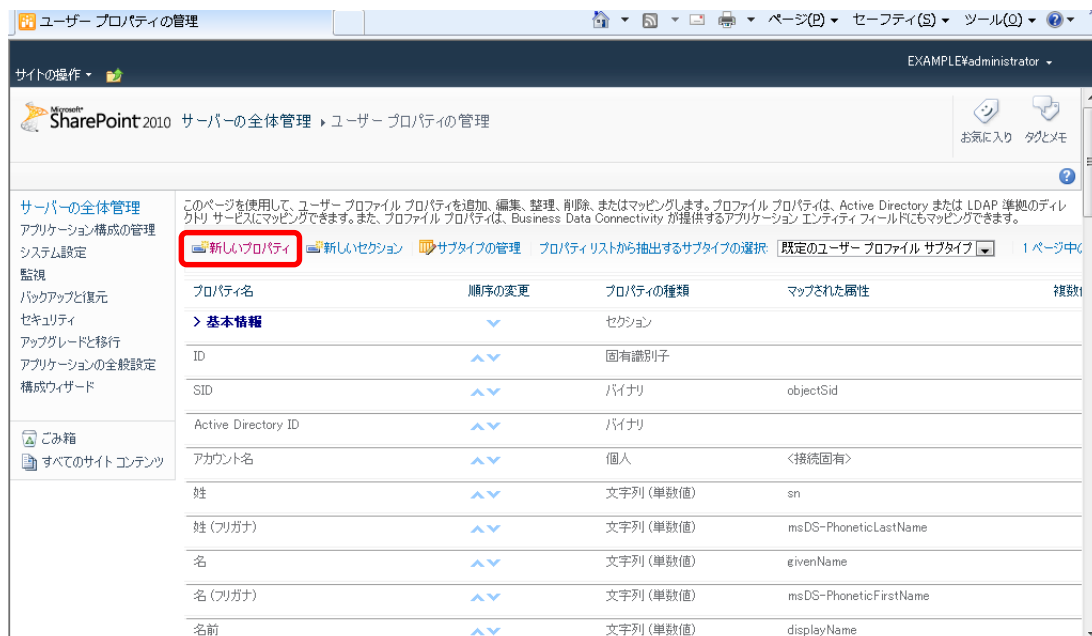
[種類] が [Business Data Connectivity] の同期接続が作成されたことを確認します。
Business Data Connectivity は BCS : Business Connectivity Services の別名 (SharePoint 2007 のバージョンで使用されていた名前) です。



12. [ユーザー プロパティの管理] に移動します。

前の手順の [同期接続] からは直接のリンクがないので、[サービス アプリケーションの管理] から移動します。

[在籍支社] 情報を保存するための [Branch] プロパティを作成するため、[新しいプロパティ] をクリックします。



13. [ユーザー プロファイル プロパティの追加] が表示されます。

[プロパティの設定] の [名前]、[表示名] に「Branch」、[長さ] に「20」と入力します。

[ポリシー設定] の [ポリシー設定] で [任意] を選択し、[既定のプライバシー設定] で [すべてのユーザー] を選択します。

ユーザー プロファイル プロパティの追加

サイトの操作

- システム設定
- 監視
- バックアップと復元
- セキュリティ
- アップグレードと移行
- アプリケーションの全般設定
- 構成ウィザード

EXAMPLEAdministrator

プロパティの設定

このプロパティのプロパティ設定を指定します。名前は、User Profile Service によって、プロパティに対してプログラム的に使用され、表示名はプロパティが表示されるときにラベルとして使用されます。プロパティの作成後に変更できるのは表示名だけです。

名前: * Branch

表示名: * Branch

言語の編集

種類: 文字列 (単数値)

長さ: 20

☐ このプロパティに使用する用語セットの構成

プロファイルのサブタイプ

このプロファイル プロパティに関連付ける、ユーザー プロファイルのサブタイプを選択してください。

☒ 既定のユーザー プロファイル サブタイプ

ユーザー向け説明

このプロパティについて、ユーザーへの指示や情報などの説明を入力してください。この説明は、「詳細の編集」ページに表示されます。

説明

言語の編集

ポリシー設定

このプロパティに適用するプライバシー ポリシーを指定します。すべてのサイトのユーザー情報リストにこのプロパティを表示するには、[レプリケート] チェック ボックスをオンにします。プロパティを複製するには、既定のプライバシーを「すべてのユーザー」に設定し、「ユーザーによる上書きを許可する」チェック ボックスをオフにしておく必要があります。

ポリシー: 任意

既定のプライバシー設定: すべてのユーザー

☐ ユーザーによる上書きを許可する

☐ レプリケート

14. [同期のためのプロパティ マッピング] には何も定義されておりません。今回は作成した同期接続によって取得した [在籍支社] 列のデータを自動的に格納するようにマッピングを追加します。

[新しいマッピングの追加] で [ソースへのデータ接続] で 作成した同期接続である [NorthwindSync] を選択し、[属性] で [在籍支社] を選択します。
同期接続で取得される、他の列 ([ふりがな]、[氏名]、[内線] など) も指定できることを確認してください。今回は同じ手順の繰り返しになるため、[在籍支社] 以外のプロパティは作成しませんが、必要に応じて、複数のプロパティを設定する事が可能です。

[同期のためのプロパティ マッピング] に正しく追加されたことを確認し、[OK] をクリックします。

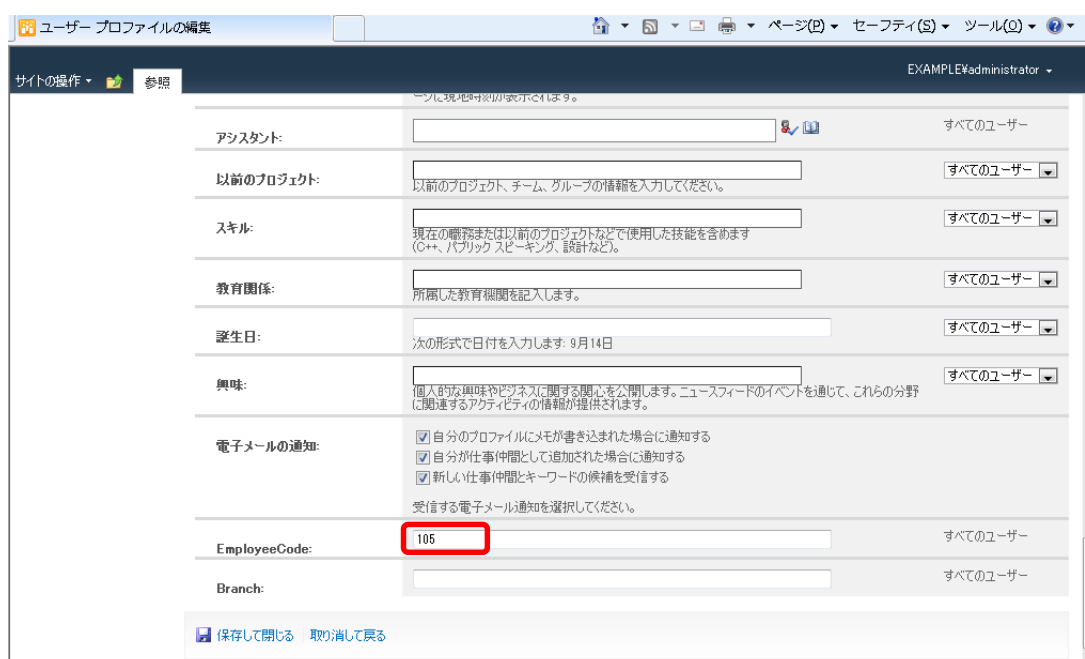


15. [ユーザー プロファイルの管理] に移動します。前の手順の [ユーザー プロパティの管理] からは直接のリンクがないので、[サービス アプリケーションの管理] から移動します。
[ユーザー プロファイルの管理] をクリックします。



16. [ユーザー プロファイルの管理] が開きます。

同期したいユーザーを検索し、[アカウント] 名のドロップダウン メニューから [個人用プロファイルの編集] をクリックします。

**17. [EmployeeCode] にデータベースに実在する [社員コード] を入力し (次の図では 105)、[保存して閉じる] をクリックします。**

18. [ユーザー プロファイルの管理] に戻ります。

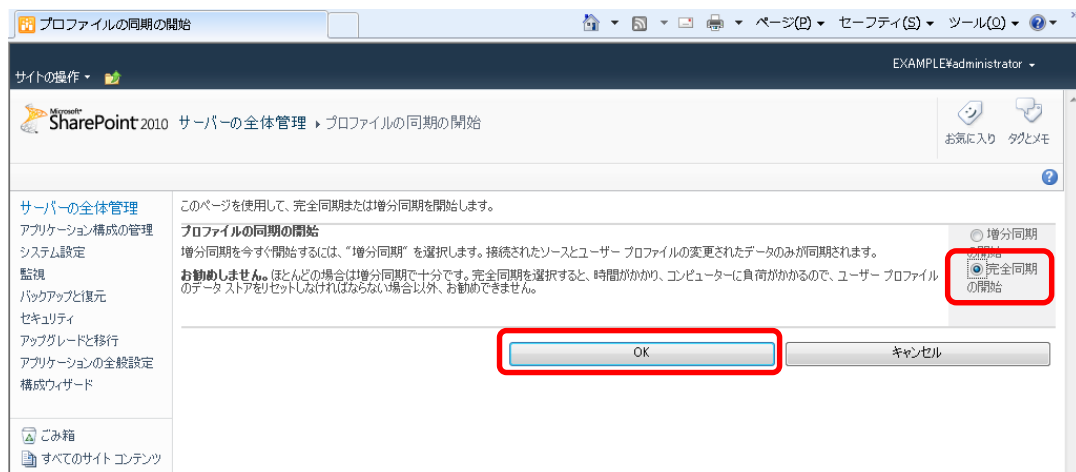
全ての設定が終わったので、実際にプロファイル インポートを実行します。

[プロファイル サービスの管理] に移動します。[ユーザー プロファイルの管理] からは直接のリンクがないので、[サービス アプリケーションの管理] から移動します。

[プロファイル同期の開始] をクリックします。



19. [プロファイルの同期の開始] が表示されます。[完全同期の開始] をオンにし、[OK] をクリックします。



20. [プロファイル サービスの管理] に戻ります。

ページ右に表示されている [プロファイルの同期状態] が [アイドル] から [同期中] に変わります。数分後に画面表示を更新します。

[プロファイルの同期状態] が [アイドル] に戻ると同期が完了しています。

**21. [ユーザー プロファイルの管理] に移動し、[EmployeeCode] を入力したユーザーを検索し、[アカウント] 名のドロップダウン メニューから [個人用プロファイルの編集] をクリックします。**

データベースから取得した値 ([東京本社]) が [Branch] に表示されます。

EmployeeCode:	105	すべてのユーザー
Branch:	東京本社	すべてのユーザー

保存して閉じる 取り消して戻る

今回の例では [EmployeeCode] を手入力しましたが、SharePoint 標準のユーザー プロパティには Active Directory から同期されるものも多くあります。それらのプロパティを使用して、追加のプロパティをデータベースから取得する (手入力が不要) 事も可能です。ただし、手順中にも記載しましたが、同期接続を作成する際、フィルターとして使用するプロパティのデータ型とデータベースの主キーのデータ型が一致している必要がありますので注意が必要です。また、BCS を使用してインポートしたユーザー プロパティを元に、ポータル ページの表示のカスタマイズや検索結果のカスタマイズに活用する事も可能です。これにより、インターネット公開された会員サイトの会員情報をイントラネット上の CRM データなどをインポートして活用する事も可能になります。
